

(参考様式) (第11条・第13条関係)

事業基本計画説明状況書

2025年 4月 11日作成

事業者の住所・氏名 (法人にあって、主たる事務所の所在地、名称及び代表者の氏名)		東京都港区芝二丁目2番10号中和ビル3階 GDsPJ2合同会社 代表社員 一般社団法人ジャパנקリーンエナジー1 職務執行者 松澤 公貴
事業太陽光発電施設の設置の場所		長野県塩尻市大字柿沢字永井坂886番1、886番4、887番1、887番4、886番5 (設備ID なし オフサイトPPA方式により電力売電予)
説明会開催についての周知の方法とその範囲		回覧板により東山地区及び柿沢地区にて周知を行った。
説明会の概要	日時	2025年4月1日 19時～
	場所	柿沢公民館
	参加者数	20名
	説明を行った者の氏名(法人にあっては、氏名及び役職名)	GDsPJ2合同会社 開発担当 塙 亮 GPSSエンジニアリング株式会社 設計担当 丸山 周平 土木担当 佐島 洋

注 1 説明会を2回以上開催した場合は、説明会ごとに作成すること。

(添付資料) 1 説明会で配布した説明資料

2 説明会で説明した内容、参加者の要望及び意見並びにそれらへの回答等について具体的に記載した議事録



周辺地域の住民の皆様へ GDsPJ2塩尻柿沢2太陽光発電所のご案内

再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法（平成23年法律第108号）に基づき、
説明会について（説明資料）

4月1日 第1回住民説明会資料

本説明会について

本日はご多忙のなか、弊社説明会にご参加いただき誠にありがとうございます。

本説明会は再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法（通称、再エネ特措法）に則り開催されます。2024年4月の法改正により、受付において現住所の分かる身分証明書（周辺地域の住民の皆様に限る）の提示及び説明会の録音・録画が必要となります。プライバシーを考慮し、皆様の背後からの撮影とし、対外公表いたしませんので、ご理解のほどお願い申し上げます。

また以下3点のご対応をお願い致します。

- ① 受付の名簿に記入
- ② 携帯電話のマナーモード設定
- ③ お手元の資料のご確認
 - ・ 本資料
 - ・ パネル配置図
 - ・ 造成計画図

それでは開始時刻までしばらくお待ちください。

AGENDA

1. 再工不発電事業計画の概要
2. 関係者情報
 - a. 出資者・保守点検責任者
 - b. 関係法令への遵守体制
3. 関係法令遵守状況
4. 事業用地の土地権限取得状況
5. 設置工事の概要
6. 事業の影響と予防措置
 - a. 安全面
 - b. 自然/生活環境面
 - c. 廃棄等
7. 質疑応答

1. 再工ネ発電事業計画概要

申請事業者	GDsPJ2合同会社
所在地	東京都港区芝公園二丁目2番10号中和ビル3階
設立	令和5年7月6日
資本金等	100万円
主要な株主	一般社団法人ジャパンクリーンエナジー1
従業員数	4名
代表取締役	松澤公貴
出資者	匿名組合出資（大阪瓦斯株式会社、GPSSホールディングス株式会社） （いずれも予定）

1. 再エネ発電事業計画概要

電源種	太陽光発電（高圧）
設置形態	野立て
事業期間	20年（設備状況により25年）
出力	AC675.0kW DC1029.6kW
実施場所	長野県塩尻市大字柿沢字永井坂887番1他
災害時の活用可能性	パワーコンディショナーの自立運転機能：無 給電用コンセント：無

太陽光発電所の位置図

事業用地：赤枠部分

広域図



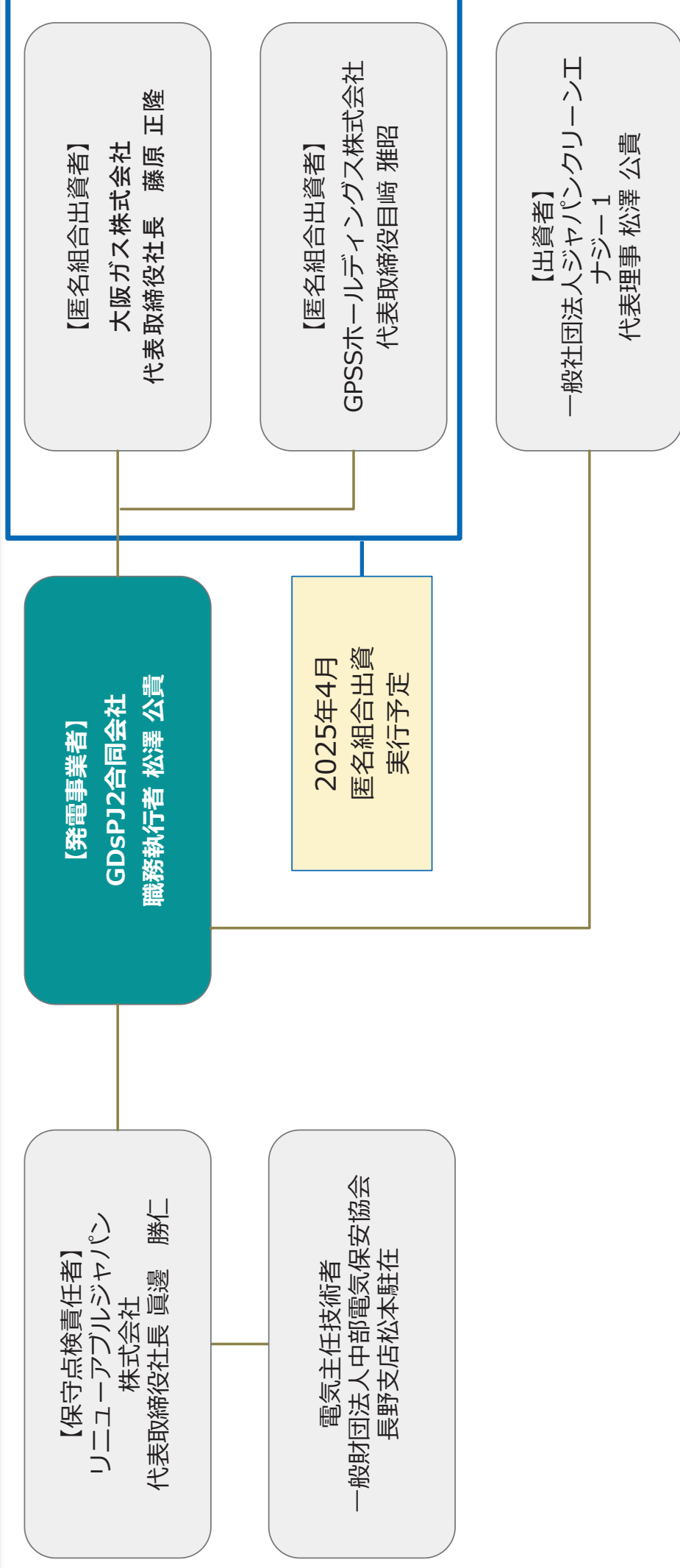
太陽光発電所の位置図

事業用地：赤枠部分

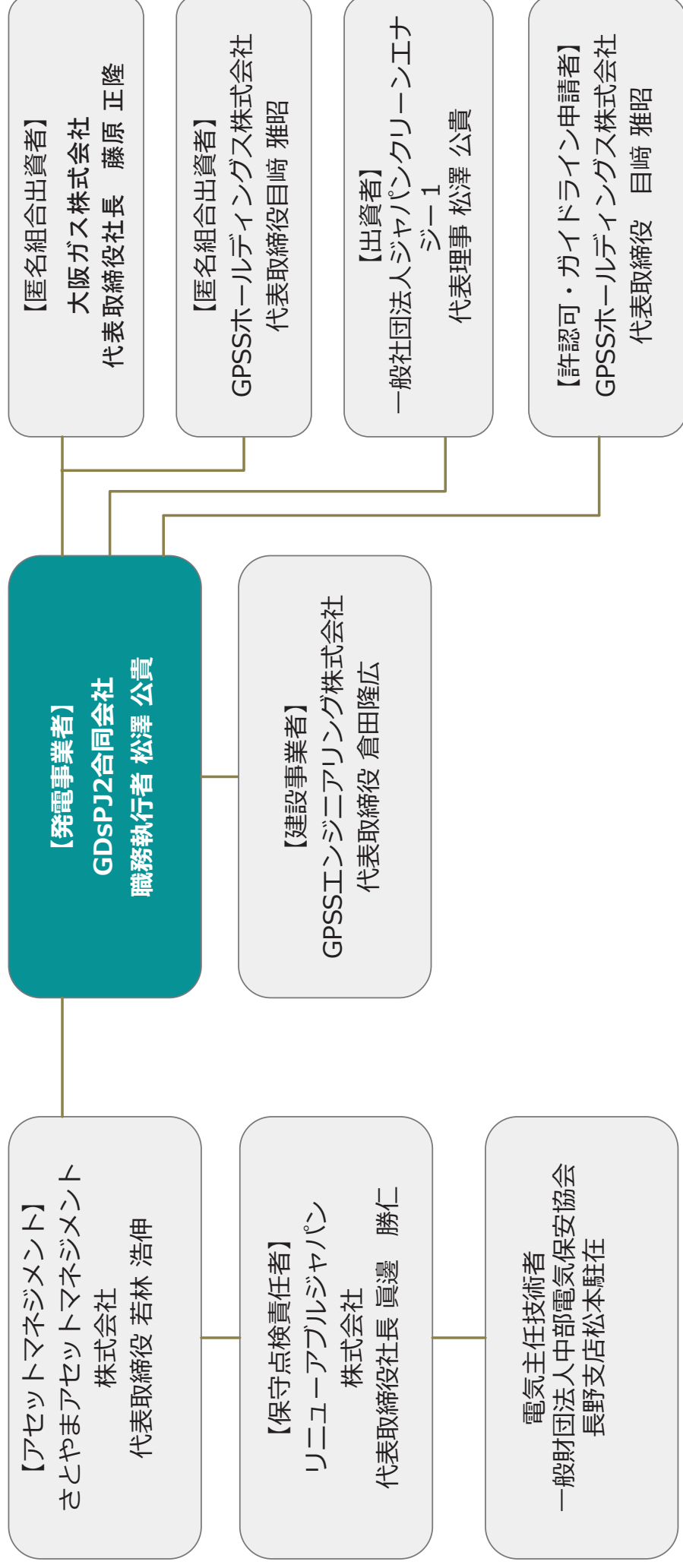
詳細図



2. 関係者情報（出資者・保守点検責任者）



2. 関係者情報（関係法令への遵守体制）



3. 関係法令遵守状況①

	法令	該当	許認可取得状況	取得予定
1	森林法における林地開発許可	非該当	—	—
2	宅地造成及び特定盛土等規制法の許可	該当	25.5.26区域指定 予定（長野県）	2025.7月頃
3	砂防三法（砂防法・地すべり等防止法・急傾斜地法）における許可	非該当	—	—
4	国土利用計画法に基づく土地売買等届出	非該当	—	—
5	都市計画法に基づく開発許可	非該当	—	—
6	河川法に基づく工作物新築等許可、河川区域内の土地占用・掘削許可	非該当	—	—
7	港湾法に基づく港湾区域内の水域又は港湾隣接地域における占用許可、 臨港地区内への行為届出	非該当	—	—
8	海岸法に基づく海岸保全区域等内の占用・行為許可	非該当	—	—
9	景観法に基づく景観計画区域・景観地区内への行為届出	該当	手続予定	2025.7月頃
10	農業振興地域の整備に関する法律に基づく市町村の農業振興地域整備 計画の変更手続	非該当	—	—
11	農地法に基づく農地転用許可	該当	手続予定	2025.6月頃
12	森林法に基づく保安林指定解除手続、伐採及び伐採後の造林の届出	非該当	—	—

3. 関係法令遵守状況②

	法令	該当	許認可取得状況	取得予定
13	文化財保護法に基づく埋蔵文化財包蔵地土木工事等届出、史跡・名勝・天然記念物指定地の現状変更許可	非該当	—	—
14	土壌汚染対策法に基づく土地の形質変更届出	該当	手続予定	2025.7月頃
15	自然公園法に基づく特別地域・特別保護地区内の行為許可	非該当	—	—
16	自然環境保全法に基づく自然環境保全地域内の行為許可	非該当	—	—
17	絶滅のおそれがある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく生息地等保護区の管理地区等内の行為許可	非該当	—	—
18	鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律に基づく鳥獣保護区の特別保護地区の区域内の行為許可	非該当	—	—
19	環境影響評価法・条例に係る環境影響評価手続 (環境影響評価手続における事業名称：)	非該当	—	—
20	その他の法律・条例に係る手続 塩尻市太陽光発電設備の適正な設置及び管理に関する条例 長野県地域と調和した太陽光発電事業の推進に関する条例	該当 該当	手続中 手続中	2025.7月頃 2025.7月頃

4. 事業用地の土地権原取得状況

事業用地地番	取得状況
長野県塩尻市大字柿沢字永井坂887番1	地上権設定契約締結済み
長野県塩尻市大字柿沢字永井坂886番1	地上権設定契約締結済み
長野県塩尻市大字柿沢字永井坂886番4	地上権設定契約締結済み
長野県塩尻市大字柿沢字永井坂886番5	官地のため市と協議中（付替予定）
長野県塩尻市大字柿沢字永井坂887番4	官地のため市と協議中（付替予定）

5. 設置工事の概要（パネル設置計画図）



5. 設置工事の概要（スケジュール）

GDsPJ2塩尻柿沢2太陽光発電所 事業スケジュール															
スケジュール	2024			2025											
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
許可手続き															
造成工事															
建設工事															
電設工事															
使用前自主点検															
受電															
系統連系															

6. 事業の影響と予防措置

	安全面	該当
1	斜面への設置	×
2	盛土・切土	●
3	地盤強度	●
4	排水対策	●
5	法面保護・斜面崩落防止策	●
6	防災施設の先行設置	●
7	設備設計	●
8	施行後の管理の継続性	●
9	事業終了後の措置	●

	自然環境・生活環境面	該当
1	騒音・振動	●
2	水の汚れ／濁り	● ※場外への排水はなし
3	反射光	●
4	雑草の繁茂	●

	廃棄物の撤去等	該当
1	廃棄費用	●
2	廃棄物の種類・見込み量	●

	景観面	該当
1	自然環境・景観の保護を目的として条例で設定された保護エリア	● ※保護エリアではない

6. 事業の影響と予防措置

安全面の影響及び予防措置

(ア)	斜面への設置	設置場所は南西に向かって約5°の傾斜がありますが、不陸はほぼなく、急斜面への設備設置は行いません。
(イ)	盛土・切土	発電所南西の最水下部に、雨水を場内浸透処理するための調整池の切土を行います。切土の勾配は1/1.5を確保し、近隣住宅から離れた、小段の上の位置に計画することで、近隣住宅の地盤の安定性に影響しないよう配慮しています。その他、管路掘削後埋め戻し、管理用通路の碎石、排水用の簡易的な水みちの敷設を行います。切土盛土に該当しないほど小規模な土工です。次スライド（スライド17）にて追加説明。
(ウ)	地盤強度	本事業範囲にてスクリーウエイト貫入試験を実施し、全ての地点で太陽光発電所の設置が問題にならない地盤の固さ(N値約3.5以上)であることを確認しております。なお、スクリーウエイト貫入試験については、JIS A 1221および地上設置型太陽光発電システムの設計・施工ガイドラインに基づき、試験ポイント数の選定し試験を実施しています。
(エ)	排水対策	スライド18にて詳細説明。
(オ)	法面保護・斜面崩落防止策	調整池の切土法面は、植生保護を行います。

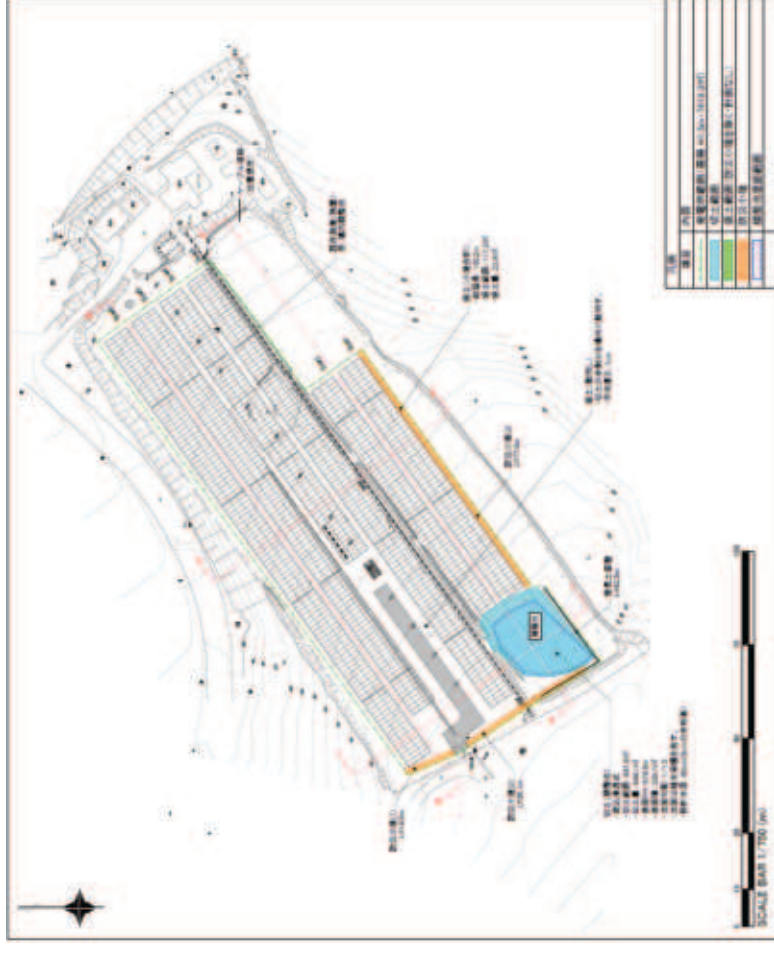
安全面への影響（イ）切土・盛土

工事主の氏名又は名称	GPSSエンジニアリング株式会社
工事が施工される土地の所在地	スライド12の事業用地地番の通り
工事施工者の氏名又は名称	検討中につき未定
工事の着手予定年月日及び完了予定日	造成着手日（予定）：2025.8月 造成完了日（予定）：2025.9月
盛土又は切土の高さ	盛土（小堤）：30cm 盛土（敷均し）：平均7cm 切土（調整池）：50cm～250cm
盛土又は切土をする土地の面積	盛土（小堤）：115.0㎡ 盛土（敷均し）：6467.1㎡ 切土（調整池）：447.8㎡
盛土又は切土の土量	盛土量（小堤）：23.0㎡ 盛土量（敷均し）：421.1㎡ 切土量（調整池）：444.1㎡ 事業区域外からの搬入量：なし 事業区域外への搬出量：なし
土砂等の盛土等が施工されている間における盛土等区域外への土砂等の崩落、飛散又は流出による災害を防止するために講ずる措置	・崩落しないような緩やかな法面勾配を計画しています。 ・飛散又は流出しないよう、主に下記措置を講じます ・大雨時盛土表面をブルーシートで覆い盛土・切土面の浸食や土砂の流出を抑える。 ・盛土の下部や排水の出口に土のうを設置して雨水による土砂の流出を一時的にせき止める。 ・重機や人力で簡易的に排水溝を作り、土砂の不規則な流出を防止する。

安全面への影響（工）排水対策

- ・発電所内に降雨・流入する雨水は、南西部の調整池へ一時貯留し、浸透排水にて場内処理をします。
 - ・調整池へ集水できるよう、場内外縁水下部に防災小堤を敷設します。
 - ・長野県や上田市等の条例・技術基準に基づいて排水計算を行っています。
- 降水確率は30年確率です。

その他詳細は
排水計画図をご参照ください。



6. 事業の影響と予防措置

安全面の影響及び予防措置

(カ)	防災施設の先行設置	発電設備の設置に先行して、調整池を含む土木造成工を行います。 消火器を設置します。
(キ)	設備設計	地盤調査の上、構造計算します。 JIS C8955 2017基準 に則り、安全な構造物となるよう、設計します。 本事業地の設計条件は建築基準法、建築基準法施行令、同告示、長野県庁建設部建築住宅課、塩尻市役所建築住宅課建築住宅係より、以下の通りです。 ・設計基準風速：30m/s ・垂直積雪量：87cm ・凍結深度：50cm 風荷重について、地面と概ね並行にパネルが配置されるようにすることで、荷重を小さくしております。 加えて、各荷重を加味して適切な根入れ深さを確保しています。
(ク)	施工後の管理の継続性	電気事業法に基づき、3か月に一回の定期点検、年1回の年次点検（精密点検）を実施いたします。 ※次スライドにて詳細説明。
(ケ)	事業終了後の措置	事業期間を20年としており、満了後すみやかに発電設備を撤去し原状回復する予定です。但し地権者様と弊社とで合意した場合に限り、事業期間を延長いたします。

安全面への影響（施工後の管理の継続性） 管理体制

GP
SS
イン
シ

【施工責任者としての現場確認、工事業者の管理】
・設計、資材調達、工事手配、工程調整管理、現場管理監督等

【発電所の現場整備、維持】

✓除草作業 ✓設備詳細点検 ✓保守管理の年間計画策定

リニ
ュー
アブ
ルジ
ャパ
ン

【発電所の安定的な運転の維持】

✓遠隔監視システムによる24時間365日の監視
→アラートメール発報時の迅速な現地出向確認
✓設備不具合時の保守対応、メーカー連絡、部品調達、主任技術者との連携
✓月次レポートの作成報告・データ分析

外 部 委 託

電気主任技術者（国家資格保有者）による電気事業法に基づく法定点検

※太陽光発電所は電気事業法に基づき「電気主任技術者による法定点検」が義務付けられています。

6. 事業の影響と予防措置

景観面の影響及び予防措置

- 本事業地は自然環境・景観の保護を目的として条例で設定された保護エリアに該当しておりません。
- しかしながら、景観法及び長野県景観条例に基づき、景観計画区域内における行為の届出を提出予定のため、その概要を説明いたします。

(ア)	景観面への影響	■ 再エネ設備の高さ ・ 太陽光パネル 最大約2.5m ・ トランスキュービクル 約3.2m ■ 展望地及び景観資源との位置関係 本事業地周辺の展望地は「高ボツチ高原 3 大標高展望広場」(松本建設事務所建築課より)次項「完成予想図(展望地、景観資源、事業地)」のとおり、展望地から事業地は4.9km離れており、展望地から事業地が視界に入ることとはございません。
(イ)	予防措置	・ 上記の通り景観法及び長野県景観条例に基づき、展望地からの可視範囲には本事業は含まれません。 ・ 条例対応外の面では、近隣住民の方々の要望にできるかぎり対応します。 特に南西部からの景観は、発電設備の目隠しや、景観を損ねないことを配慮し、目線以上の高さで茶色のフェンスを敷設いたします。

6. 事業の影響と予防措置

景観面の影響及び予防措置

完成予想図
高ボッチ高原 3大標高展望広場



眺望点から現地は見えません

6. 事業の影響と予防措置

自然環境・生活環境面の影響及び予防措置

(i) 騒音・振動

＜工事期間中の対策＞

- ・工事期間中に発生する騒音及び振動は、「騒音規制法（基準値85db）」及び「振動規制法（基準値75db）」以下です。
 - ・基本工事時間：8:00-17:00(日曜、お盆、正月除く)
 - ・工事車両進行においては、急発進・急加速はせず、アイドリングストップに努めます。
 - ・工事関係者の移動については、乗り合い輸送の促進によって、通勤車両台数を低減するよう努めます。
- 交通ルールは遵守します。
- ・工事工程の調整により、工事用資材等の搬入出による車輛ピーク台数の低減を図ります。
 - ・工事期間中は定期的に会議などを開催し、生活環境保全措置を工事関係者に周知・徹底いたします。
- ＜発電所完成後＞

太陽光発電所はフェンスの外からでは音をほとんど感じません。

パワーコンディショナー(電流や電圧を調整する機械)とキュービクル(電圧を上げて送電線に送る機械)は冷却

ファンの動作音がしますが、住宅から離れた場所へ設置します。

動作音は機械に近づかないと聞こえませんが、

必要に応じて予防措置を検討いたします。



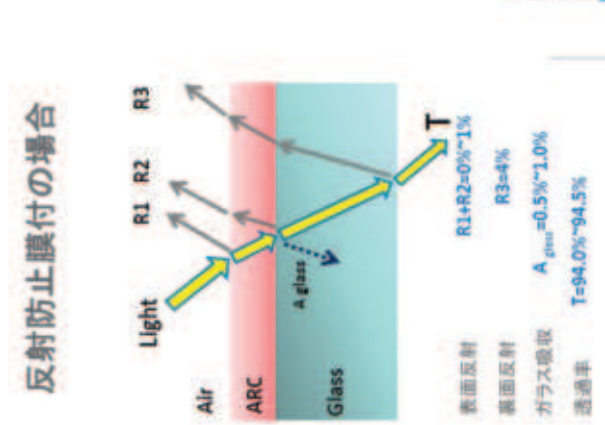
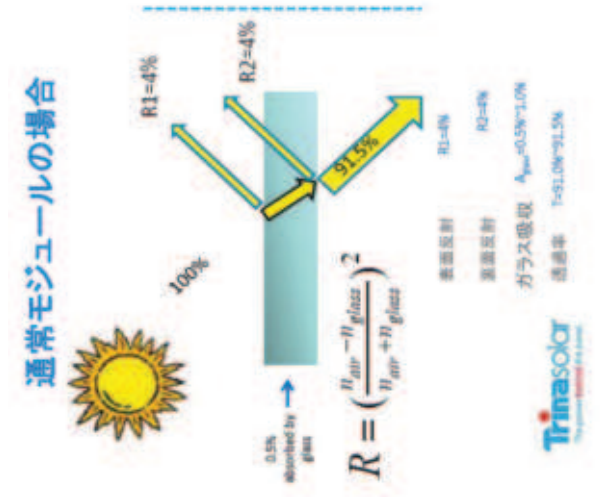
6. 事業の影響と予防措置

自然環境・生活環境面の影響及び予防措置

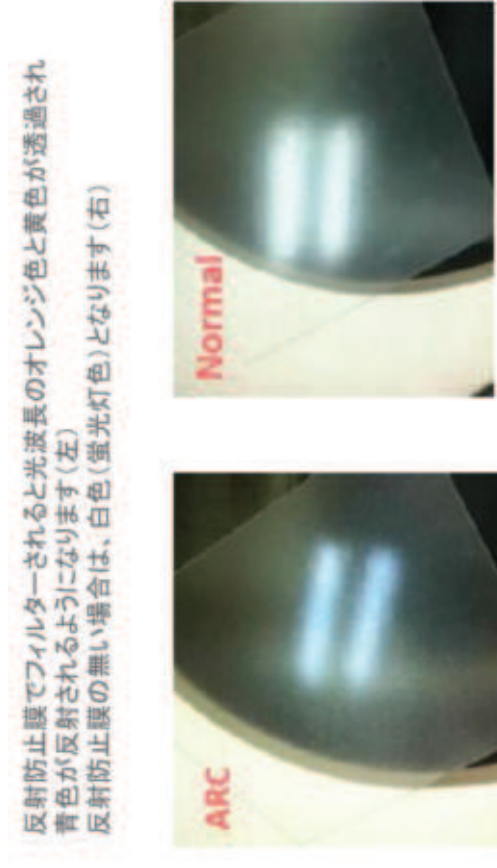
(ii)	水の汚れ・濁り	排水計画で説明の通り、場内の調整池で集水した雨水・泥水は場内処理を原則として計画しています。 また、水下部には小堤や簡易土留めを計画し、造成工事中も泥が場外に漏れないよう細心の注意を払います。
(iii)	反射光	防眩性の高いパネルを採用しており、反射光の発生は限定的です。 詳細は次頁に記載しています。
(iv)	雑草の繁茂	・除草作業は年間4回（春・夏・秋の季節ごとに状況に応じて）実施で計画しております。 ・除草剤は使用しません。

自然環境・生活環境面への影響（iii）反射光

反射防止の原理



事例比較



反射防止膜により表面反射は**1%**程度まで抑えられます
※反射防止膜無しの場合は4%程度

参考：Trinasolar 反射防止膜 A R (Anti-Reflective Coating) コーティングについて

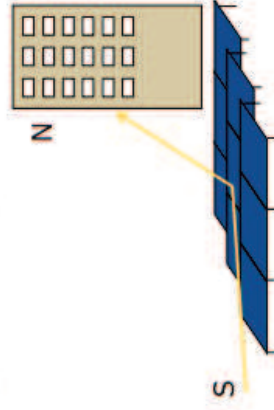
自然環境・生活環境面への影響（iii）反射光

反射の影響が懸念されるケース

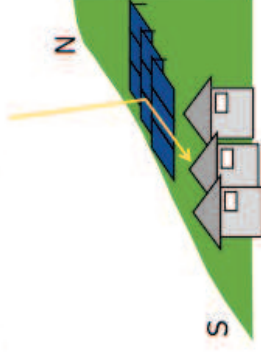
- ① 設置場所の北側に高い建物がある
- ② 斜面地へのパネル設置で、南側に近接して住宅等がある
- ③ 東側又は西側が大きく拓けている土地に太陽光発電施設を設置する

設置する

①の例（イメージ）：



②の例（イメージ）：



③の例（イメージ）：



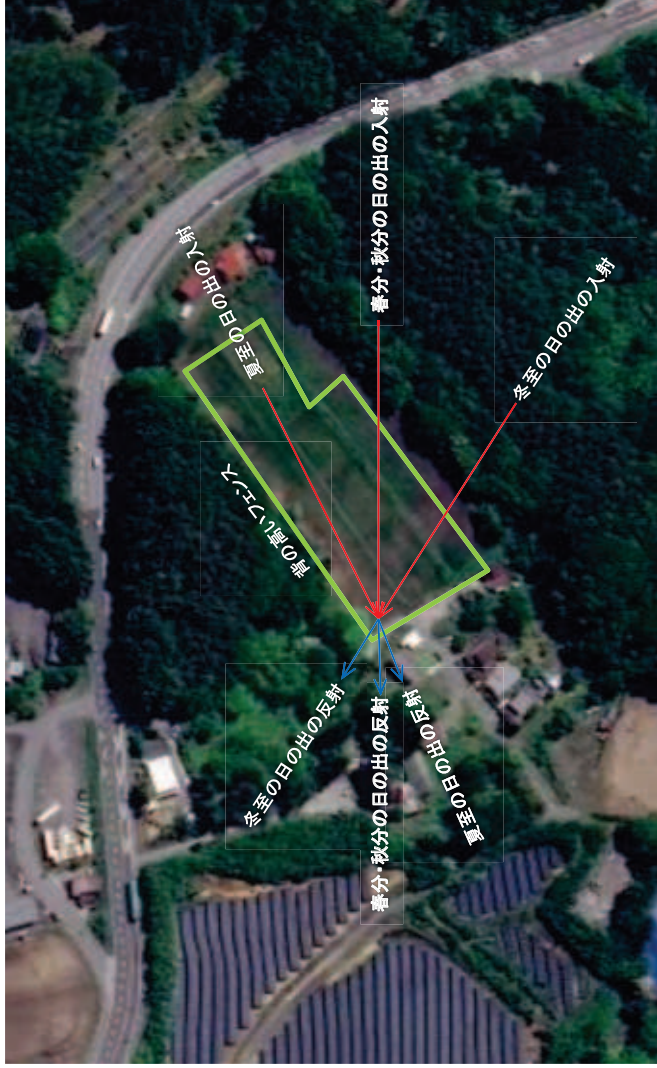
本案件の位置関係



今回、左記③が最も近いケースですが、東西遠方の山脈があるため、日の出・日の入時の太陽高度は十分に高く、フェンスも目線以上の高さを採用するため、反射光害の懸念はかなり限定的です。

自然環境・生活環境面への影響（iii）反射光

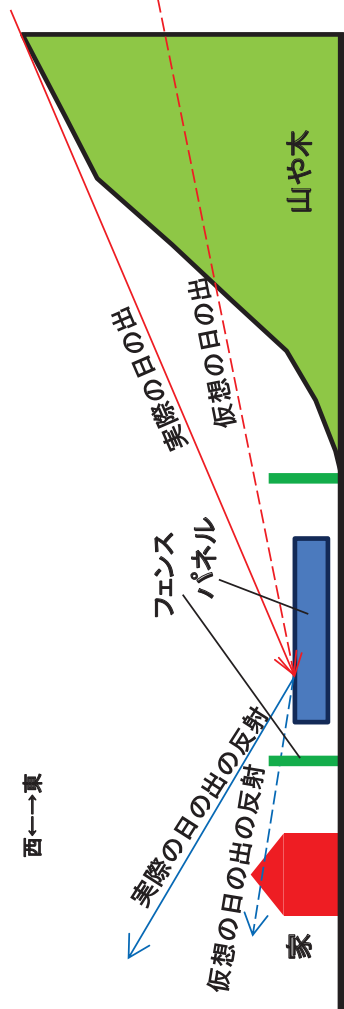
夏至・冬至の日の出日の入り方向



左図の入射光は、周囲の山脈や木で日射が阻まれずに、最も低く入射する場合の、水平線からの仮想のものです。

実際はこれよりも高い太陽高度で入射するため、反射光も、発電所に近い住宅でも、遥か上空を通過します。

また、目線よりも高いフェンスを計画しています。



△イメージ立面図

6. 事業の影響と予防措置

再エネ発電事業に伴い生じ得る廃棄物の撤去等に関する影響及び予防措置	
設備の廃棄に係る廃棄費用の総額	約800万円（想定）
廃棄費用の算定方法	廃棄等費用積立ガイドライン(2024年4月改定)の解体等積立基準額を参考に、毎年の想定発電量から算出しました。
廃棄費用の積立開始時期及び終了時期	積立開始：2036年 積立終了：2045年
廃棄費用の毎月の積立単価	約67,000円/月（想定）
太陽光パネルのメーカー名/製造期間 太陽光パネルの鉛・カドミウム・ヒ素・セレン の4物質の含有情報	次スライドにて説明

自然環境・生活環境面への影響（廃棄物の種類及び排出見込量）

＜設置工事で発生する廃棄物の見込量とその処理について＞

- ・ 今回の太陽光発電所設置におきましては、極力残土や廃棄物が敷地の外に排出されない計画を策定いたします。産業廃棄物につきましては廃棄物処理法など関係法令を遵守し、責任もって適切に処理させていただきます。

機 材	量	主な素材	処理
パレット	木製パレット60枚 枚/10.8kg 648kg	木材	リサイクルまたは廃棄
梱包材	80kg	段ボール（紙）	リサイクルまたは廃棄
梱包材	40kg	ビニール	廃棄
電材くず	杭・架台梱包材 600kg 電材屑60kg	銅・樹脂・アルミ・鉄・他	リサイクルまたは廃棄
汚 泥	なし	泥その他	持出予定無
コンクリートがら	既設基礎等 3m ³ 6.6t	コンクリート	リサイクル
採掘残土	なし	土	持出予定無
浚渫残土等	なし	その他	持出予定無
樹 木	雑木 3t	木	リサイクルまたは廃棄

自然環境・生活環境面への影響（廃棄物の種類及び排出見込量）

＜撤去時に発生する廃棄物の見込量とその処理について＞

・事業を終了した場合は、パネル等機器一式の撤去を進めます。撤去した機器類等につきましてはリサイクル処理または産業廃棄物として適切に処理させていただきます。

機 材	量	主な素材	処理
太陽光パネル	約56000kg	シリコン・アルミ・ガラス	リサイクルまたは廃棄
架台	約13120kg	アルミ	リサイクル
杭	約8060kg	鉄	リサイクル
パソコン	約550kg	銅・アルミ・鉄・樹脂	リサイクルまたは廃棄
ケーブル	約1800kg	銅・アルミ・樹脂	リサイクル
受変電設備	約4500kg	銅・アルミ・鉄・樹脂	リサイクルまたは廃棄
採掘残土	なし	土	持ち出し予定なし
浚渫残土等	なし	土	持ち出し予定なし

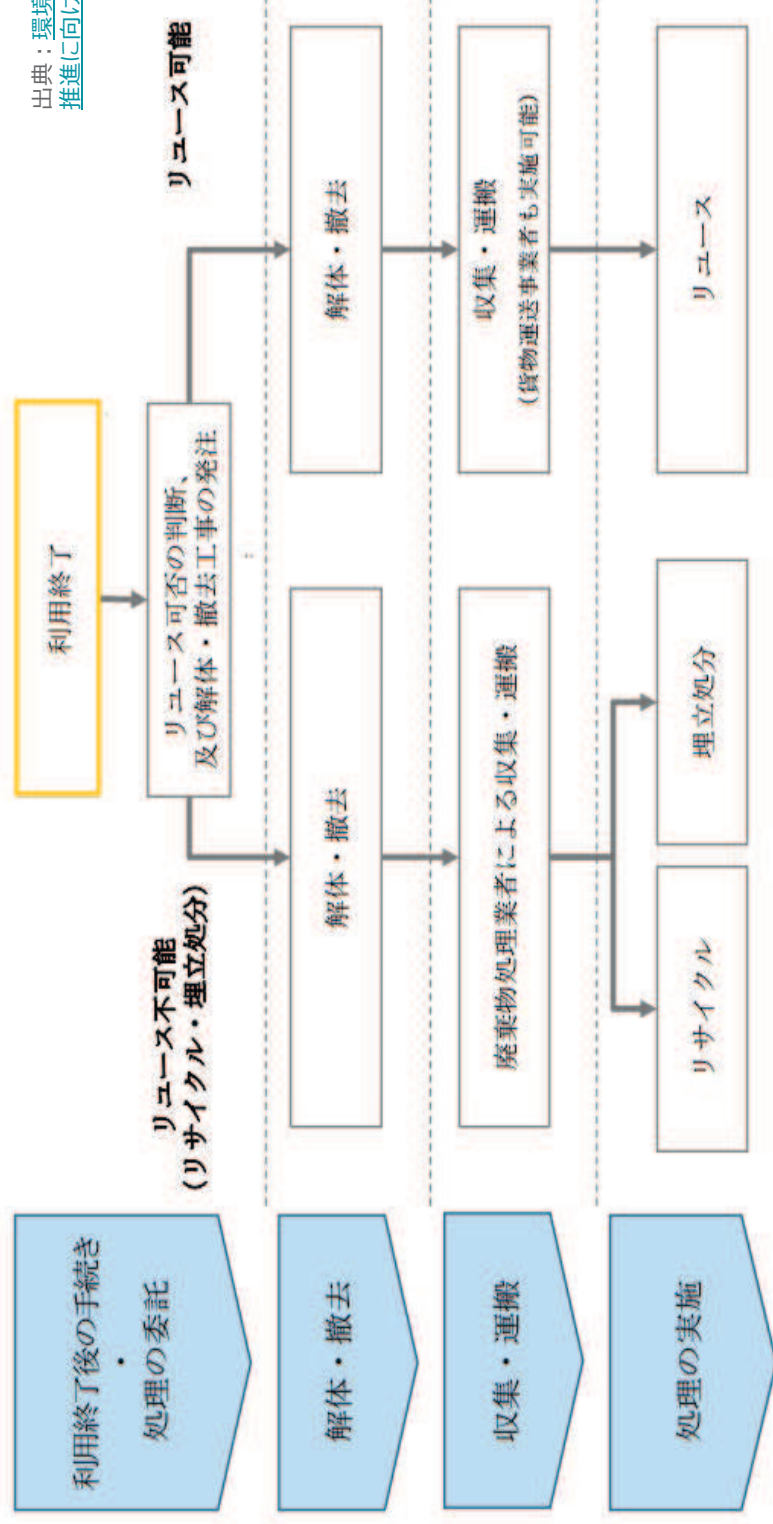
《参考 太陽光パネルの含有有害物質について》
使用するパネルは下記の通り有害物質（鉛、ヒ素、カドニウム、セレン）含有率は環境基準値（0.1wt%）未満となっております。さらにパネル表面はガラス及びアルミ枠で保護されているため、敷地外や地中へ流出する危険性は極めて低いと考えられます。

メーカー	型式	登録 種別	出力 (W)	セル実効 変換効率(%)	太陽電池 種類	鉛	カドニウム	ヒ素	セレン	製造開始 (年月)
Trina Solar	TSM-715NEG21C.20	B	715	23.0	単結晶	0.1wt%未満	なし	なし	なし	2025年5月

6. 事業の影響と予防措置

再エネ発電事業に伴い生じ得る廃棄物の撤去等に関する影響及び予防措置(廃棄物処理フロー・体制)

廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき産業廃棄物として処分します。



出典：環境省「太陽光発電設備のリサイクル等の
推進に向けたガイドライン（第二版）」

【参考】産業廃棄物処理に関する法令遵守体制

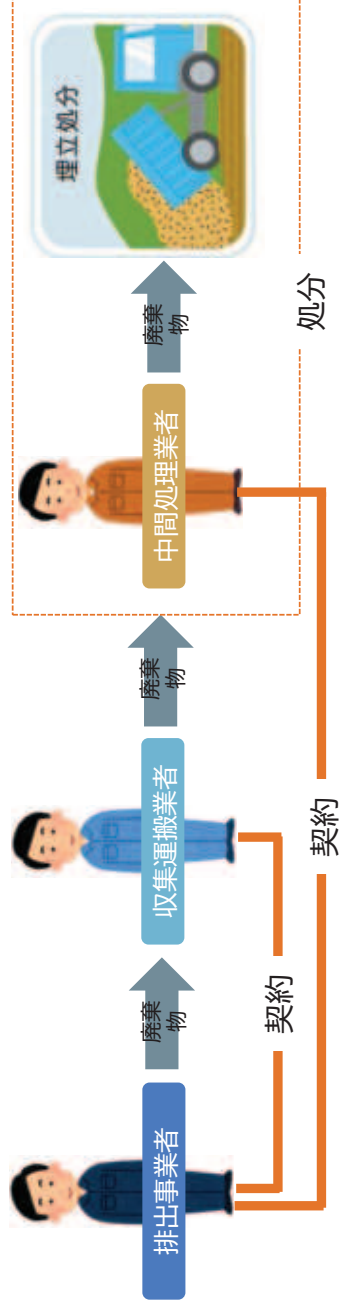
- 産業廃棄物の運搬や処分をする際は、法により守るべき基準が定められています。
- 工事請負業者（＝排出事業者）は、産業廃棄物の収集運搬や処分（中間処理又は最終処分）を委託する場合、適切な業者を選定し、明確な契約書を取り交わし、マニフェスト伝票の発行と照合など適切な運用・管理を行います。
- 委託業者の選定にあたっては、廃棄物の種類・量・性状及びこれらの荷姿に適した処理方法についてあらかじめ検討を行ったうえで、業者の持っている許可の種類や内容、技術的能力、最終処分までの処理工程、環境への配慮などを十分に吟味して行います。

●許可のない者に処理を委託しない。（法第12条第3項、第4項）

- ・ 排出場所と運搬先両方の都道府県知事（政令市長）の許可を得ている収集運搬業者を選定します。

●委託契約書を必ず締結する。（令第6条の2）

- ・ 排出事業者と収集運搬業者、及び排出事業者と処分業者のように、直接に2者間で契約（2者契約の原則）します。
- ・ 契約書には処理業者の許可証のコピーを必ず添付し、業務終了日から5年間にわたり保管します。



7. 質疑応答

本日の説明項目・説明事項に関するご意見やご質問がございましたら、お名前・ご連絡先・内容をご記載のうえ、以下いずれかの方法でご提出ください。後日書面にて回答させていただきます。

提出期限 本説明会の翌日から起算して30日後まで（4月2日～5月1日まで）

※詳細な時間等は下記の提出方法により異なります。

提出方法 【郵 送】 〒105-0014東京都港区芝2-5-10芝公園NDビル6階
GPSSホールディングス株式会社 気付
GDsPJ2合同会社 塙 亮 宛
（提出期限日の当日消印有効）

【メール】 ryo.hanawa@gpss.jp

他、気になる点がございましたら下記までご連絡をお願いします。

電話： 070-4847-8171

担当：プロジェクト本部グループ長 塙 亮

《本資料取り扱い上のご注意》

本資料はGDsPJ2合同会社（「以下、弊社」）が作成したものです。

- 本資料は、作成時点における弊社の見解、計画等についてご説明し、ご理解いただくために作成されたものであり、今後変更される可能性がございます。
- 本資料の作成にあたっては、可能な限り正確な情報を掲載するよう努めておりますが、必ずしもその内容の正確性および完全性を保証するものではございません。
- 本資料の著作権は弊社に帰属しておりますので、その方法・目的を問わず弊社に無断で複製、配布等されないよう、お願い申し上げます。

この資料は再エネ特措法に基づく周知に則り
資源エネルギー庁2024年2月策定の「説明会及び事前周知措置実施ガイドライン」を基に作成しております。

ご出席・ご清聴いただきありがとうございます。

GDsPJ2 合同会社 塩尻柿沢 2 太陽光発電所 第 1 回住民説明会

住民説明会議事録

【説明会概要】

日時：令和 7 年 4 月 1 日 19 時～

場所：柿沢公民館

再エネ発電事業者：GDsPJ2 合同会社

説明者：GDsPJ2 合同会社 埴、GPSS エンジニアリング 佐島、丸山

▼はじめに

- ・事業者挨拶
- ・取得した個人情報及び録画データ等の使用目的について
- ・説明会趣旨説明

▼発電事業概要説明

- ・再エネ発電事業計画の概要
- ・関係法令遵守状況
- ・土地権原取得状況
- ・再エネ発電事業の設置工事の概要
- ・関係者情報
- ・再エネ発電事業の安全面の影響及び予防措置
- ・再エネ発電事業の景観面の影響及び予防措置
- ・再エネ発電事業の自然環境面の影響及び予防措置
- ・再エネ発電事業の生活環境面の影響及び予防措置
- ・再エネ発電事業の廃棄に関する影響及び予防措置

▼質疑応答

■参加者

今回、この特別措置法、平成 23 年法律第 108 条に基づいてって説明会やってるんですけども、この 108 号の法律ってどういうことが書いてるのか。

○事業者

ごめんなさい。この説明会をしっかりと住民の理解を得なさいという内容でございますが。すいません、ちょっと細かく規定の中で、すいません、ちょっと調べてもよろしいでしょうか。住民説明会を開催しなさいという趣旨ではございます。

■参加者

ここに 108 条に基づいて書いてあれば、はい、この 108 条を書きいただければ、こうであって、これに届いてありますよって言うのをお願いするのが 1 番わかりやすい。本物を見てないわけですよ。知らないわけなんで、そこは提示してもらって。

○事業者

はい。かしこまりました。はい。第 108 条、今確認させていただいたところ、エネルギー源としての再生可能エネルギーを利用することが、内外の経済的社会的環境に応じたエネルギーの安定的かつ適切な供給の確保及びエネルギーの供給に関する環境への負荷低減を図る上で重要となっていることを鑑み、再生可能エネルギー電気の市場取引等による供給を推進するための交付金その他の特別な措置を講じることによって、電気について、エネルギー源としての再生可能エネルギーの利用を促進し、もって我が国の国際競争力の強化及び我が国の産業の振興性、地域の活性化その他国民経済の健全な発展に寄与することを目的とする。という総論がございまして、この中の 1 つに、住民説明会を開催しなさいという風なものがあるというような状況でございます。

○事業者

ちょっと難しいと書いてありますよね。それをわかりやすく皆様に例えば全て理解していただいて、不安感とか不審点がないようにということをやりたいという説明で、ちょっとこれからちょっと参考にさせていただいて、こういうことで、趣旨で行いますことをちょっと書かせていただきます。ちょっと長々難しい法律なんですけども、必ず開催することとし、広く我々の事業を理解していただくことという趣旨でございます。

■参加者

とりあえず、その国の方で定めてる。

○事業者

はい、そうです。

■参加者

今回の例えば受付で身分証明書を確認させていただきますもそこに書かれているのか。

○事業者

はい、そこに書かれています。

■参加者

こういう文章でやらなきゃいけないかなという形で。そこら辺ははっきりその法律のもとでやるようにわかってるんだったら、その法律自体を提示していただいた方が、わかりやすい。

○事業者

はい、そうですね。

■参加者

その録音も、そこら辺に、こういう法律のもとがあるので、やりますよっていうことを、法律自体、調べないとわからない。

○事業者

うん、そうですね、その条文を使って、確かに、免許証を確認することを録画することっていうと、私も、えってちょっとなるので、そこ、やっぱ文書で明確にちょっと表現するようにします。この法律には明記されてることでございます。

■参加者

その法律を示していただくと我々も理解しやすいので。

○事業者

はい、わかりました。ありがとうございます。

○事業者

はい、お願いします。

■参加者

今ね、説明していただいたけど、一方的にただ読んでるだけでね。ちっともよくわからないけど、あんた方は専門家でわかる。聞く人は初めてだよ。そんな、わかるようにしなきゃいけない。どんどん、どんどん読んでるってだけじゃわからない。それで意思疎通がそとできたと思ってます？

○事業者

そうですね。ちょっと難しいかなと思いますが。

すいません、なるべくわかりやすく説明したつもりではございますが、申し訳ございません、

○事業者

ちょっとゆっくり喋りながら、中でちょっと解説入れながらっていうところで、はい

■参加者

この中でね、ちょっと見て、見させてもらったんだけど、設置パネルの枚数なんてものは書いてないけど、どこかに書いてある？相当になると思いますよ。

○事業者

すいません。お配りしている資料の中には書かれていないんですけれども、1000

■参加者

初めて説明するのに枚数も書いてないなんてそれで済むの。

○事業者

そうですね、すいません、重さのところは書いたんですけれども、枚数のところは、すいません。

○事業者

約 1000 枚になります。ここまで記入します。

■参加者

それじゃあ、意思疎通できないじゃない。

この 13 ページのね、これだけの面積にはるんでしょ。枚数設置するわけでしょ。何枚くらいなのがわからない。どうやって説明するんです。

○事業者

そうですね。はい、わかりました。昔よりもパネル 1 枚がかなり大きくなってて。うん。

■参加者

大きくなった小さくなったを聞いているんじゃないくて、何枚設置するんですか。

○事業者

はい、すいません記載ないんですけど。1440 枚でございます。

■参加者

書いとけばいいじゃないですか。隠すことじゃないでしょ。

○事業者

はい、申し訳ございません。隠すことではないんです。

すいません、ちょっとそこまで細かく書いて、どんどん、どんどん資料が増えてしまうっていうところもありましたが、申し訳ございません。

■参加者

だったらそれしなきゃいけない。それとですね、13 ページのところに、この面積の1番、この右下のところに青のしたとこ、これなんで貯水池なんだ。

○事業者

そうですね。調整池でございます。

■参加者

1450 枚のそこへ降った雨から出てくる。浸透しないでしょ、パネルのところは。

○事業者

パネルのところは浸透しないですね。はい。

■参加者

そうしたら、そのもの、このところでもって全部止めることができるんですか。

○事業者

そうですね、今、30 年確率の雨量をもって全部止めることができる設計にしております。

■参加者

30 年なんて、今この天気はね、30 年の平均なんてものはもう想定できないんですよ。

○事業者

30 年のその平均で 30 年の最大を見込んでおります。

■参加者

あなたがた、現場見てきました。土地の、その設置する土地の下流とか、流れるでって言うけども、そこ見てきました？

○事業者

そうですね、見ております。

■参加者

見てみた。そしたら、どうなっていました。

○事業者

現状溢れて、あそこが溢れないような形で、より良い設備、今よりは良くなるという設備を作るという形で良くなりますね。

■参加者

今より良くなる？保証してくれるんですね？

○事業者

そうですね。はい。

■参加者

私、下にね、山があるんですよ。それ見てきました？

○事業者

ごめんなさい、下の山っていうのが。まだ、見てないです。

■参加者

カラ松がね、全部ずっと何十本って倒れてるでしょ。

あれはね、風で倒れたんじゃないんですよ。水害でね、あそこは水が流れてきてきて、最終的にはみどり湖へ流れるんだけど。その水が山の中を流れてくる時にね、山を削ってって。それで倒れてるんです。

■参加者

このため池で水がたまって下に影響がないなんて、そんな冗談言っちゃいけない。無理だわ、その説明は。

○事業者

その浸透する部分を全部計算して、必ず染み込むようになっています。

■参加者

計算はいいんですよ。計算通りに行かない方が世の中じゃない。

○事業者

そうですね。はい。ただ、計算をまずしなさいって指針があって、それについていう形になる

■参加者

確かにね。班長やなんか行くと、雨はな、天気はこうだってって言いますけども、その想定外でないことが現在起きてるんです。

○事業者

そうですね。おっしゃる通り。100年に一度とか言いながらも、毎年起きるような災害もあるので。

■参加者

あそこの下側にうちがたってますよね。住宅がありますよね。あの周りの水路でもって全部飲めてると思ってます？。

○事業者

今の状態ですかね。多分あれは、私はちょっと土木の技術者なんで、道路作ったり色々するんですけども、多分20号のところの塗装からも溢れてるのかなと思っておりまして。

■参加者

じゃなくてね、あそこは何回も畑から水が出てね、修理修理して、で、1件、1番上のうち1件ないはずですよ。

畑のすぐ下のところの1件だけ奥に入って、表なくなってるんですよ。

あそこは水が出てね、どうしてもいけないってことでもって退去したんじゃないかなって言われるんですよ。

それで、この池を見るとね、その住宅の方に寄ってるんですよ。

うちの方が奥の方行ったところに住宅があるんですけども、この方に盛って作って溢れたらどうするんです。

○事業者

今このあの方いらっしゃってお話させていただいております

■参加者

紹介していただいた？

○事業者

はい、そうですね。現状よりよくしますというところでご了解いただいております。

■参加者

寛大な人ですね。

○事業者

そうですね。そこら辺のほうは信頼関係を崩さないようにしっかりと設備を作っていくこと。

■参加者

信頼関係はね、時として裏切るから。

○事業者

裏切らないような形では取り組んでいきたいと思います。

■参加者

自然現象だからしょうがねえかもしれないけども、被害を被った人たちはしょうがないで済まない。

○事業者

おっしゃる通りだと思います。

■参加者

この水路もね、普通の時にはね、溢れないですよ。で、溢れちゃいけないってことで、あそこに浸透枡持ったんです。見てきました？

○事業者

枡あるのは見てます。はい。排水路ですよ。はい。

■参加者

が、ちょっと減ったようなところに浸透枡が。

マンホールがあるんですね。あそこで浸透枡作ったんですよ。

あそこがどんどんあふれるんですよ。溢れた水どうなりますか。

グランドの横の水路、低いとこの水路を通って下へ、流れてきますよね。

そしたらまた唐松のそこへ来て、流れて倒れてる。

で倒れたらどうするつもりでいます。

○事業者

ちょっとすいません、唐松の位置を、場所教えていただいてよろしいですか。

○事業者

はい、ありがとうございます。

■参加者

今、この13ページ見てもらえればねわかるんですが、このパネルに対して、この真ん中に、真ん中でも何か所でいいですから、溝かなんかありますか？何本くらい？

○事業者

そうですね、溝。はい、あります。横に。4本です。5本。

○事業者

深さはまだ決めてないですけど、30センチ未満。

■参加者

無理ですよ。それじゃあそこ変わんないんですよ。

○事業者

なるほど。

■参加者

下の住宅のところに流れて、川になって。今おっしゃったようにそれが下に流れるんだ。すごい水が流れてるんだからとても。池がここにあるんだけど、この池大きさじゃ。この池の深さはどれくらいなんですか。

○事業者

高さは50センチぐらいです。1番低いところで。水深で。

■参加者

50cmなんてすぐに溜まりますよ。川になって流れてくるんだから、人が歩けないくらいの強さで。そのためにあそこの道路に排水作ったんですけど、排水がいっぱいになるぐらい流れるの。

あれ。道路にある排水見てます？

あれいっぱいになるぐらい流れてる、大雨降ると。これが山から出てくる。50センチとかなんかじゃないですか。何分かでいっぱいになっちゃうんですよ。

○事業者

じゃ、50センチ以上のもうちょっと深い広い水路と、あと調整池もちょっと深さをちょっと検討しています。

今の状態では計算上とはなってるんですけど。

■参加者

そう、池から。それをどこ流すか。

○事業者

排水先ですね。

■参加者

ええ、うん、そんな検討してもらわないと。

○事業者

そうですね。はい、浸透式で。今の横の水路もなくて、今の状態で流れるのであれば、多分すごい水がばっていくんですけど、1回受け止めさせて、受け止めさせて受け止めさせてって、なるべく浸透させてっていうことを、ちょっと考えてますので、その工法も。

■参加者

横にある排水はどこに流れるんですか。

○事業者

調整池のほうに流します。

■参加者

全部その、作ってつなげて。

○事業者

はい。

■参加者

今のね、方に関連してなんだけど。こんな平面図やポンチ絵じゃなくて、構造図、横断図

それぐらいをつけなければ。ただ、説明したって何も。今 50 センチぐらいあります。何もわからないでしょ。どういう風に水が流れて、どういう風に水をうけて。で、この調整池もどういう形で作って。最終的に全部この宅内処理ですよ。それをどういう風にするかっていうことを説明してもらわなければ。色々なこの内容はわかりましたけど、1 番皆さんが知りたい大事なところは抜けてるんです。それを作ってからもう一度説明をして。

○事業者

はい。水の処理に関しても、かなり皆様方がすごく、今までかなり被害とか不安を持たれたこともあると思いますので、ちょっと土木的に、側溝はこれぐらいの幅で、これぐらいの深さです。長さはこれぐらいです。で、構造的なもの。ちょっと分かりづらいような図面になってしまうと思うんですけど、ちょっとわかりやすく説明できるような形。

■参加者

専門の水槽みたいなのは作らない？

○事業者

普段は水が溜まらない池じゃなくて、水が下に染み込むような形にします。貯水槽っていうと、お家にあるような？

■参加者

お風呂作のような貯水槽。ちゃんとしたものを作らないと。ただの池みたいななんもないの。

○事業者

うん、そうですね。わかりました。はい、もう少し、ちょっと構造的な。

■参加者

面積に対して、家庭だったって 100 万ぐらいになってくる。

こんだけの面積があったら、パネルがみんな流れて。今の状態でズブズブ。

○事業者

うん、そうですね。足が潜るくらい。

■参加者

で、あそこに、ほら、自分で上がるっていうから、私はさ、さっきあるんだけど、それでも地面に。で、そうですね。石を置いたんだけど、それをみんなどかしちゃって。

○事業者

じゃあ、もうちょっと拡大した図面で、例えば、多分、今こう見ると、全部パネルがベターって貼ってあるように見えるんですけど、それ全部隙間があるんですね。

なんで、そういうところもちょっとわかりやすく。

うん、そうですね。その上、そこのパネルはどっちに向いてるとか、

■参加者

どっち向いてるから、家の方に向いてるの絶対関係ないって言ったんでしょ。

だって、山の方だって言ったから。

○事業者

うん、そうですね。南側違うんで、山の方なんでっていうところもありますけども。

はい、わかりました。ご指摘の通り、ちょっとこれだと小さすぎて見えないので、もうちょっと大きな。

うん、申し訳ございません。パネルの向きとか。

○事業者

ちょっと認識間違って申しわけございません。

○事業者

開発のものと、私、施工のもの、技術者の方なので、ちょっとそれ、確かにこう見るとわからないなって思うところなので、そこはちょっと申し訳ありませんでした。

はい。

■参加者

池はどういう風につくるの？道具は？ただ穴掘るだけ？

○事業者

はい。機械で、ユンボっていうショベルカーで掘ってって、で、その土をならしてって話で。

■参加者

で、浸透するような方法は。

○事業者

で、下に砂利を敷いてっていう形で浸透するんですけど、もうちょっとさらに浸透。
例えば、土を見て、もうちょっと浸透させた方がいいんだったら

■参加者

ねえ。とうわけじゃないものでね、すぐ詰まっちゃう。

○事業者

はい、そうですね。

■参加者

で、あのところの土はね、すぐ雨でもって流れてくるんです。

はい。そしたら、一角はもう終わっちゃう。

○事業者

うんうん、そうですね。例えば、浸透で、石の粒が小さいとすぐ目詰まりするので、大きいのはちょっと割石って言って、少し大きめの石を入れるとか、いろんな方法があるんです。なんで、それもちょうと検討します。

■参加者

ただこの場を説明してりゃいいってだけじゃなくてね、住民が納得するような状況でね説明して、開催してもらわないと。

○事業者

で、もう1つは、我々が作ってる時に、これじゃダメだよとか、ここもうちょっとやった方がいいんじゃないかっていうのは、施工してる時に私も来て一緒に見ていただければと思います。私、gpss エンジニアリングのサシマと申します。総監督をしますので。その対応はもう全国やってますので。

○事業者

お願いいたします。すいません、お待たせしました。

■参加者

排水計画はご参照ください。これ右のだと思うんだけど。さっきから排水計画図見たって全然何の役に立ってるのがわからないので、ここら辺はしっかり示していただきたいのと、その中の文章の途中に、長野県や上田市等の条例に、基準に基づいて排水計算を行っています、降水確率は30年確率ですっていう。本当に30年確率でいいのか。これで本当

にこの確率でいいのかの根拠を示していただかないと。ただ、長野県が出してやってるからいいというは、何も根拠にはならないと思うんです。さっきおっしゃったみたいに、100年に1度とか1ヶ月分の雨が降ることもあるし、その降水量が、どこの降水量を使ってやって、ここだけ、ここ、結構多いんです、降水量。だから、ここに合わせた形で、本当にそれで、あった環境で、まず間違いのない降水確率を示していただかないと、納得する人はいない。

○事業者

そうですね、かしこまりました。

○事業者

承知しました。年間雨量とか降水雨量とか、そのピンポイントのところを、ちょっと、データで我々、もう1回検討して、で、条例ではなくて、この土地の例えば土が流れやすい土なんだとか、その辺はちょっと鑑みて、で、もう1度。

■参加者

この土地に納得できるような説明をしていただかないとそれは想定外になってしまう。

○事業者

実際住まれている方が、我々がこれで水が流れて想定外でしたなんてことは言うつもりもないので、もうちょっと雨の量、例えば土地の地形で水路がどれぐらいのものがなかで、先ほど言われたように、浸透式がどれぐらいになるものかっていうのも、もう一度出直して、再計算して、で、もう一度説明会開かさせていただきたいと思いますので。で、そこでまた皆様にご納得いかなかったら、何回でもそれはしていきたいと思っています。

■参加者

今のこの説明会は、説明会のガイドラインに沿ってやられている。でそのガイドラインの16ページにですね、火力発電設備の開発等の基準や運用の考え方についてっていう、これに準拠してやってくださいっていう話になりますよね。その考え方っていうの3ページにですね排水対策っていうのがあります。で、その排水対策には、雨水の流出係数そういった水利計算をして、それを評価しろっていうような形になるんで、そこは完全にしているところになるんですかね。

○事業者

データで示させていただきます。こういう条例になって、こういうものが設計基準なん

ですけども。で、雨はどれぐらい降ってどれぐらいのものですけど、ただ、ここは普通に縦割りに、この法律に沿ってるから大丈夫です、説明会をここでしたから大丈夫ですってことは我々するつもりがないので、何回でも納得いくまで、こういう図面を示してほしいと言えば、そのコミュニケーションを取りながらやりたいなと我々も本当に思っていますので。

ただ、ちょっと時間がない中でやるので細切れになってしまうからかもしれないんですけど、そこはできる限り対応させていただきますので。

■参加者

そんなところでね、なんか異常が発生するとアラートが鳴ってきた。それがなったらどうするの。

○事業者

2時間以内に駆けつけてくるように必ずします。

2時間以内に技術者が駆けつけます。

■参加者

近くの方は2時間我慢しろってこと？

○事業者

アラートっていうのは、多分、発電しないとか、壊れたよっていうアラートで、漏電したり。

■参加者

通常はね。故障ってあるよね、そういうものに対応できるかっていうことです。事務所は東京だとか書いてあるけど。

○事業者

そうですね。実際駆けつけるのはですね、長野に事務所のあるリニューアブルジャパンさんと、電気の責任者である主任技術者さん、

■参加者

こっちにあるわけ。じゃあ、そこに書いときゃいいじゃん。

なんで書けないの。

○事業者

書けないわけでは。隠してるわけではなくて、

○事業者

もうちょっと細かく書けばよかったんです。書けないのではなく。

■参加者

住民のこと全然考えてないよ。何かあった時にね、すぐ対応できるだけ、すぐないわけでしょう。

○事業者

はい、すぐ対応できます。

■参加者

地域の人たちに我慢しろってことはね、生活環境を悪くすることですよ。

○事業者

発電しないとか、壊れたっていうのは、電気が遅れなくなるだけで。
で、遮断機って言って、信号でもブレーカー落としちゃうので、なんで。
それは故障です。

■参加者

ないことをね。みんな望むんだけど、ないことが起きるのが事故だ。

参加者 1

そうですね。はい。

■参加者

そういうものにもね、対応できるように。私は排水を最初に行ったんだけど、排水はね、どこに流れるのかってこと書いてあるかと思って。最初のこれに関してもあったけど、何も入ってないんだよね。

○事業者

承知しました。

■参加者

太陽パネルって 1 番大事なのは排水なんですよ。雨降った時の排水がどういう風にうまく

できるか。これが失敗すると水害が多くしましませうね。

○事業者

そうですね。土砂災害とか水害とか全国で起きて

■参加者

住民の人たちに迷惑がかからないようにね。

それには、今の水路じゃ、こんなさ、30センチとか40センチの水路が家の前に流れてるわけでしょ。入っただけでしょ。それで溢れたもんだから、あそこは石で持って、浸透枥作ったわけですよ。やるなら大きな浸透枥を作るなりして、2次対策もしっかりして。

○事業者

承知しました。下の水路とかの構造もちょっと見に行つて、で、どういう、今までどれぐらいの推量を受けてたのかもちょっと見ながら、我々の敷地の、事業用地の、パネルの用地内で水をどこまで受け止められるかっていう計算をしますので。

■参加者

そこね、今までは1番降ったのはね、時にはあそこの暗渠があるんですよ、あそこの中覗いてみてください。中がえぐれちゃつてね、うん、全部あの車両を引いて、きちつとした道路になってたんですよ、当時は。それが水路が、あそこは1メートル以上はある、水路入ってるあり、それ溢れちゃうんで、今、あのトンネルの中、もう通れないんですよ。そういうことも含めてみてください。

見て、それで納得のいくようなことを考えてきて下さい。

○事業者

はい、承知しました。

■参加者

事業地の面積ってのはどのぐらいあるんですか。

例えば7ページには、この赤い線が事業用地だったらどうなのか、ちょっとその辺がよくわからないんですけど。その部分の面積どのぐらい。フェンスの中じゃなくて、7ページの赤枠の面積どのぐらいあるんですか。

○事業者

14000平米です。はい。

■参加者

そこに降った雨がどのように流れて、どのようにしてっていうことも。

○事業者

そうですね。ご説明資料。はい、そうですね。

○事業者

はいはい、お願いします

■参加者

これ、太陽光設置して、周りの温度ってのは上がりますか。

○事業者

実際は上がらないはずですよ。どちらかというと吸収する方、エネルギーを吸収する方に回るんで、で、ただ、今まで周りで上がってるって言われることもよくあるんですけど、我々もちょっと全国でやって、上がらないっていうのが結論になります。

■参加者

調べてあがらない。

○事業者

はい、そうですね。その、ちょっとなぜ上がらないかっていうのもちょっと調べていきたいと思ってます。

○事業者

上がるというお話も聞いてますので、ちょっとそこら辺も調べて回答させていただきます。

○事業者

例えば、今まで森が吸収してきた熱を、人工物ができることによって、例えば東京なんかヒートアイランドってコンクリートだらけだから、やっぱり上がるよねっていうことはあるかもしれないので、ちょっとその辺もちょっと調べたいなと思ってます。

○事業者

ただ、今は森じゃなくて土なので、ちょっとそこもどうなるかってところもあるんですけど。

■参加者

あれ、目隠しでフェンスっていう案もあったんだけど、はい、あそこに木を置いてもらうことはできるのか。路の下のほう。

○事業者

木も植えられますけど、成長するまでの時間とか隙間。

■参加者

目隠しって、目線の高さっていうのは実際などんくらいあるかわかんないですけど。ある程度の高さで木植えてもらって。

○事業者

今2メートルの壁を考えてるんですけど、例えば3メートルぐらいしか育たない木を植えるっていうのも、それは考えられることですので、

■参加者

ちょっとそれやってもらいたい。

○事業者

今1番端のお家の方ですよ。新しいうちの方ですか。なんでそこを植えるとか。ただ、全面植えてしまうと、例えば水が来た時はどうなるのか、ちょっと色々考えなきゃいけないので、ちょっと例えば景観的にここだけ植えてくださいっていうのはまた後日相談していただければと思います。

■参加者

家近いので。なんかあった時に、もし水が例えば出てきたとか、土が漏れてきた、その辺の対応ってのはどうしてくれる。

○事業者

常に我々もずっとこの事業やってますので、電話していただければ駆けつけて全国でそういう

○事業者

フェンスのところに緊急連絡先の掲示させていただきますので、そちらにご連絡をいただければと思います。

○事業者

あと、工事するときにご挨拶伺いますので、私の名刺も置いてきますので、例えばそこで土がちょっと流れちゃったよとか、これが原因じゃないかっていうのはご相談していただければと思ってます。

■参加者

16 ページのところに傾斜が5 度って書いてあるんですが、13 ページだともちろんこれ平面図みたいになってるんで、この辺の傾斜もわからないと思うんですけど、やっぱりこれだけのものを作られると、その下に住む人間は毎日不安でしょうがないと思うんですよね。堀作られました。じゃあ、土砂崩れがもし起きました。その施設自体が流れてきました、そしたら、直前までわからないわけじゃないですか。で、池作りしました。池の下には、すぐ下に家が何軒もあります。で、浸透させた水がどこに行くかわかりません。じゃあ、もう、もう毎日不安になっちゃうんですけど、そういった不安とかに対して、もうほんとに、ここの、なんか、13 ページのこの説明してあるところにはもう家があるんですよね。施設の、色々書いてあるんですけど、そういったことに対して、そういう不安とかどうしても残っちゃうんですけど、たてました。じゃあ、不安、不安でしょうけど、大丈夫ですって言われて。で、実際何か起きた時に本当に困るの。そこに住んでるものなんで。全然その辺の説明がされない。

○事業者

そうですね。申し訳ございませんでした。

はい。ちょっとまた改めまして場を設けさせていただきまして、一旦水回りのところの説明させていただきたいと、水回り以外もですけども、説明させていただきたいと思います。

■参加者

思ってるよりもその5 度ってのが、その工事に対してはいいのかもしれないですけど、思ってるよりも斜面な斜めなんです。だから、下にいるものたちがどれだけ不安かってことを考えてくれないと。もう本当に毎日息苦しい思いで生きていかないといけなくなっちゃう。

○事業者

はい、かしこまりました。説明できる資料お持ちさせて、準備させていただいて、またご説明させていただきます。

■参加者

4 ページの。はい。再エネ発電事業事業概要の中で、一応、この会社の資本金が100 万円、出資者が匿名組合出資で書かれて、いずれも予定っていう形になってるんですが、

ということは、まだ会社として、出資者が予定ってことはどういうことです。出資しない場合あるんですか。

○事業者

出資しない場合ないです、まだ出資していないので予定と書かせていただいておりますけれども、もう計画としては決まっておりますので、出資はされます。

■参加者

じゃあ、いつ出資するか、まだこの先じゃないとわからない。本当に大丈夫？

○事業者

住民説明会、何件か案件がここ以外もございまして、
ただ、6月末に出資する予定でございます。

はい、本当に大丈夫です。そうですね。大阪ガスさん、ビッグネーム。
我々よりも多分大阪ガスさんの方がビッグネームだと思いますので、一緒に計画してます。

■参加者

出資されると資本金も変わるんですか。

○事業者

資本金の。匿名組合出資なので、資本金はそのまま、100万円のまま。

■参加者

4名っていうのは少数精鋭でっていうことですか。

○事業者

そうですね。実際、管理とかは gpss の方をお願いするような形でございますので。
なんて言うんでしょうか。会社自体は4名ですけれども、後ろにちゃんと支えている人間がいるというところはあります。

○事業者

この4名でメンテナンスしたり工事するってわけではございませんので。

■参加者

だったら gpss さんがやればいいんじゃないの。

○事業者

そうですね銀行からお金借りたりするのにこの形をいつも使っております。

■参加者

それで、申請事業者の名前で、真ん中のやつは小文字ですよ。

○事業者

そうですね。はい。英語のなんとかのってす、所有のsって言うんですかね。

なんて言えばいいんだろう。gd 大阪ガスと gpss の s でごめんなさい。

大文字でもよかったんでしょうけれども、小文字使わせていただいております。

■参加者

6月に説明会もう1回して、

○事業者

説明会、6月に限らず準備でき次第また開催させていただきたいと思います。

■参加者

こちらは納得得られなくても、8月には工事始めるですか。

○事業者

納得が得られないと工事は始められないという風に思っております。

■参加者

納得してしなかったら工事はじまらないんですか。

○事業者

そうですね、納得いただかないとなかなか難しいかなという風に思っております。

■参加者

このままだと予定が立っちゃってるような感じなので、

○事業者

現状、予定で、すいません、予定を話しなさいという形で、予定でさせていただいております。仮スケジュールみたいな形でございます。

■参加者

で、きちんと、本当に、全員、全員とまでは。

全員ってどのレベルかわかんないけど。

○事業者

大多数の方が納得いただけるような形までは持っていきたいという風に思っております。

■参加者

はい。28 ページの。はい。自然環境、生活環境面の影響って形で、一応その家も問題ないってんだけど、この家は3階建てとか、高い家建てようとした時はなんか対応してくれるで、今の現状だとこの家にはこの影響はない、この家の方がもっと高い家を建てたいっていう形になった場合には対応される。

○事業者

はい、もちろん対応します。

■参加者

もうこの段階でいいから、そういうことはやめてほしいっていう形になるの。

○事業者

後から例えば太陽光発電所ができて、後に3階建ての家を建てられた場合、ちょっと眩しいよねってなった場合は基本的に対応はします。もちろんです。それ法律でもありまして、民事っていう法律って1番強い法律なんですけども、例えばそこで騒音でうるさいとか眩しいとか揺れるとかあれば対応しなさいって、必ずその法律になるので、それは対応を確実にします。後から来たから我慢しろよってことはありません。

■参加者

例えば、敷地のところで、隣接した隣の山林の木が、飛んできて、パネルを壊したって言った時に、隣のその山林の所有者に請求とか、そういうことは、

○事業者

例えばその因果関係にもよるんで。なんで、それを調べた上でですね、例えばずっと放置されててとか、そういう状態であればそうなりますし。

■参加者

管理されてない。隣接するっていうか、山林持ってる人たちにとっては、もう別にほっときゃいい。隣に太陽光の施設ができちゃうと、その隣の方々がきちっと管理されないと困る。

○事業者

うん。そんなことは。故意に例えば割りに行ったとか、そういうものでしたらなりますけど、基本的に災害とか周りの要因で起きたものは保険入ってますので。うん。カラスが石をことしたとかよくあるんですけど、それは大丈夫です。
対応可能です。

■参加者

発電の電気の売電先はどこになるのか？企業？全量？

○事業者

売電先は■■■■の事業家様にお送りする形になります。企業ですね。
企業はい、これ全部、全量ですね。はい。

■参加者

で、発電の設備はいいんですけど、送電の設備ってのは、電柱とかケーブル？

○事業者

今現状の中部電力さんのところに繋いで。

○事業者

連携申し込みして、今のところで繋いで大丈夫って感じ。
はい、大丈夫です。それをまずしないと計画できないです。

■参加者

既存の電柱のところに、またトランスつけてとかはしないってことね。電磁波がすごいよね。

○事業者

だから、そこからおろしてくるような感じなのでうん。
トランスは基本的に電圧下げるものなので、お家側になんて。

■参加者

でも、今現在、日本列島や世界中ので、天変地異とかの心配があって、電気危機の異常事態になることは予想されるんだけど、だから、今辞めるんだったら、今やめた方が。
■■■さんのとことか、農業やりたい人、若者がいるから、もしおかしいんだったら早く言ってもらって。これから食料危機が来るから、その農業やりたいって人に譲ってもらいた

いなくてという件もあるから、心配しないで、撤退する時はぱっと撤退してもらえば。

いつかおきるのは確かなので。撤退すれば大歓迎なんで。

周りの環境を見て進めてくださいっていうのは多分元々あるね。

こんなにみんなパネルのあるところで住宅があることわかって、そこに無理やりつくろうとする人は、なんかすぐ、もしあれ、そういうことでもって撤退するようになればします。

■参加者

基本的な時ですけども、この土地は賃貸ですか

○事業者

そうですね、賃貸です。20年。20年後に設備の状況によって25年まで伸ばしてもいいよって、その20年のタイミングで判断しますっていう形になってます。

20年で1回判断させてくださいという風な話になってます。

■参加者

で、もう1つはね、今辞めるなら今だよっていう話だけでも、私もその通りだと思う。でね、1番問題は、各所今起きてることは、要するに、やめてくばって自分たちは逃げてっちゃう。あとに残った人達は、その地域の人たちに迷惑かかる。今、非常に問題になってるんですよ。そういう状況が起きちゃいけないと思って心配してる。ちょっと聞いたりしても、まだ不十分なんですよ。排水の部分。しっかりもう一度練り直して。住民のみなさんが納得いくような状況になったら。

○事業者

そうですね。はい。かしこまりました。はい。

あと、途中でほったらかしにしてしまうというところのご心配。

多分gpss単体だとそうだと思うんですけども、大阪ガスさんっていうメジャーがついておりますので、そういったところはしっかりと対応させていただけるかなと。

そう言われてしまうと、はい。小さい我々を信じていただきたいというところもあるんですけど。

そうですね。確かに大きいから安心かって言われれば、確かにそうじゃないかもしれない。で、そこはしっかりと。はい。排水の計画もひっくるめまして、しっかりとまたご説明会設けさせていただきたいと思います。

■参加者

約束してください。

○事業者

はい。また改めまして、場を設けさせてはいいいただきたいと思います。あと、また場、場を設けさせていただくんですが。すいません、これも 1 番決まり事で申し訳ございません。質疑応答の期間、説明会から 2 週間という風に書かせていただいております、私の連絡先書いてございますので、これ以降何かありましたら、私の連絡先にご連絡いただければと思います。

あと、合わせまして、2 週間で打ち切ることもございませんので、2 週間経ったからもう受け付けませんよってことはありませんので、いつでもお気軽にご連絡いただければと思います。34 ページですね。はい、メールと、あと右下、電話番号も書いてございます。はい。で、また改めまして、住民説明会、開催させていただきたいと思いますので、その時にまた改めましてご質問をいただければと思います。

■参加者

13 ページの図面のこのピンクのチークの中には、この範囲は道路になるんですか。

○事業者

道路ですね。

■参加者

そうですか。はい。これはどっから入るんです。

○事業者

これ、上の土地から。はい、上

○事業者

下からもです。下からも入れるようになり、今フェンスありますから、そこ外して発電所のフェンスはできるんですけども、今手前にあるフェンスのところは外させていただきます。

■参加者

フェンスと今のフェンスの間に道、またできるってことですか。

○事業者

そうですね。今のフェンスと新しく発電所ができるところに道をつくれます。

■参加者

はい。ほんで、両方から上の国道、 さんの上を越えて上へ出れるってことです。

○事業者

そうですね。そういう形になり。はい。両方とも。左側ですね。

■参加者

はい。じゃあ、これは自由に行き来できるわけですね。

○事業者

そうですね。道路は碎石です。舗装ではない。

■参加者

そのフェンスの今の行き来は、その工事が終わるまでは。じゃあ、できないってことですね。

○事業者

そうですね。危険ですので、できません。

■参加者

そして、このもう1個あれですが、これを公工事にするにあたって、トラックとかはどっから出るんですか

○事業者

上のところの土地から出入りします。逆に大きなトラックはあそこは通れないですし。で、舗装が痛んでるんで、それ以上痛めてもしょうがないので、我々は通らないようにします。ちょっとした乗用車が通るかもしれないですけど、トラックは通らないです。

■参加者

5メートル40？

○事業者

これも今度ちょっと大きな図面で持ってきますので、みんなこれだと見えづらいので。で、あと、水路の図面も断面も書いてきます。

■参加者

これ、ついでにこのチークのこのグリーンはなんですか。

○事業者

グリーン。畑ですね。今現在の畑で一部か、畑やりたいというご要望がありますので。
畑残す。一部残すって。はい、形です。

○事業者

大丈夫でしょうか。すいません、今日お時間いただきましてありがとうございました。
また改めまして場を設けさせていただきますので、よろしくお願いいたします。
本日、お忙しい中お時間いただきましてありがとうございました。

■参加者

産廃のね、積み立てって、このルールが変わって、それで積み立て開始って、事業始まった時から？

○事業者

10年、10年。はい、ルール、10年から積み立ててくださってというルールで、その間積み立てなんで、積み立てなくていいということではないんですけど、10年目から積み立てなさい、

■参加者

そこが強制力があるってこと。

○事業者

はいはい。それで、必ず撤去するときに、撤去するお金がないってならないよう。

■参加者

いや、だけど、その10年も持たなかったらどうなん。

○事業者

保険でみんな対応できる形にはなっております。事業やめたっていうのはダメですけども、災害とかでなくなってしまった場合の復旧費は全部保険で。

■参加者

それは別にガイドラインではうたってはない。

○事業者

そうですね。はい。

○事業者

ガイドラインは後から逃げないで後ろの方に寄せるだけ。

(参考様式) (第11条・第13条関係)

事業基本計画説明状況書

2025年 6月 1日作成

事業者の住所・氏名 (法人にあって、主たる事務所の所在地、名称及び代表者の氏名)		東京都港区芝二丁目2番10号中和ビル3階 GDsPJ2合同会社 代表社員 一般社団法人ジャパנקリーエナジー1 職務執行者 松澤 公貴
事業太陽光発電施設の設置の場所		長野県塩尻市大字柿沢字永井坂886番1、886番4、887番1、887番4、886番5 (設備ID なし オフサイトPPA方式により電力売電予)
説明会開催についての周知の方法とその範囲		回覧板により東山地区及び柿沢地区にて周知を行った。
説明会の概要	日時	2025年4月26日 19時～
	場所	柿沢公民館
	参加者数	15名
	説明を行った者の氏名(法人にあっては、氏名及び役職名)	GDsPJ2合同会社 開発担当 塙 亮 GPSSエンジニアリング株式会社 設計担当 丸山 周平 土木担当 佐島 洋 設計担当 篠田 健司

注 1 説明会を2回以上開催した場合は、説明会ごとに作成すること。

(添付資料) 1 説明会で配布した説明資料

2 説明会で説明した内容、参加者の要望及び意見並びにそれらへの回答等について具体的に記載した議事録



周辺地域の住民の皆様へ GDsPJ2塩尻柿沢2太陽光発電所のご案内

再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法（平成23年法律第108号）に基づき、
説明会について（説明資料）

4月26日 第2回住民説明会資料

本説明会について

本日はご多忙のなか、弊社説明会にご参加いただき誠にありがとうございます。

再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法（再エネ特措法）に基づき制定された**再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法施工規則（施工規則）****第四条の二**において、「再生可能エネルギー発電設備の出力が50kW以上である場合、再生可能エネルギー発電事業に関する説明会の開催が必要」と定められています。また、**施工規則**に基づき資源エネルギー庁により策定された**説明会及び事前周知措置実施ガイドライン第5節1②及び3**より、受付において現住所の分かる身分証明書（周辺地域の住民の皆様に限る）の提示及び説明会の録音・録画をすることが定められております。プライバシーを考慮し、皆様の背後からの撮影とし、対外公表いたしませんので、ご理解のほどお願い申し上げます。

また以下3点のご対応をお願い致します。

- ① 受付の名簿に記入
- ② 携帯電話のマナーモード設定
- ③ お手元の資料のご確認
 - ・ 本資料
 - ・ 別添：排水計画図、造成計画図、パネル配置図、排水計算書

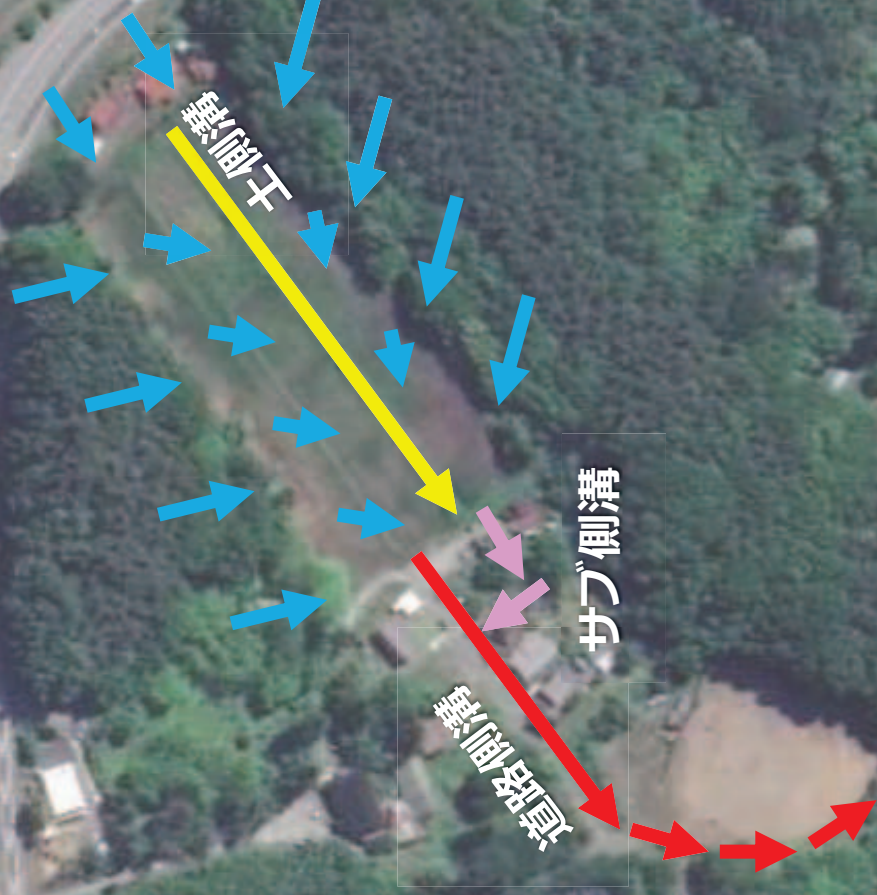
それでは開始時刻までしばらくお待ちください。

AGENDA

1. 治水計画 p.4-23
2. 造成計画 p.24-34
3. 外構計画 p.35-39
4. 設備計画 p.40-50
5. その他 p.51-54

圖書水滸

現況の治水



現況の治水（土側溝）



現況の治水（さづ側溝）



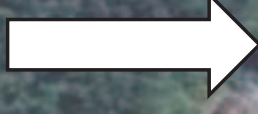
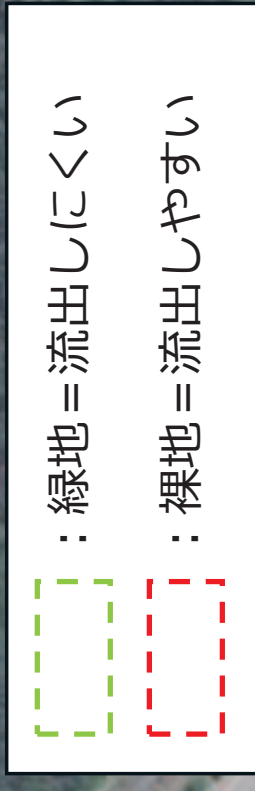
現況の治水（道路側溝）



現況の治水（拡大）



現況の治水（流出の具合）



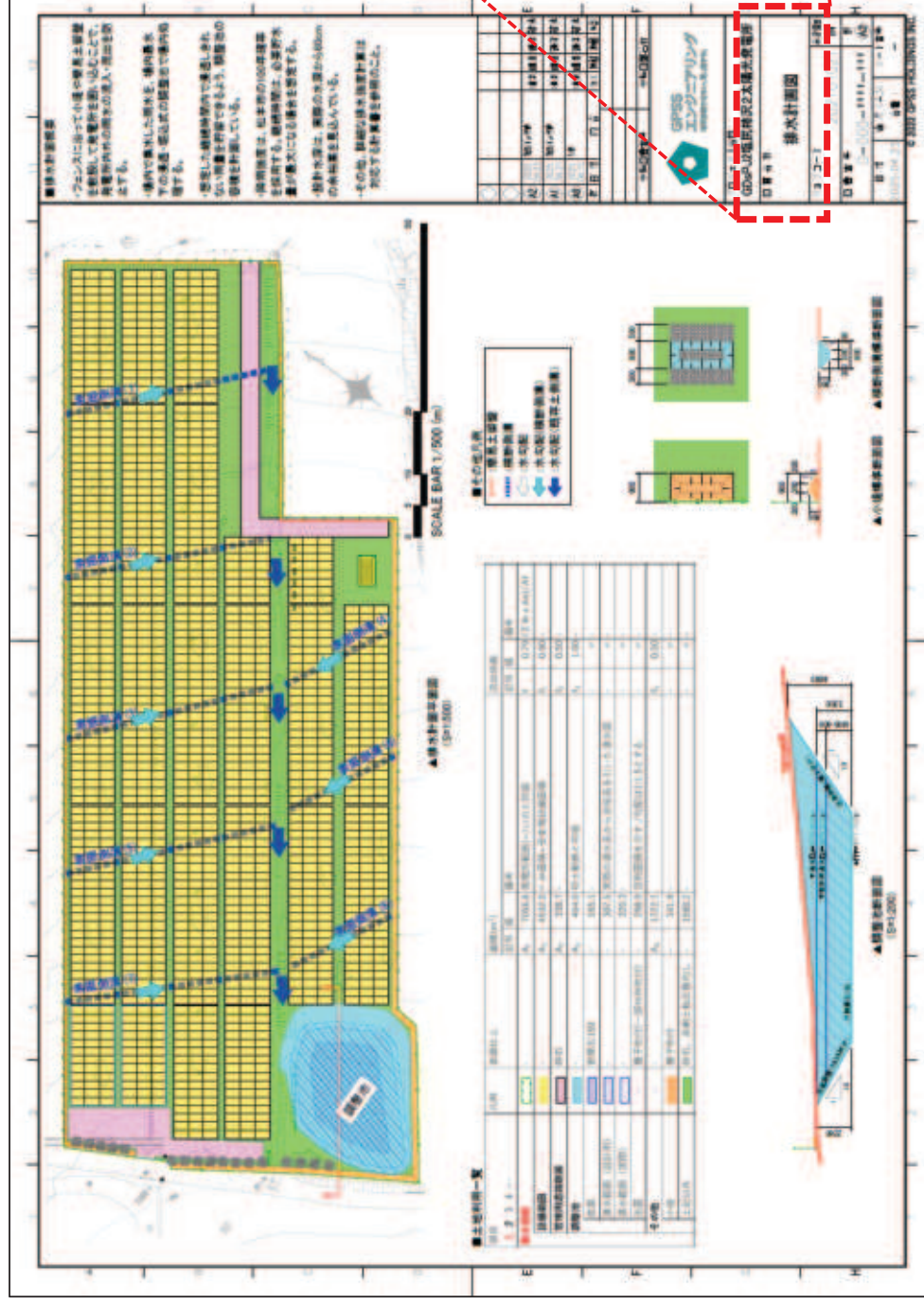
の範囲での集水を
範囲内で処理できれば
根本的改善を期待できる

治水計画

別添：

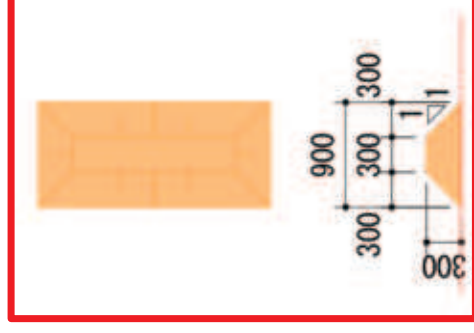
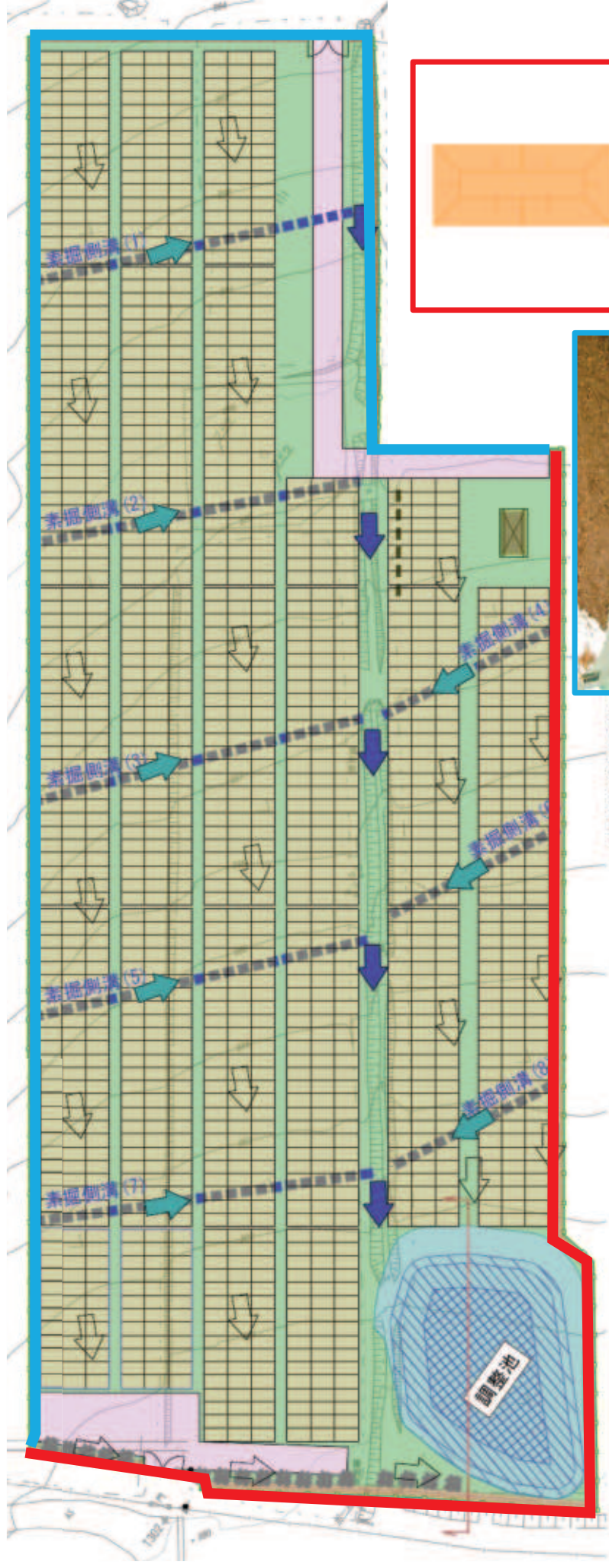
排水計画図

の内容をご説明します。



プロジェクト名称	G
GDS PJ2塩尻柿沢2太陽光発電所	
図面名称	排水計画図
ジョブコード	発行目的

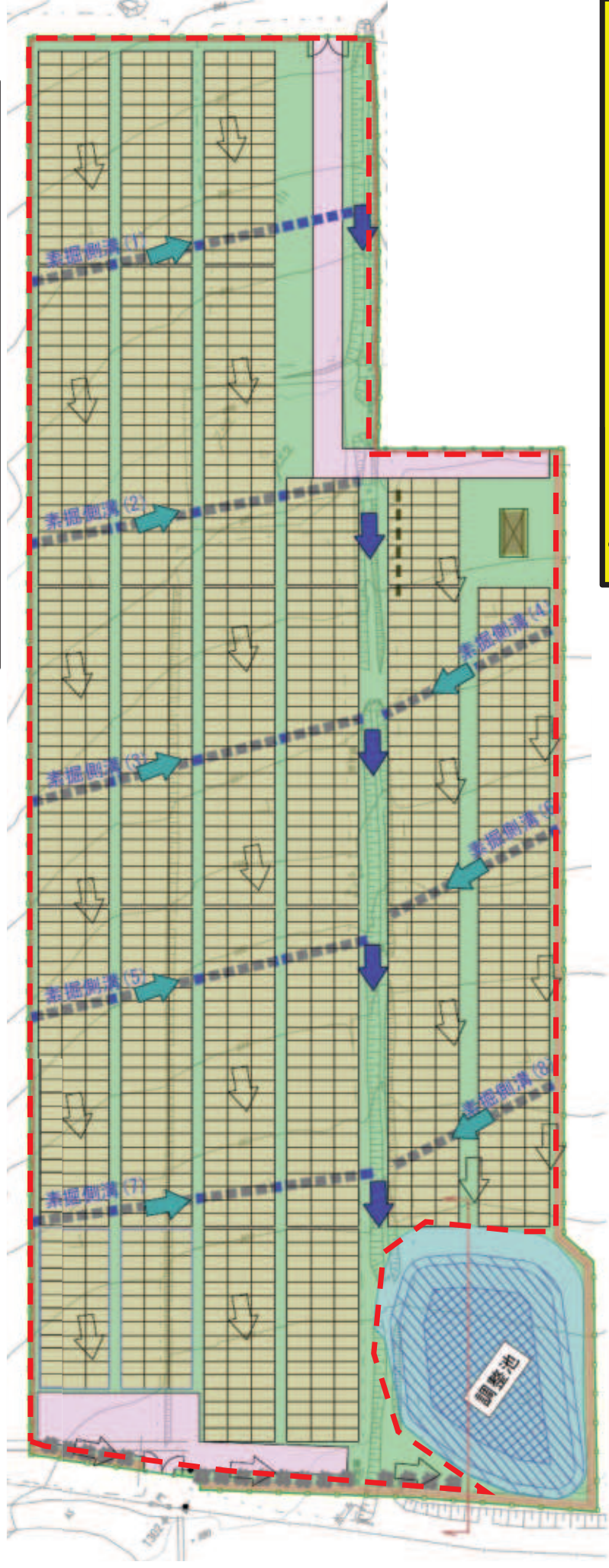
治水計画



フェンスに沿って小堤や簡易土留壁を敷設して、発電所を囲い込むことで、発電所内外の雨水の流入・流出を防止する。

治水計画

発電所のほぼ全域を覆う敷均し土を
転圧により表面を崩れにくくする



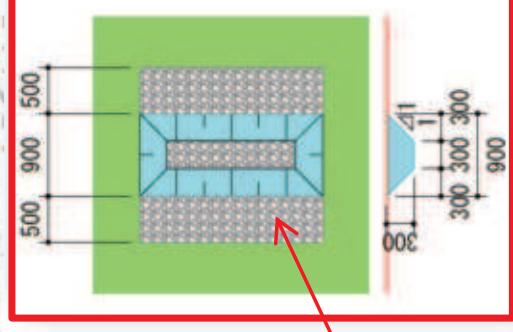
パネル直下も土

- ・ 実際はパネル表面ほど流出しない
- ・ それでも計算上はパネル扱い



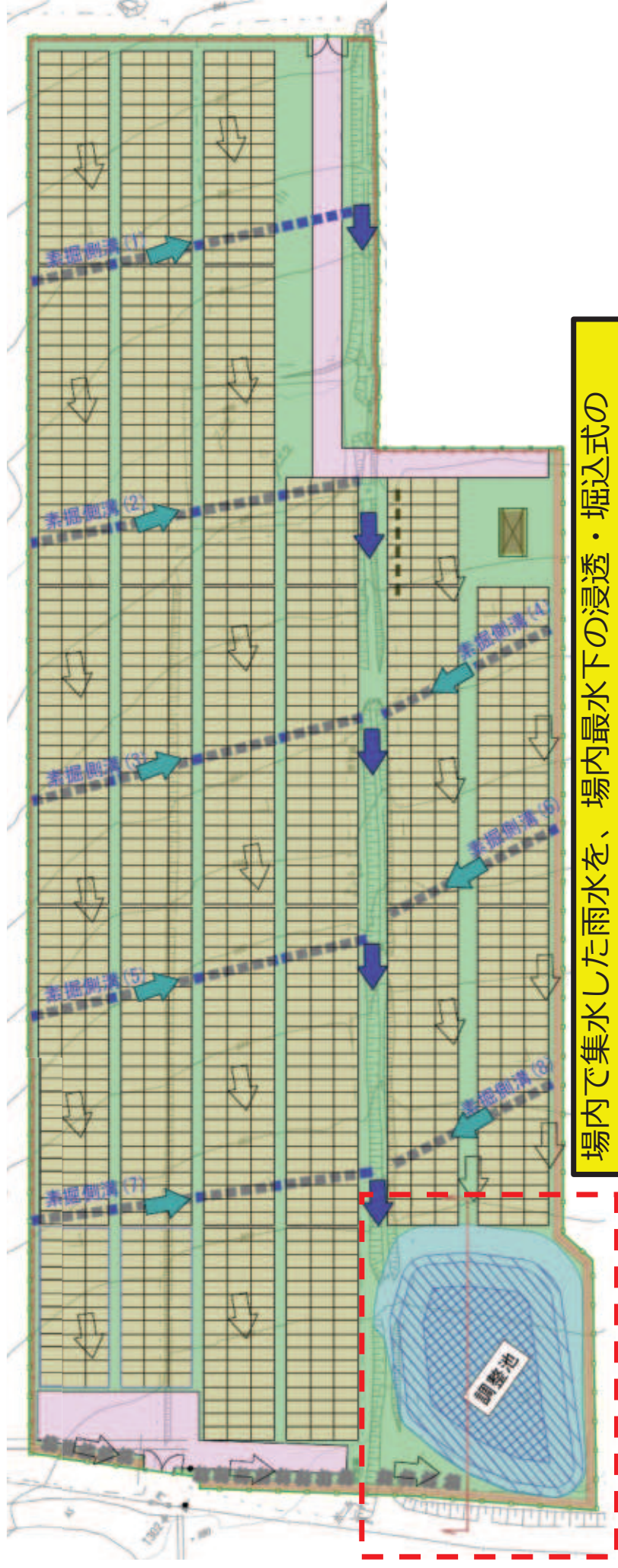
治水計画

横断側溝（素掘 + 碎石）8本を新設し、
中央の**既存土側溝**に雨水が流れやすくする



横断側溝は外周を碎石で囲い、
表土保護、流出土の堰き止め、浸透性向上
を図る

治水計画



場内で集水した雨水を、場内最水下の浸透・掘込式の調整池で場内処理する。

想定した継続時間内で浸透しきれない雨量を貯留できるように、調整池の容積を計画している。

想定する降雨量

- 長野県が指定する当計画地（松本領域）の

100

年確率の降雨強度式を採用

- 必要貯留量が最大となる継続時間・雨量を逆算し、

215 分

19.9

mm/時間

を採用

（60分の場合は 51.3mm/時間）

（10分の場合は 117.9mm/時間）

- 必要貯留量として

326

立米を想定

家庭用浴槽



1305 杯分

※250L/杯 想定



500mLペットボトル

652,422

本分

25mプール



0.5

杯分

※600立米/杯 想定



シャワー

18.1

日分

※12L/分 想定

池田 隆雄

降雨量326立米
に対して**1.14倍**

- 設計用裕 ● 設計用湛水の余裕

273

米立

60 cm

cm

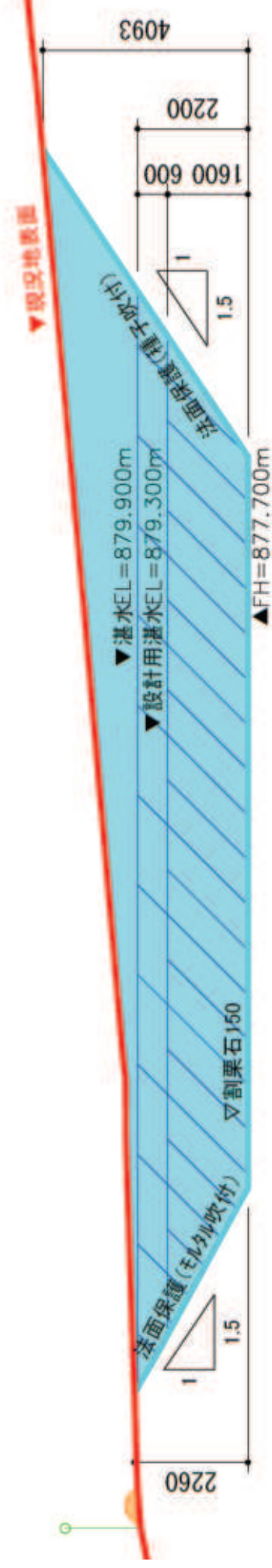
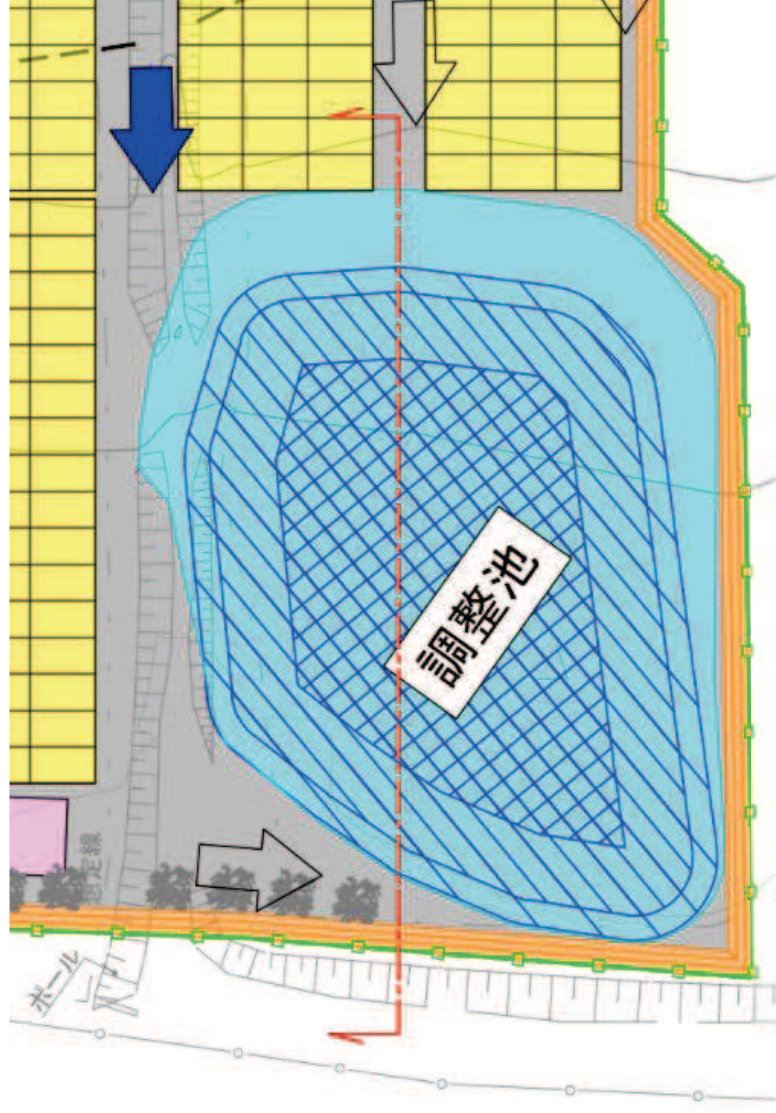
- 実際の容量
- 浸透完了まで
- 107時間

425

立米

10.7時間

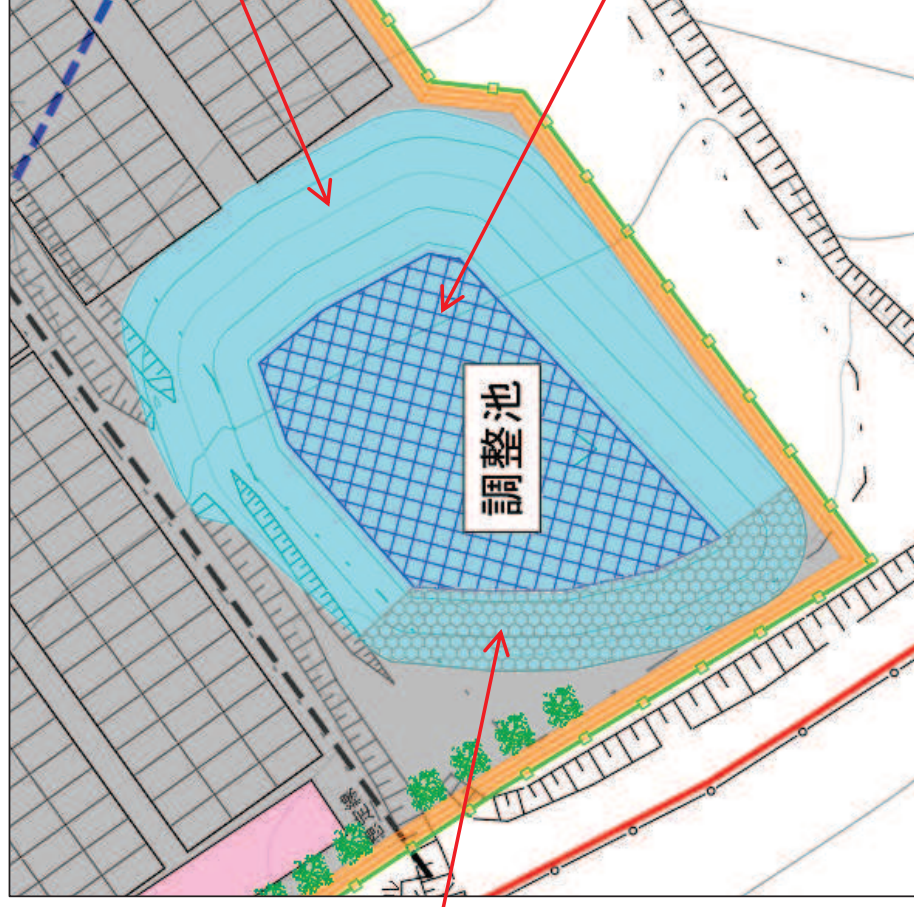
時間



調整池



モルタル吹付で
南西への水の染込みや
池の決壊を防止



種子吹付で表土を保護



割栗石で
底面の浸透性を向上

調整池イメージ

池

小堤

調整池イメージ

水（ハイドロ）

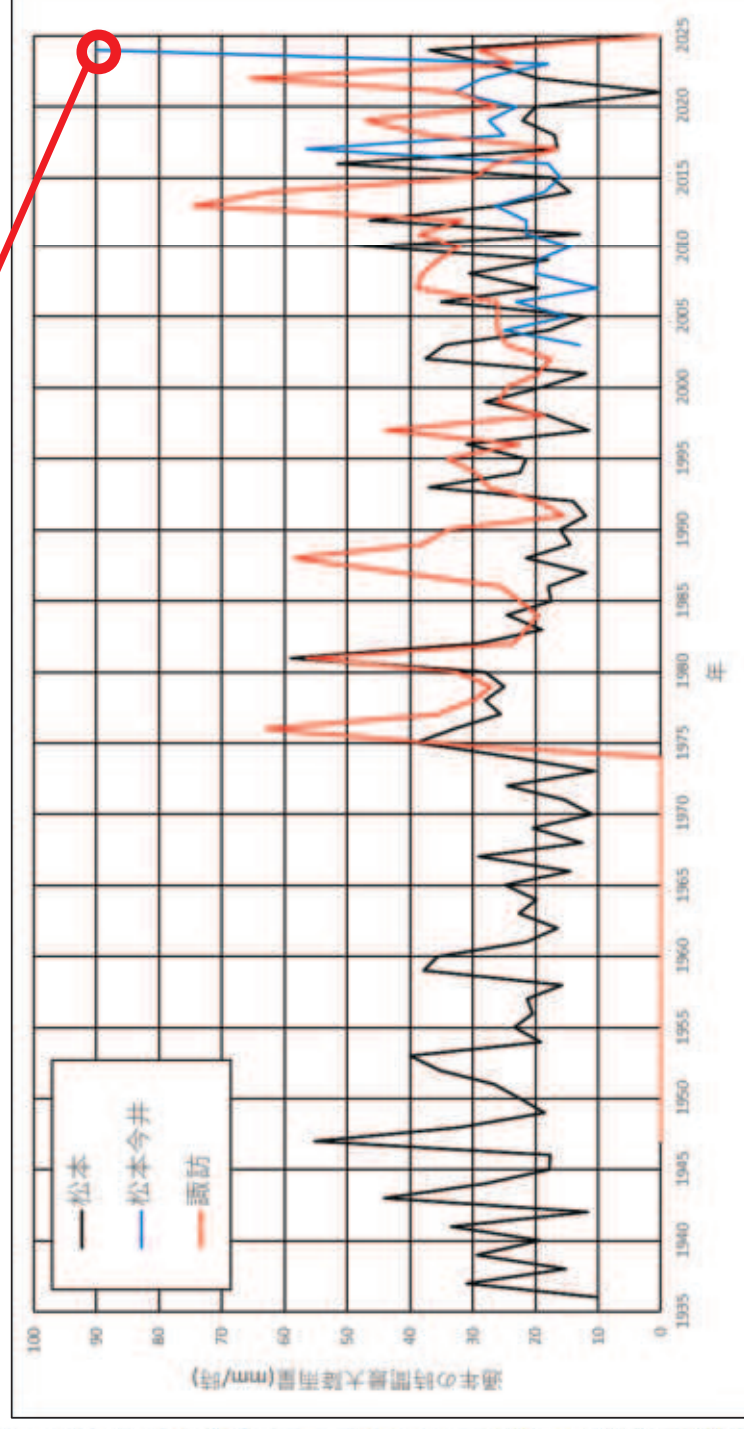
コンクリートブロック

発電所外の雨水対策

降雨記録



かなりのレアケースではあるが、
2024年に松本今井観測所で
90mm/時間の降雨記録あり



もしも100mmの雨が1時間降り続けたら？

これまで

計画地に降った雨が

ほぼ即時に直接

水下へ流出

発電所ができたら

524

立米のこの池が満水になるまで

44

分の猶予 がある。

いずれにせよ、未曾有の大災害レベルの警報が発令されるので、すぐに**避難**してください。

発電所があってもなくても、**周りの山が崩れるかも**しれません。

まとめ



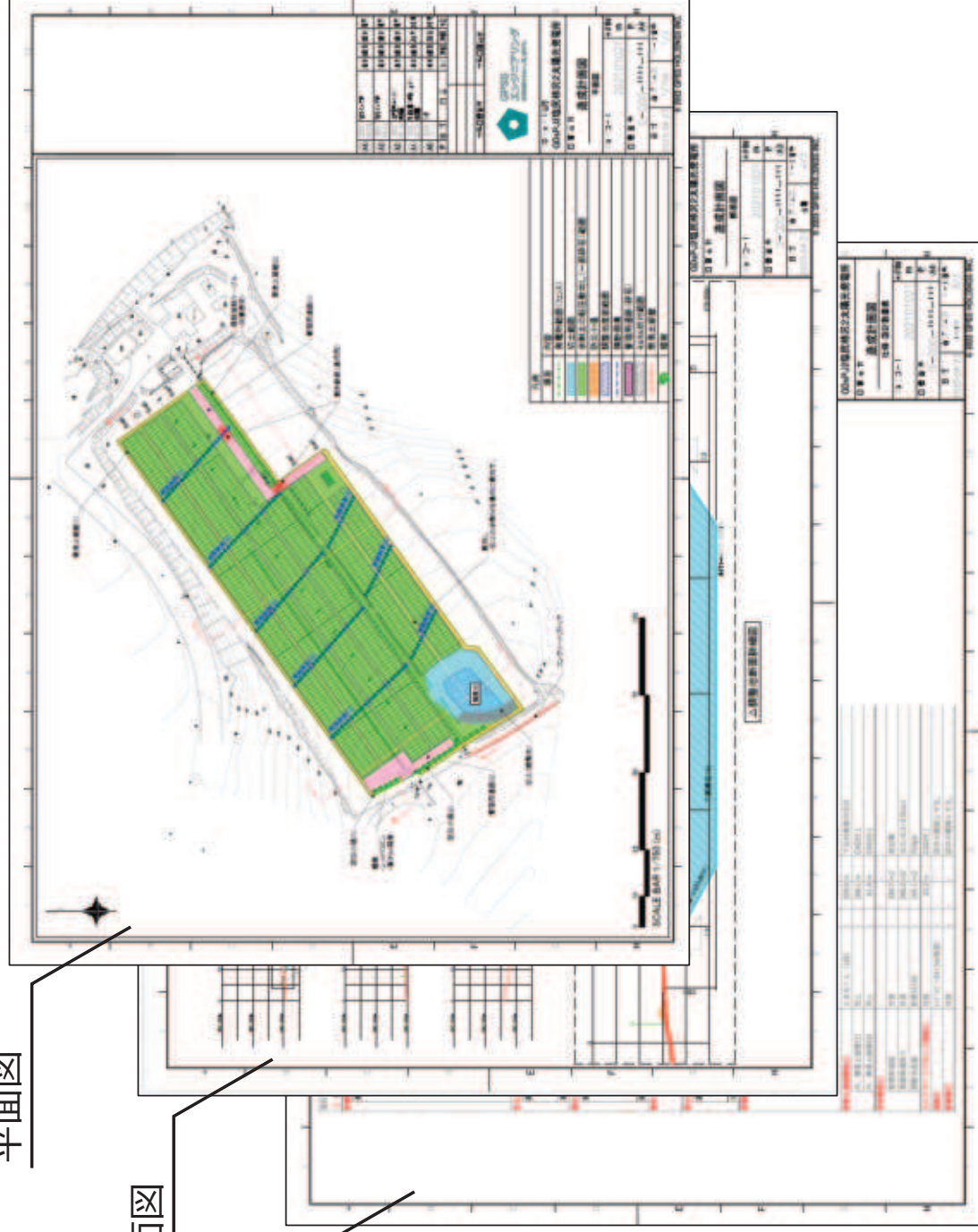
造成計画

造成計画

平面図

断面図

数量表



別添：

造成計画図

(3枚組)

の内容をご説明します。

畫語成造



調整池・横断側溝の切土



小堤盛土・転圧敷均し



表土保護

(碎石・種子吹付・モルタル吹付)



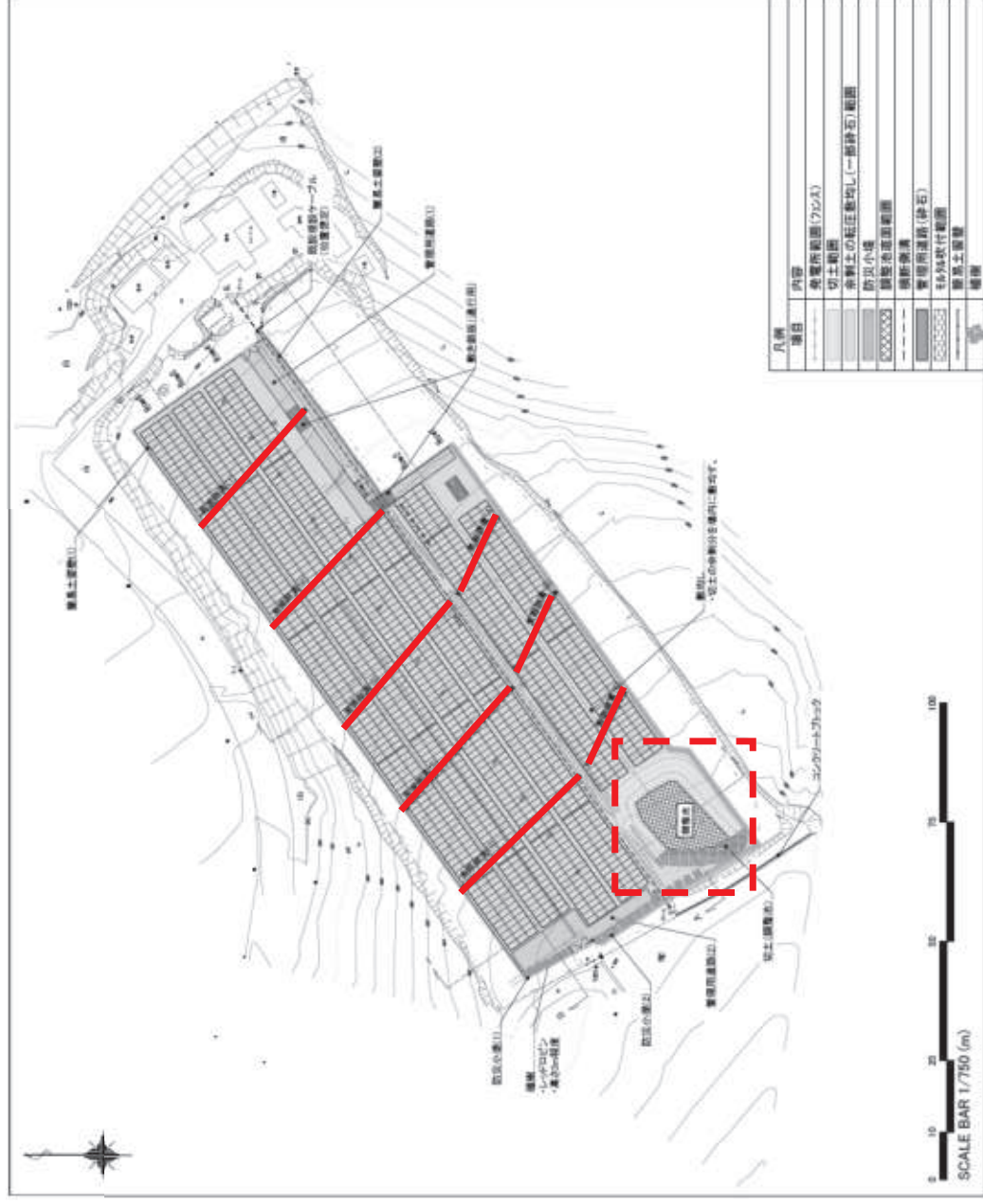
副資材の敷設

(簡易土留壁・コンクリートブロック)



植樹

造成計画



調整池・横断側溝の切土



小堤盛土・転圧敷均し



表土保護

(砕石・種子吹付・モルタル吹付)



副資材の敷設

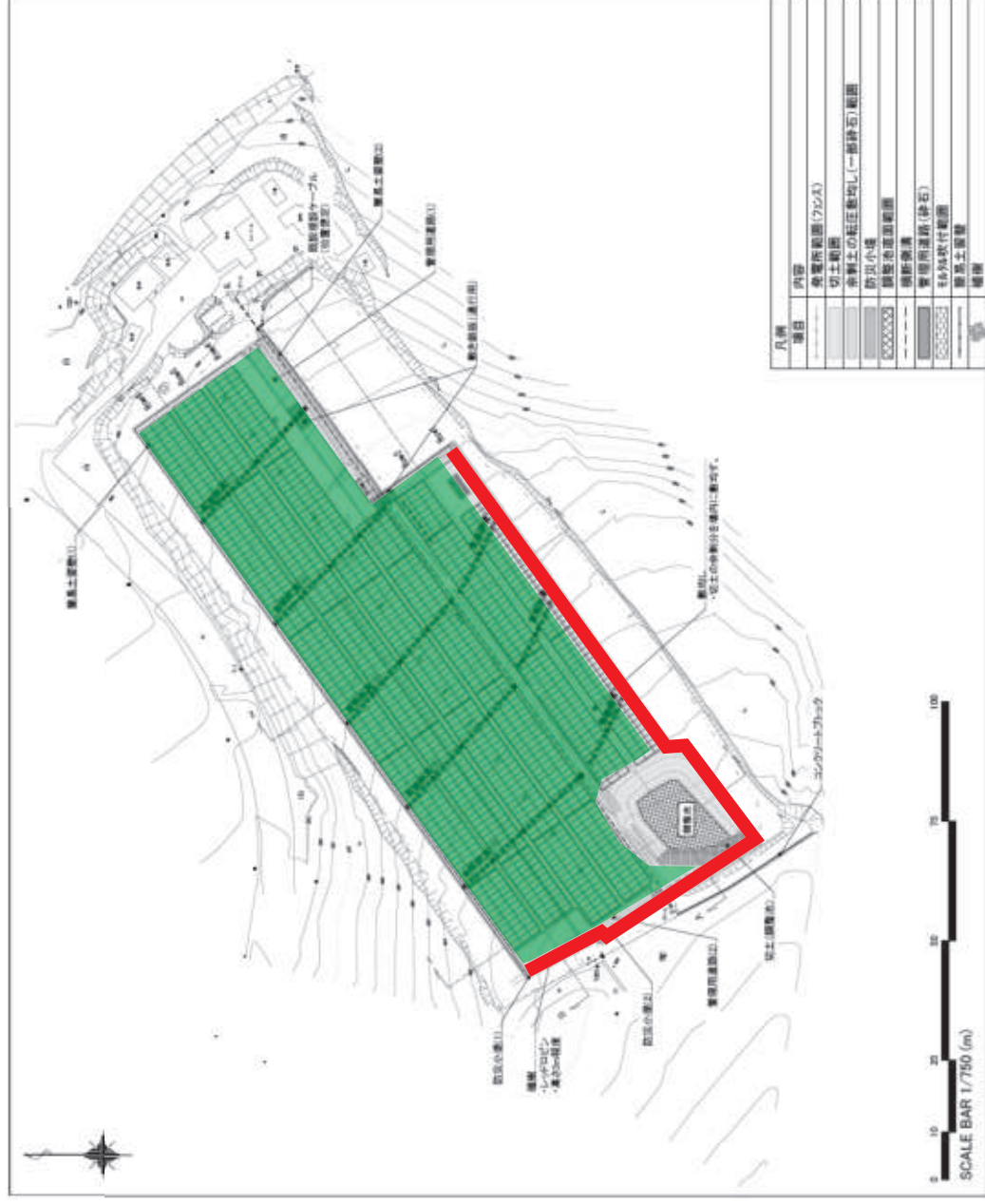
(簡易土留壁・コンクリートブロック)



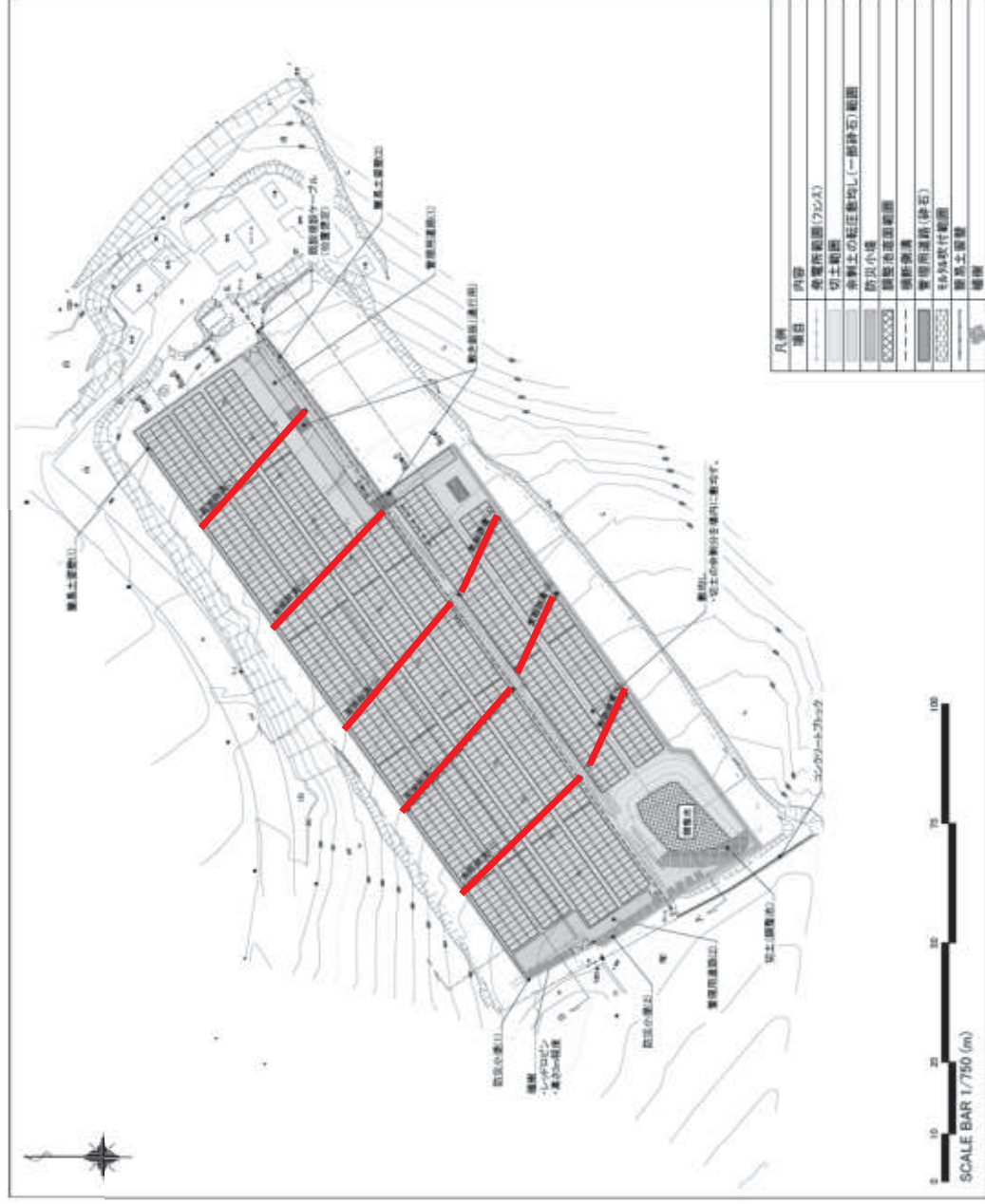
植樹

SCALE BAR 1/750 (m)

造成計画



造成計画



調整池・横断側溝の切土



小堤盛土・転圧敷均し



表土保護

(砕石・種子吹付・モルタル吹付)



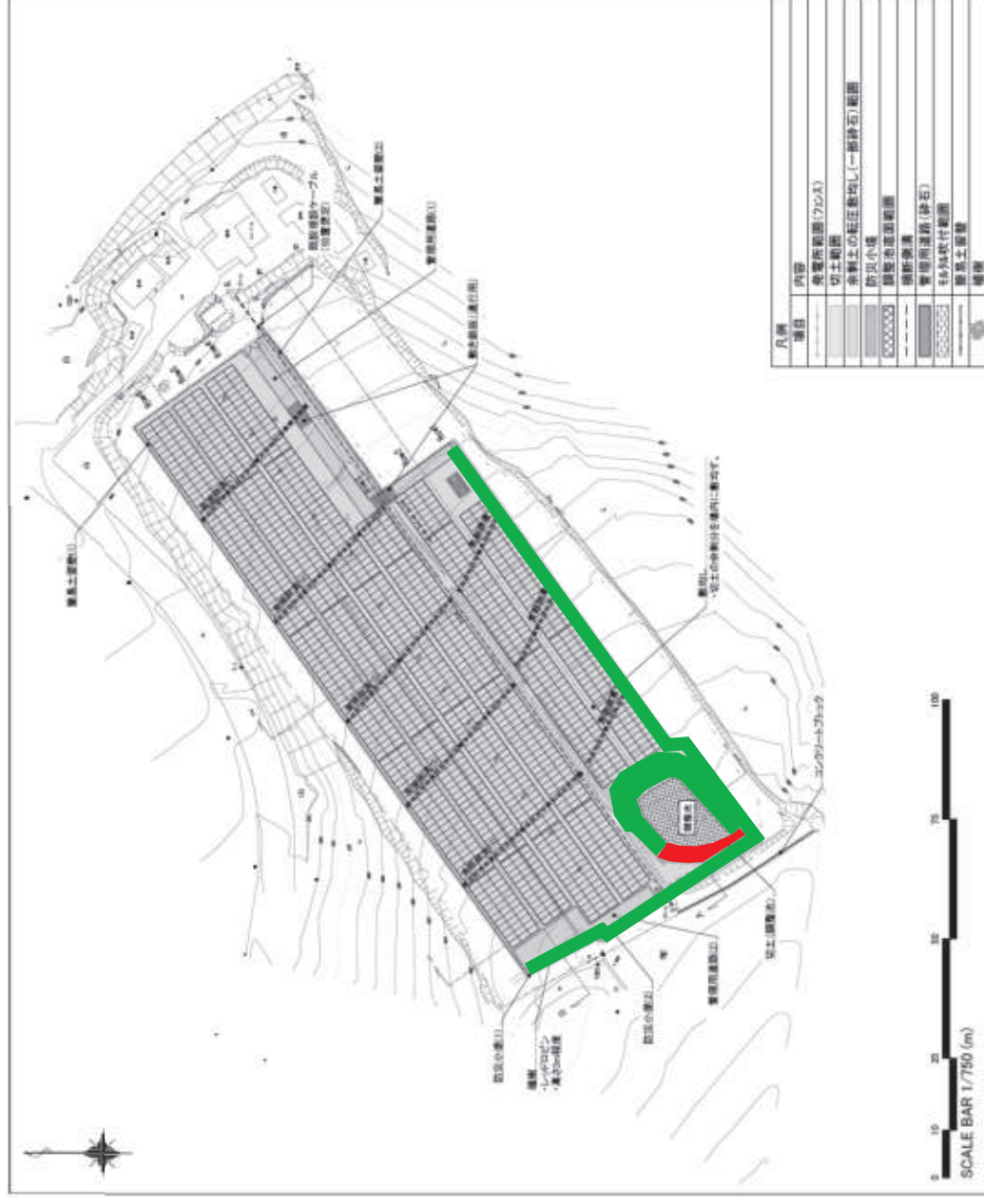
副資材の敷設

(簡易土留壁・コンクリートブロック)



植樹

畫語成造



調整池・横断側溝の切土



小堤盛土・転圧敷均し



表土保護

(碎石・種子吹付・モルタル吹付)



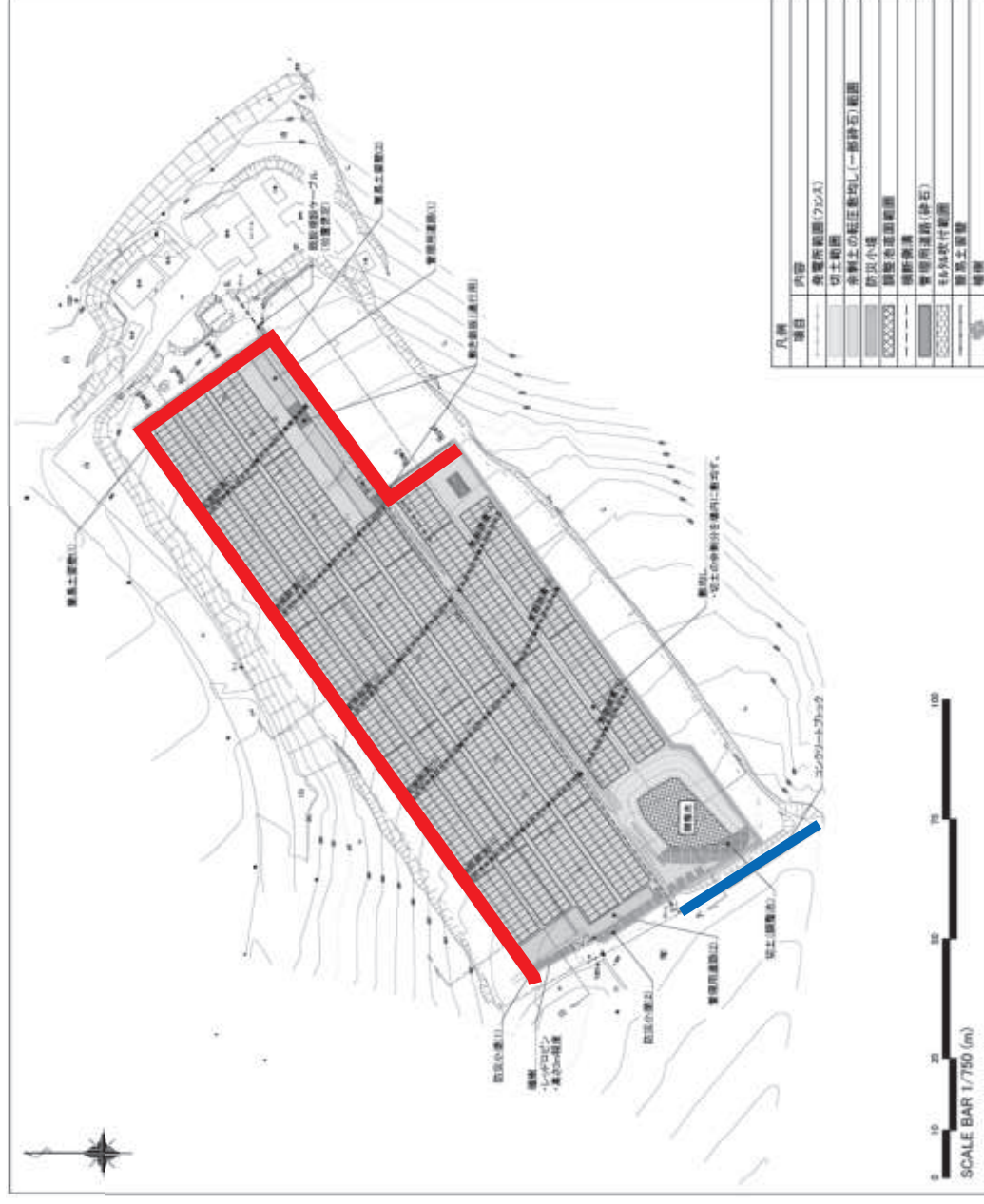
副資材の敷設

(簡易土留壁・コンクリートブロック)



植樹

畫語成造



調整池・横断側溝の切土



小堤盛士・転圧敷均し



表土保護

(碎石・種子吹付・毛ルタル吹付)



副資材の敷設

(簡易土留壁・コンクリートブロック)



植樹

畫語成造



調整池・横断側溝の切土



小堤盛土・転圧敷均し



表土保護

(碎石・種子吹付・毛ルタル吹付)



副資材の敷設

(簡易土留壁・コンクリートブロック)



植樹

造成工事 まとめ

工事主の氏名又は名称	GPSSエンジニアリング株式会社
工事が施工される土地の所在地	長野県塩尻市大字柿沢字永井坂 887番1、886番1、886番4、886番5、887番4
工事施工者の氏名又は名称	GPSSエンジニアリング株式会社
工事の着手予定年月日及び完了予定日	造成着手日（予定）：2025.8月 造成完了日（予定）：2025.9月
盛土又は切土の高さ	盛土（小堤）：30cm 盛土（敷均し）：平均15cm（転圧前） 切土（調整池）：230cm～410cm 切土（横断側溝）：30cm
盛土又は切土をする土地の面積	盛土（小堤）：141.8㎡ 盛土（敷均し）：6250.1㎡ 切土（調整池）：464.0㎡ 切土（横断側溝）：200.9㎡
盛土又は切土の土量	盛土（小堤）：28.4m³ 盛土（敷均し）：902.5m³ 切土（調整池）：890.7m³ 切土（横断側溝）：40.2 事業区域外からの搬入量：なし 事業区域外への搬出量：なし

造成工事時の災害防止措置

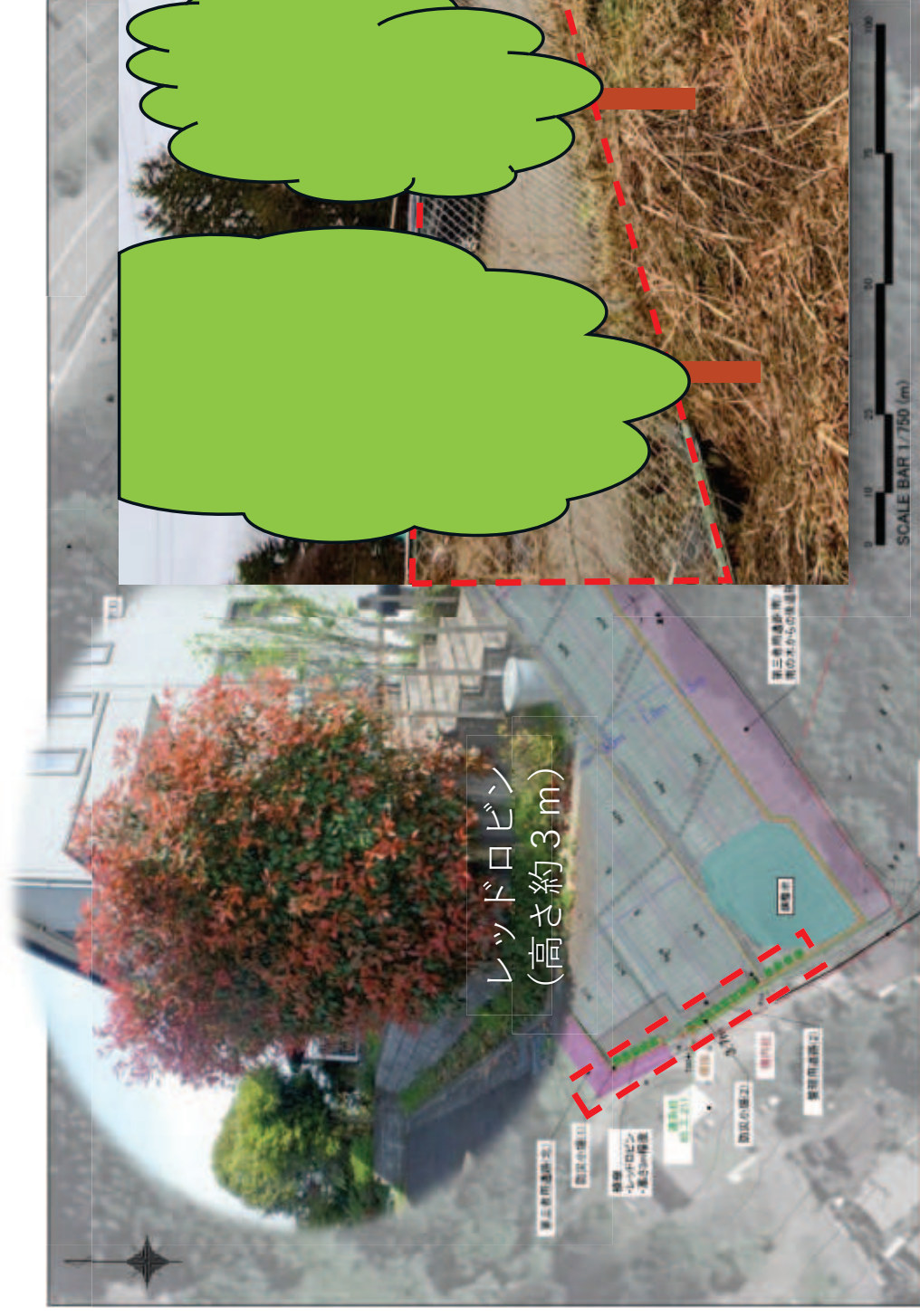
土砂等の盛土等が施工されている間における盛土等区域外への土砂等の崩落、飛散又は流出による災害を防止するため講ずる措置	・崩落しないような緩やかな法面勾配を計画しています。 ・飛散又は流出しないよう、主に下記措置を講じます ・大雨時盛土表面をブルーシートで覆い盛土・切土面の浸食や土砂の流出を抑える。 ・盛土の下部や排水の出口に土のうを設置して雨水による土砂の流出を一時的にせき止める。 ・重機や人力で簡易的に排水溝を作り、土砂の不規則な流出を防止する。
---	--

外構計画

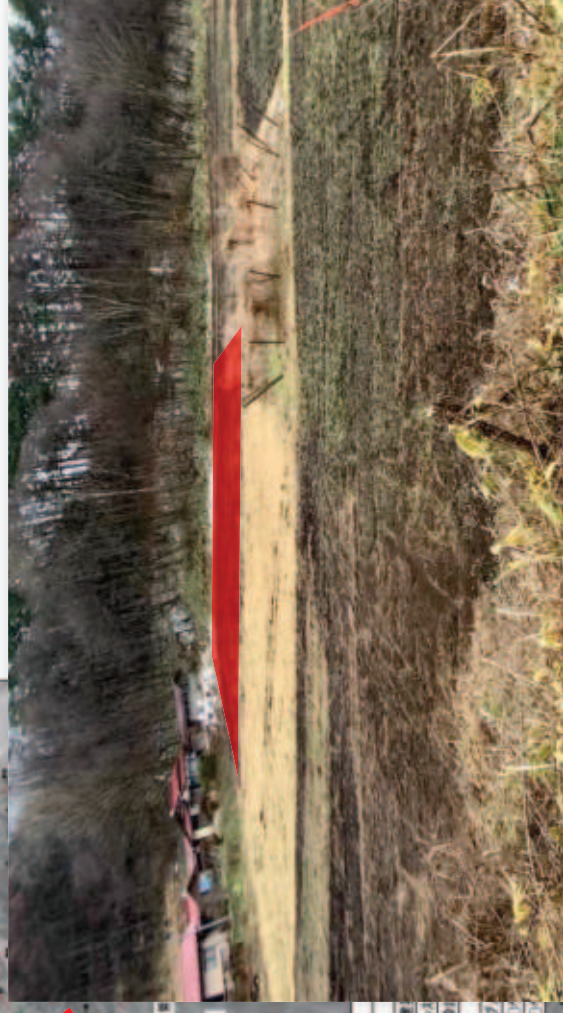
（北） 通用者三策



目隠し用の植栽



残置畑



設備計画

設備計画

航空写真表示ver.

航空写真**非**表示ver.

(設計内容は2枚同じです)

別添：

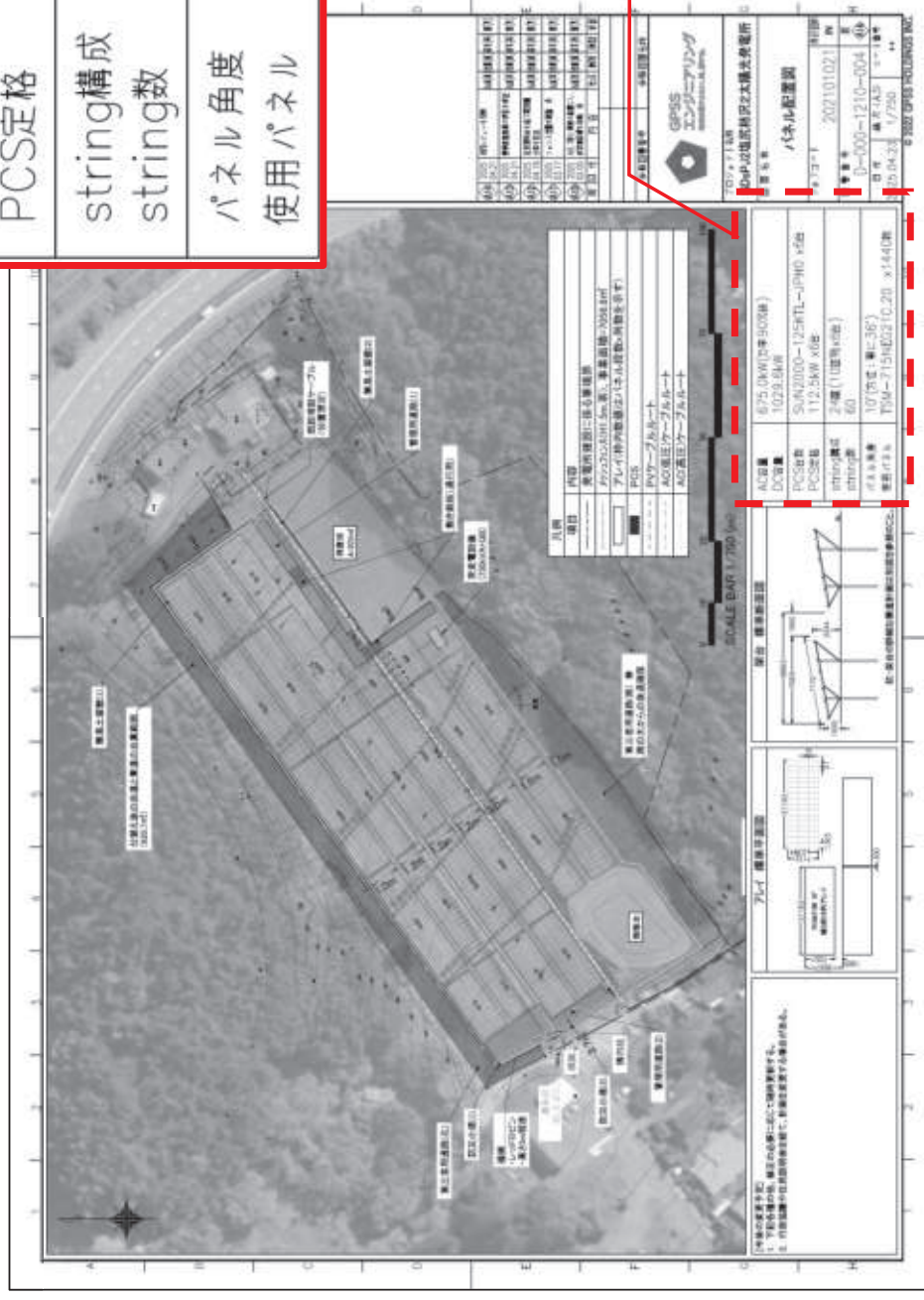
パネル配置図

の内容をご説明します。



設備計画

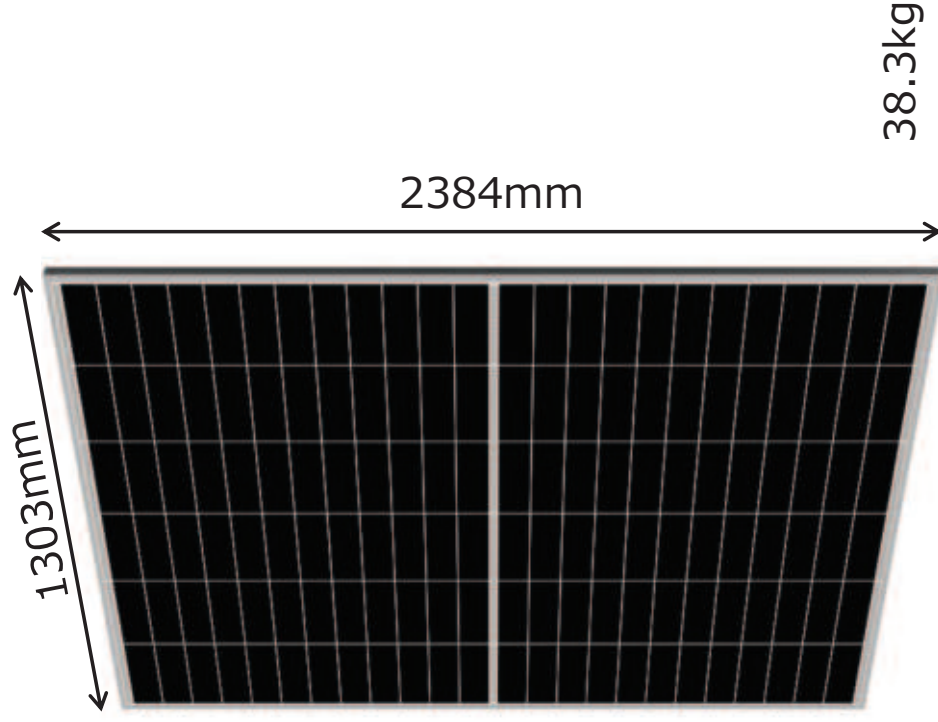
AC容量 DC容量	675.0kW(力率90%後) 1029.6kW
PCS台数 PCS定格	SUN2000-125KTL-JPH0 x6台 112.5kW x6台
string構成 string数	24直(10並列x6台) 60
パネル角度 使用パネル	10°(方位：東に36°) TSM-715NEG21C.20 x1440枚



設備構成の概略

パネル

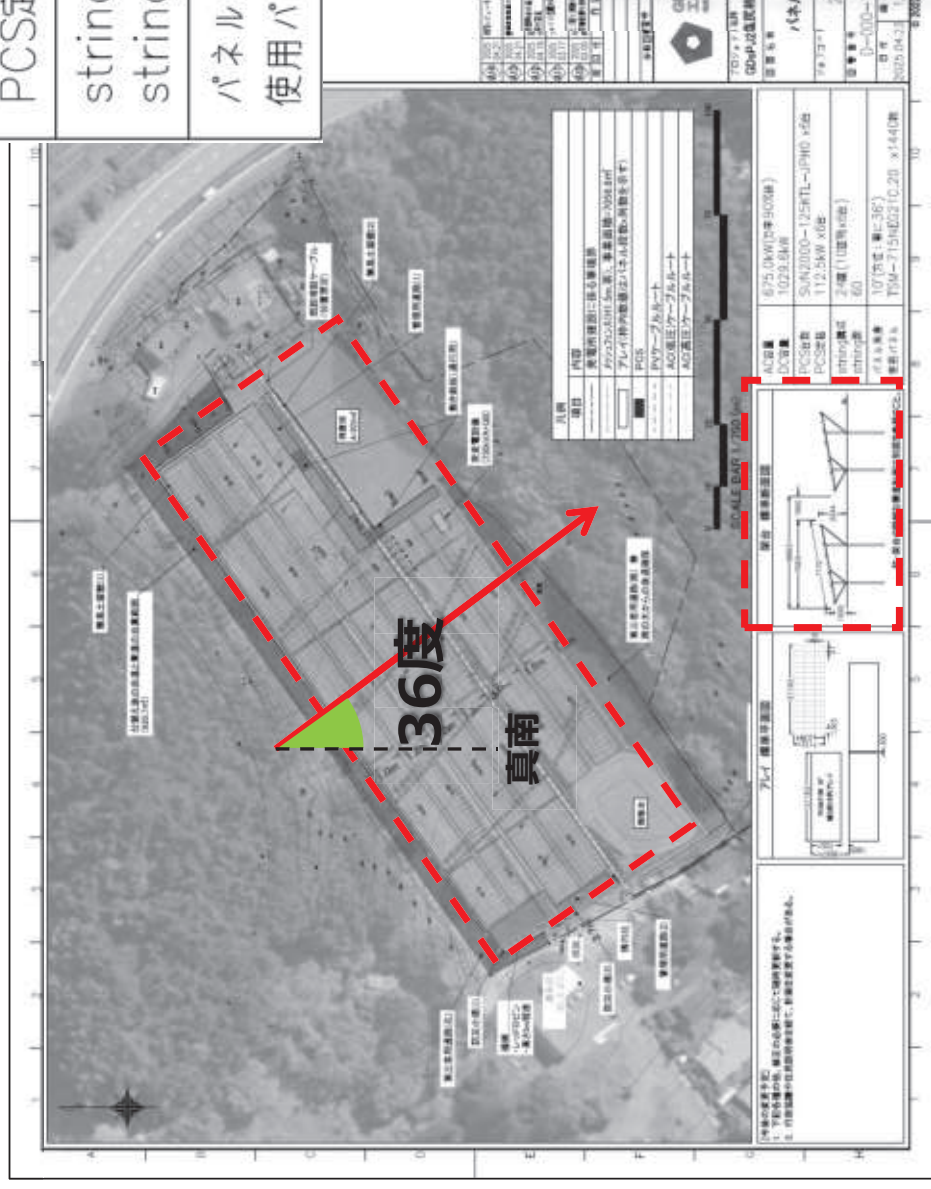
- 主成分：
- ・シリコン
 - ・アルミ
 - ・ガラス



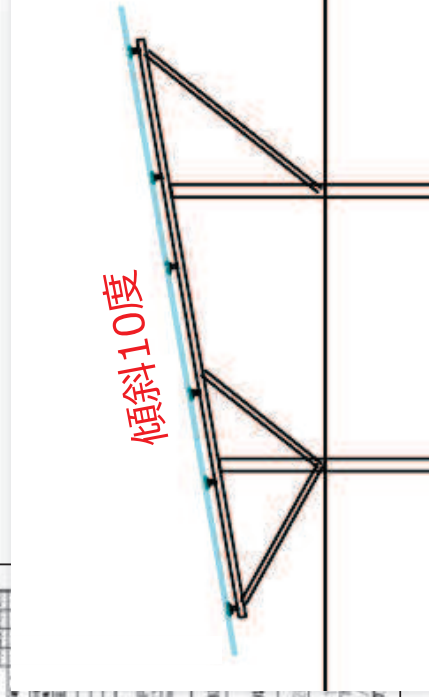
AC容量 DC容量	675.0kW(力率90%後) 1029.6kW
PCS台数 PCS定格	SUN2000-125KTL-JPH0 x6台 112.5kW x6台
string構成 string数	24直(10並列x6台) 60
パネル角度 使用パネル	10°(方位：東に36°) TSM-715NEG21C.20 x1440枚

=トリナ・ソーラー製
715W パネル

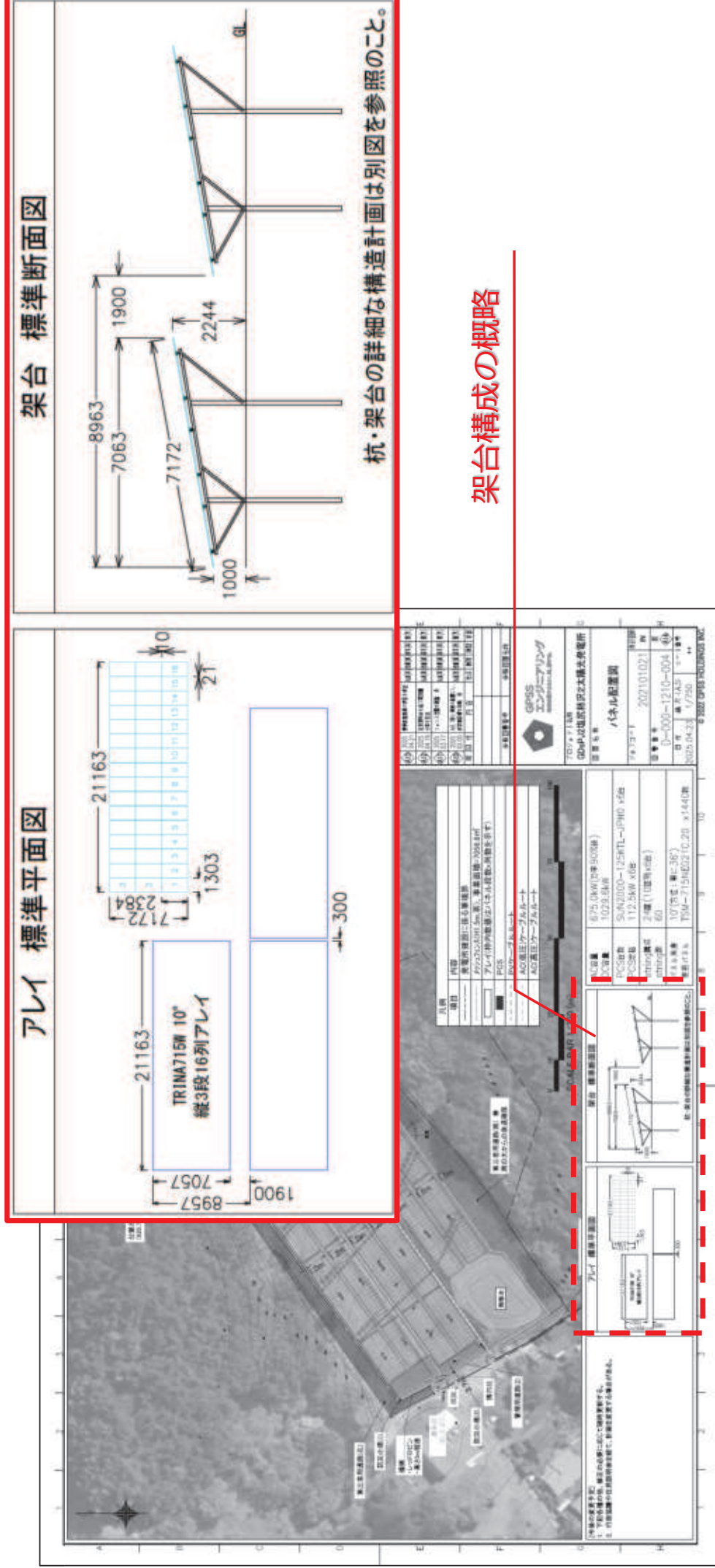
毎人に一杯



AC容量 DC容量	675.0kW(力率90%後) 1029.6kW
PCS台数 PCS定格	SUN2000-125KTL-JPH0 x6台 112.5kW x6台
string構成 string数	24直(10並列x6台) 60
パネル角度 使用パネル	10°(方位:東に36°) TSM-715NEG21C.20 x1440枚



架台・杭



設計条件

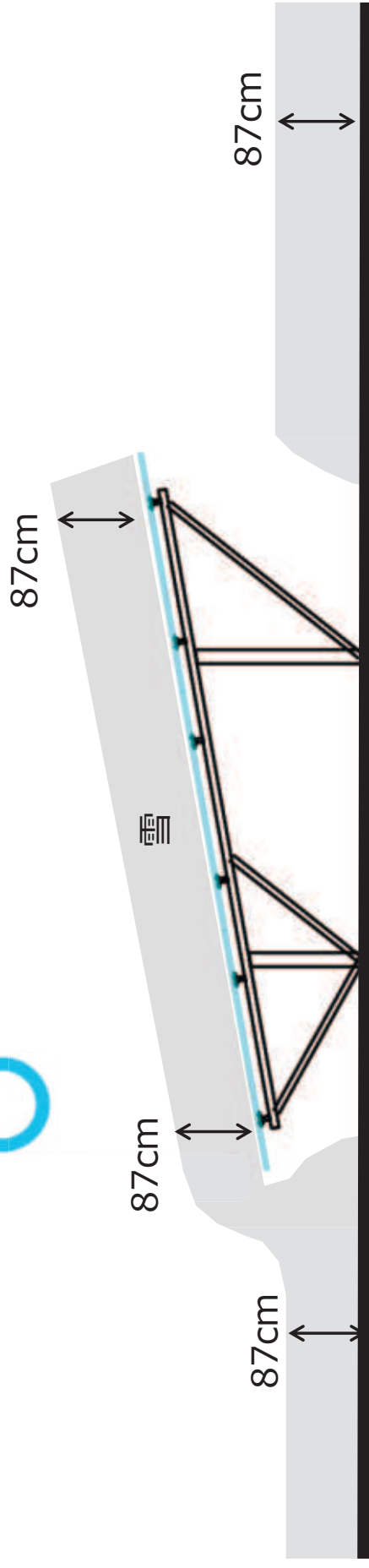
下記に準拠して設計

- ・ JIS C8955 2017 基準
- ・ 建築基準法
- ・ 建築基準法施行令、同告示
- ・ 長野県庁建設部建築住宅課、
- ・ 塩尻市役所建築住宅課建築住宅係

風速30m/秒



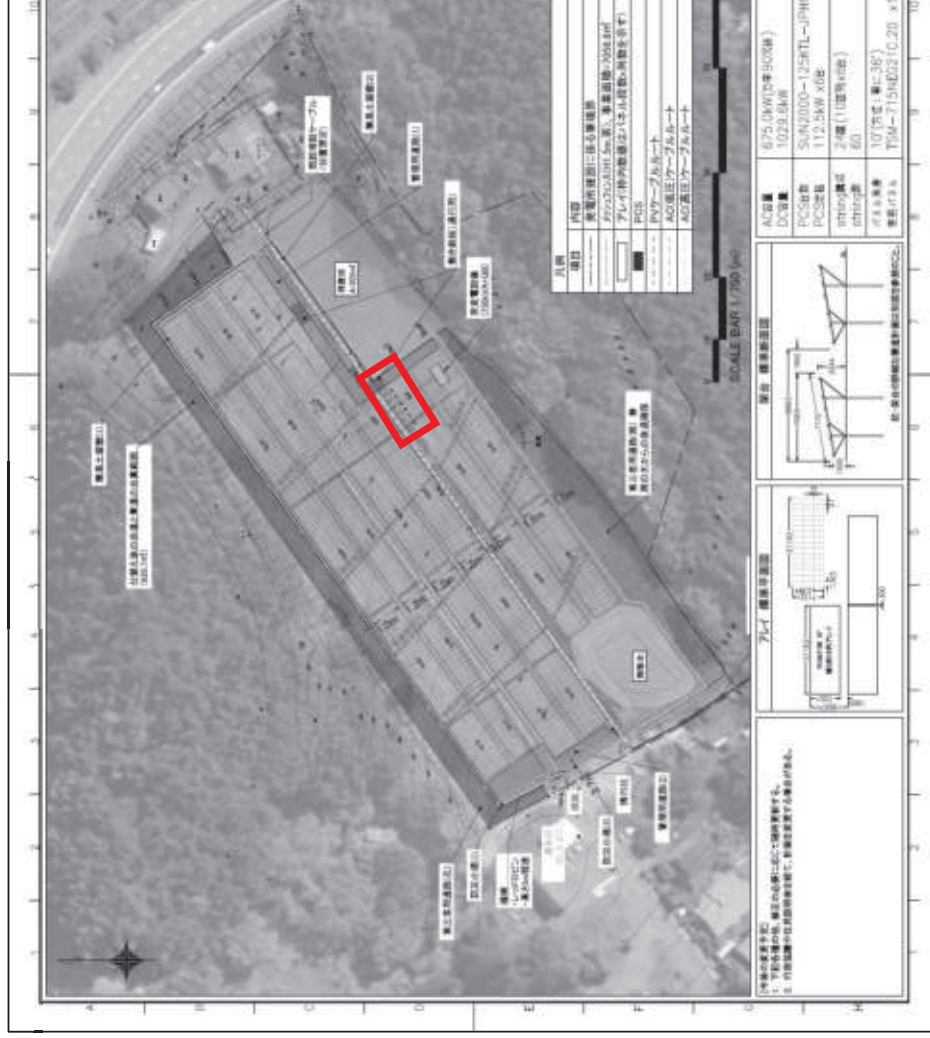
- ・ 何かに掴まらなないと立てない
- ・ 屋根瓦が剥がれ始める



PCS

パワーコンディショナー

AC容量 DC容量	675.0kW(力率90%後) 1029.6kW
PCS台数 PCS定格	SUN2000-125KTL-JPH0 x6台 112.5kW x6台
string構成 string数	24直(10並列x6台) 60
パネル角度 使用パネル	10°(方位:東に36°) TSM-715NEG21C.20 x1440枚

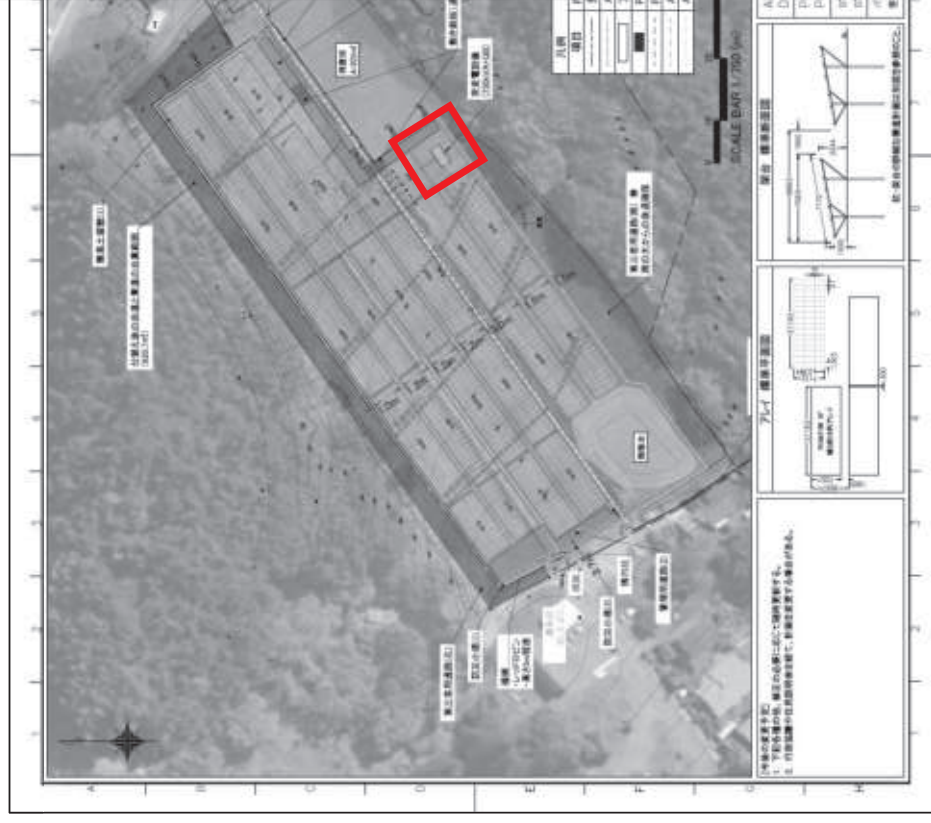


=HUAWEI製 125kW
パワーコンディショナー

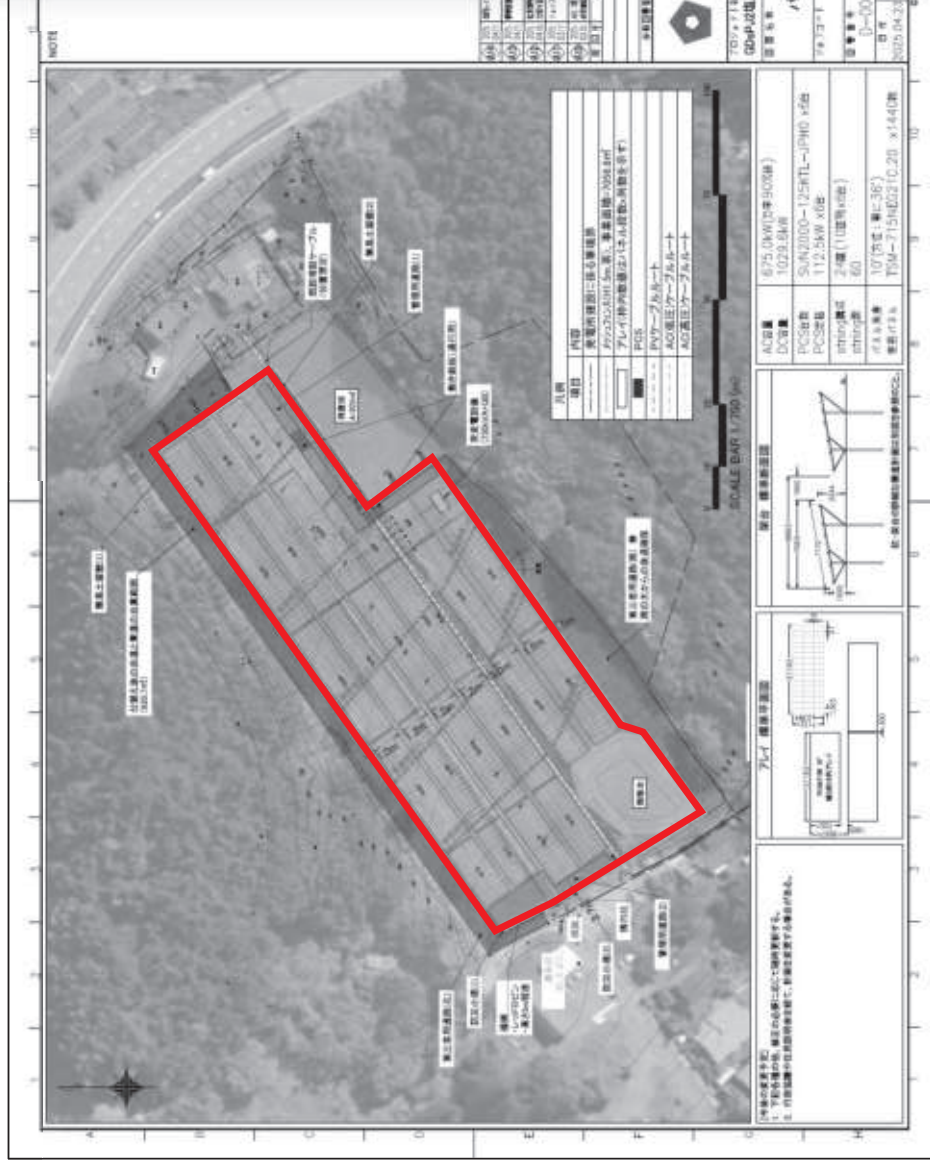
1080mm



進路指導

[illegible][illegible]

フェンス



メッシュフェンス
高さ1.5m 茶色

その他

温度上昇

太陽光発電所をめぐる環境問題と対策 ～問われる自治体のチェック能力～

長野県住民と自治研究所

傘木宏夫（NPO地域づくり工房 代表理事）

- ・独立行政法人産業技術総合研究所が独立行政法人国立環境研究所などの協力により実施した東京23区を対象としたとしたシミュレーション調査によれば、**太陽光パネルを大規模に導入した場合の気温への影響は0.1%以下**であるとの結果が得られている（2002年度）。
- ・また、これの継続研究で行った日本橋街区の比較的閉鎖的な環境におけるシミュレーションによっても、**日平均温度差は最大で0.03℃**であったと報告されている（2004年度）。
- ・また、ビルの屋上緑化として芝、セダム、コケを施した場合と、太陽光パネルを設置した場合、そして何もなかった場合の5ケースを比較した場合、**太陽光パネルが最も顕熱が少**ないことが報告されている。

太陽に照射されたパネルの表面に発生する熱

参考： <https://www.jichiken.jp/about/networks/shohou/017/>

運転開始後の管理体制について

リ
ニ
ー
ア
ブル
ジ
ャ
パン

【発電所の現場整備、維持】

✓除草作業 ✓設備詳細点検 ✓保守管理の年間計画策定

【発電所の安定的な運転の維持】

✓遠隔監視システムによる24時間365日の監視
→アラートメール発報時の迅速な現地出向確認
✓設備不具合時の保守対応、メーカー連絡、部品調達、主任技術者との連携
✓月次レポートの作成報告・データ分析

外 部 委 託

✓電気主任技術者（国家資格保有者）による電気事業法に基づく法定点検

✓緊急時駆けつけ

委託先：一般財団法人中部電気保安協会長野支店松本駐在（予定）

なにか問題があった場合には、標識に記載の連絡先へご連絡下さい。

質疑応答

本日の説明項目・説明事項に関するご意見やご質問がございましたら、お名前・ご連絡先・内容をご記載のうえ、以下いずれかの方法でご提出ください。後日書面にて回答させていただきます。

提出期限 本説明会の翌日から起算して30日後まで（4月27日～5月26日まで）

※詳細な時間等は下記の提出方法により異なります。

提出方法 【郵 送】 〒105-0014東京都港区芝2-5-10芝公園NDビル6階
GPSSホールディングス株式会社 気付
GDsPJ2合同会社 塙 亮 宛
（提出期限日の当日消印有効）

【メール】 ryo.hanawa@gpss.jp

他、気になる点がございましたら下記までご連絡をお願いします。

電話： 070-4847-8171

担当：プロジェクト本部グループ長 塙 亮

AGENDA

1. 治水計画 p.4-23
2. 造成計画 p.24-34
3. 外構計画 p.35-39
4. 設備計画 p.40-50
5. その他 p.51-54

ありがとうございました
ご清聴

GDsPJ2 合同会社 塩尻柿沢2太陽光発電所 第2回住民説明会

住民説明会議事録

【説明会概要】

日時：令和7年4月26日 19時～

場所：柿沢公民館

再エネ発電事業者：GDsPJ2 合同会社

説明者：GDsPJ2 合同会社 塙、GPSS エンジニアリング 佐島、篠田、丸山

▼はじめに

- ・事業者挨拶
- ・取得した個人情報及び録画データ等の使用目的について
- ・説明会趣旨説明

▼発電事業説明

- ・治水計画
- ・造成計画
- ・外構計画
- ・設備計画
- ・その他（温度上昇、運転開始後の管理体制、質疑応答）

▼質疑応答

参加者

コンクリートブロックっていうのを設置してくれるってあるんですけど、これ、長さはその全部じゃないんですね。西側の半分までですかこれは。

事業者

はい、そうですね。皆様が通る通路がありますので、その部分はまずコンクリートブロックをしたら通れないんですけども、そこが水が流れないように少し段差をつけて、コンクリートのCBっていうのをちょっと引きます。で、コンクリートブロックなぜ半分かというと、それは土堰堤が出来上がってるので、その部分で吸収できると。コンクリート作るのは、1番この南側のお宅にとにかく水が入っていかないように。逆に言うと、うちの発電所から流れる水じゃなくて、右側の山の方から来る水をそちらにいかないようにという形の設置になります。で、勾配で言うと池の方に低くなってますので、水はそちら側には流れていかない。多分北側のお宅の方なんですかね、心配されてると思うんですけども、ちょうどそこは植林するような形になります。

参加者

基本的に浸透させて水を出さないということですよね。そういう理解でいいですか。

事業者

その通りです。中に降った水は中で処理する。外には出さない。

参加者

17 ページ、524 立米溜まった時は 10.7 時間で終了するというね。

これ、実際やってみたんですか。

事業者

もちろん、池を作ったわけではないんですけども、浸透試験を行っています。この土地で。

参加者

計算上だよね。実際じゃないよね。

事業者

実際、我々、調整池でこういう同じようなものをたくさん作ってます。間違いないです。

参加者

ボーリング検査、あれは数値が全然出てないけども、いいんですか。

事業者

そうですね、ボーリングデータまでの下の地層図まではとってませんけれども、基本的にかなり大きな調整池で浸透する、例えば下に粘土層があって、これから浸透しなかった場合っていうのは対策を講じます。前おっしゃられたように、碎石だったら詰まるんじゃないかっていう話もございました。そこは割栗石というちょっと有形の大きなもので、我々も、今までは発電所を作ってきた時に浸透しなくて、例えば水が溜まり続けてボウフラが湧きましたというところも必ず措置をしています。

参加者

1 番問題は、下流の流域に水が溢れるかどうかっていうことがこれ 1 番問題なんですよ。これ 10 時間もかけてね、浸透する。計算でいくと。ボーリングしてあるとは思えない。

事業者

そうですね。まだ施工前ですので、ボーリングはしていません。

浸透時間に関しては、浸透試験というものをしています。杭を差し込んで研究所に持ち帰って、実験室に持ち帰って、水を実際に溜めて、実際にどれくらいではけるのかっていうのを計測した、ここの土地で計測したものを使って、この 10.7 時間というものが計算されております。

参加者

それは実際に現地でやったわけじゃないよね。

事業者

現地の土を採取して持って帰ったところでやっています。

参加者

現地の土をとって。そうですかじゃあ、ボーリングしたってことですか。

事業者

ボーリングほど大規模ではないんですけれども、50 センチぐらいの。

参加者

50 c m ぼじくったってダメですよ。ほら、無理な話じゃないの。だって 10 時間かかるでしょ。500 m³ ぐらいが。

事業者

500 m³ もし溜まるような雨が降った場合は、すでにもう皆様のお家が大災害になっているぐらいです。

参加者

それは計算で出てきたんですね。きっとそうでしょ。

事業者

10.7 時間は計算で出しております。

参加者

今、現行の太陽光を作ってやってるのは、池に直接入るようになってる。この農業用水の水路が入らないようになって、それはなぜかっていうと、大量に水が流れてくるから水を

管理できないということで。ところが、おたくのを見ると、水路はこの農業用水路にはいっちゃうんですね。

それで、管理人がいるんですけども、管理の人が止めても、この水は止まることはできないんです。

事業者

発電所に入った水は発電所の外には出しません。流れません。発電所の中で処理します。

参加者

いえるんですか。そんなこと。

事業者

言えます。100 年確率の雨で想定しています。

我々が今回この場で説明させていただいている 1 番の目的っていうのは、前回色々指摘をいただいたものに対して我々としてどこまで解決できるかっていうところでご説明させていただいています。基本的にですね、我々がその開発するエリアに降った雨っていうのは、そのエリア外に出すっていうことは、考えておりません。全てその敷地内で処理をするということで、まず、調整池をつけてですね、そこで処理をするっていうところで、これが 1 つ目の大きな方針です。もう 1 つは、これまでですね、現時点において、南のお宅にですね、雨が降った場合に、直接敷地内に雨水が入るところで、そこに関しては、我々の計画する土地外ではあるんですけども、まずはその現況、問題が生じているっていうことに対する対策をする。その上で、我々がその開発するエリアに対して降った水っていうのは外には出さないということで調整池等々を作る計画っていうことでさせていただきます。

じゃあどうやって敷地外に水が流れないようにしているかっていうところなんですけれども、これについて最初の方で説明をさせていただきましたが、まずはその小さな土手を作るんですね。土手を作るというところと、あとは、北側に関しては土留めの壁ですね、金物の板を周囲に巡らせることによって、我々が開発するエリア、その全周に対して、土手であるとか土止めで水が流れてくる、水が外に流れ出るのを防ぐための壁を作るということで、完全に敷地内に降った雨っていうのが外に流れ出ないような対策を施します。その上で、じゃあその実際その敷地内に溜まった水、これをどうやって処理をするかっていうところで、やっぱりこれ調整池を作らないと、土手から溢れ出たり、周囲を囲ってるその壁ですね、それを超えて水が出るっていうことが万が一にも考えられるので、それを防ぐために、今回、調整池っていうものを計画をしています。それについても、長野県の方で出されている、100 年確率、100 年に 1 度降るか降らないかっていう雨でも、水が溢れ出ないだけの調整池っていうのを計画をしてですね今日、この場で説明をさせていただ

いてるってことです。

なので、まずは、現在起きている問題に対する対策というところで、南のお宅の家の前に、コンクリートブロックを積んでですね、直接敷地内に入らないようにするというところが1つで、その上で、我々が計画する敷地内において降る雨が、場外に出ないように対策を施すというところで、今回の計画とさせていただきます。

参加者

じゃ、基本、基本的には外には一切出てこないということ。

事業者

そうですね、外には出さないということで計画してます。ですので、これまでは、前面にあるそのフェンスを通して、南のお宅には、直接敷地内に入ったかわかりませんが、真ん中に入っている大きな土側溝から流れてきた水が、その先に小さな水路があるんですかね、側溝が、今、この絵で言うと、そのサブ側溝ってところがあると思いますけれども、もしかすると、これまでもこのサブ側溝から水が溢れてたってことがあるのかなと、ちょっと我々把握はしてはいないんですが、ただ、可能性としてはこれまでもそういうことがあったらうなということは想定はします。

ですので、あくまでもこの我々のこの計画する敷地内に降った雨っていうのは我々の施設で処理をします。で、一切それは外に出さないっていう計画で今回考えておりますので、少なくとも、これまで少なからずその外に水が出てたってことがあったとすれば、今後そういった事態っていうのは起きないというところで計画をさせていただいた上で、我々が、今回ですね、太陽光パネルを置かせていただきたいというところでございます。

参加者

23 ページのまとめに書いてある。

これは、左側が現状で、右側になるということか。

事業者

はい、そうですね。

参加者

それで、疑問に思うのは、5 ページの現状の治水と 5 ページの図これ現状ですよ。

10 ページも現状ですよ。この青い印は、まとめて書いてあるところは枠の中ですよ。違いますよね表現が。

事業者

青い矢印が足りないということですよね。そういうことです。おっしゃる通りです。追記しておきます。

参加者

現状じゃないですよ。それで、今回の結果、外のものが、その 10 ページで言うと、現状の治水で、赤い点線の範囲で集積を、範囲内で処理できれば根本的な改善が期待できる、緑地帯は流出しにくいってなってますよね。

で、緑地帯が流出しにくいってことは、0 じゃないってことですよ。

事業者

0 ではないです。

参加者

水入ってくるってことですよ、多少は。で、さっきおっしゃった 100 年確率のその雨が降った時に、じゃあ外からは 0 なんですか。

盛土があってもそれだけダメだったら超えてくる、入ってくる可能性はないっていう形で説明してますよね、今。本当にないっていう保証、それは確認できてるんですか。

事業者

水が競り上がってくる想定ということでしょうか。

参加者

そうそう。雨降ればゴミもふるから、どっかで詰まって盛土があってもオーバーしてこないんですか。入って左右。その可能性は盛土しても入ってくる可能性はあるんじゃない。

事業者

その森の方から我々の敷地内に水が入る可能性があるってことですか。それから言うんですね、す、なんて言えばいいかな、木が生えてると、特に林とか森ですよ。林とか森っていうのは、水を蓄える能力があるってところで、その水が外に流れにくいっていう話なんですね。で、今、今回この我々が計画しようとしているところ、これ、今、現時点では畑ですけども、畑と森と比べた時に、どちらが流出しにくいか、どちらがその水を溜め込みやすいかっていう話になると、森の方が溜め込みやすいんですね。で、畑の方が溜め込みにくいんです。で、それ、逆に言うと、森の方は水が流れにくい。で、逆に畑の方は水が流れやすいんですね。っていうところで、今のご質問っていうのは、その森から流れてきた水が中に入らないかっていうことだと思うんですけども、基本的には、その畑の方が流れにくいっていうことは、畑の方が、よりその表面に水が溜まりやすいと言います

か。なので、何もこの壁がなかった場合ですね、その畑から森の方に水が流れる可能性はあるにしても、森の方から水が入ってくるっていう可能性っていうのは少ない。で、それを、横にその壁を仕切ることによって、よりその外に出やすいその畑内の水を、我々が今回計画する調整池で受け止めて、で、それを時間をかけて浸透させることで、我々の敷地外に水が出ないようにっていう対策を取ろうという風に考えてます。

参加者

それはわかるんですけども、説明したところで、それを0として考えてるんじゃないか。入ってこないものとしてご説明なさってますよね。

事業者

入ってこない、そうですね、はい。

参加者

あった場合は想定外ですね。

事業者

はい。あった場合は想定外ですけど。

参加者

多少は入ってくる可能性を。0にしてしとかなないと、土地管理する場合に。だから、どこまでそれが0だと保証し、理論的にはそうですけども、それが完全に0じゃないわけじゃないですか。多量の雨が降れば川のように流れてくる。それだけの想定外の雨なんだから。だから、森林火災、森林の被害だって起きてるわけでしょ。それはないものと想定しているのか。このぐらいはあるだろうっていう形のものも、想定の中であっても、これだけのことがあっても大丈夫だという形になるのか。そこの説明をしてほしいと。

事業者

今日の資料に関してはですね、ちょっと繰り返しにはなるんですが、あくまでも我々が計画する敷地内において降った雨、これを外に出さないということを大前提に計画をしておりますということで説明の方させていただきました。ただ、今のご質問に関しては、要は、その周辺の、森からですかね、森から入ってきた水、降った雨水が万が一にもその敷地内に入ることがないのか。多少なりとも入る可能性があるのであれば、それも考慮した上で施設の検討をしないといけないんじゃないかという風な質問だと理解しております。現時点ではですね、私が先ほど説明をしました通り、降った雨で、その水の地面の水の蓄えやすさ、蓄えにくさっていうところから、森と畑を比べた場合に、畑の方が水は溜めにくい、

畑の方が水が表面を流れやすいってということで、基本、森から入ってくる水っていうのは、もうその、限りなく低いというか、今、現時点では、入ってこないっていう前提で検討はしてるんですけども。で、それが、じゃあ実際どのぐらい森から入ってくる可能性があるかっていうことになる、我々としてはですね、基本的にはないっていう風な理解にはなるんですが。

参加者

先ほど浸透に関しては、その土でもってどのぐらい浸透して、時間で浸透していくかだっている形ですね。

じゃあその森林の土地でやってみたら。どのぐらいで浸透するかわかるでしょう。

事業者

ただ、我々の計画用地にはならないところなので、乱暴ですけど、ちょっと違うところまではできないので。今回の趣旨は、我々が計画する土地の中で降った雨は全てその中で処理しますっていうところなので。

参加者

でも、構造的に、計画している土地の方が高くて、周りの土地が低かったらそれは言われる通りになると思いますけども、逆に周りの方が高いわけです。

事業者

高いと言っても、山は高いですけども、流れてくる水っていうのは、あくまでも、我々が土手を作ったりその柵を作ったりっていう、その境界の部分っていうのは同じ高さだと思っていて、少なくともその土手の高さ、あとはその柵の高さの分だけは、水っていうのは、そこまで乗り越えてくるってことはちょっと考えにくいかなと思うんですけど。

参加者

現状の治水の図からすると、左、右、上、上から全部水が流れてくるようになってるわけでしょう現状は。地形的には。で、それ表してるわけでしょう。これで、これから我々が理解してくださいってなる。それだけの水が流れ込んでる現状を解決していかなくちゃダメってことでしょう。で、ここにあの土堀をつくったから流れてこないって言われても、その前にさ、浸透しやすいから流れてこないって言われたって、今どういう状態で流れてきてるって説明してるんでしょ、これ。

事業者

流れてるというよりも、水の流れがこの方向で流れますよっていうことで、実際にその川

のようにその斜面を流れるっていうことは基本ないと思ってはいるんですね。

参加者

そうだと思うんだけど、こういう状態でもって、この状態をこのように改善し、このように管理するから大丈夫だっていうことですよ。でも、0 じゃない。

事業者

それを土手であるとかその柵で仕切りを設けることで、我々が計画する敷地内について、我々は責任を持ってその対策をしますよっていうのが趣旨です。

参加者

説明で、上から敷地から土砂、水とかを流さないことはある程度理解できたんですけど、今度、この調整池を作って浸透させました。その水ってのはどこに行くかっていうことまでは考えているんですかね。すごい素人の考えなんですけど、例えば、まっすぐなところで池を作って浸透させますっていえば、真下に行きますよね。でも、ここって斜面なんですよね。この浸透した水がこの下にある。この浸透した水が今度下を流れて、下の家のある土地の地盤のところに水が流れてくんじゃなかったっていう考えだと思うんですけど。で、今までだだ漏れだったのを、これだけの広い土地の水を全部1か所に集めますよと集めて浸透させました。じゃあ、その集まっただけの水が真下に行くっていうよりも、普通の人の考えだと、この坂を下ってくる、そうすると、その下に、そのこの池の下に家があるのはわかっていますよね。何軒も並んで、で、グラウンドがあって、その下にもまだ家があったりするんですけど、その水ってのは安全にちゃんと下に流れていくんですか。上から流さないからって言って、これだけのところに集めて、その水がきちんと下に行くっていうことがわからないと、じゃあ、下に住んでいるものは、じゃあその水が今度地面を通って下に行った時に、地盤がぐにゃぐにゃになっちゃうんじゃないかっていう不安があるんですけど、そこについてはどういう風にお考えでしょうか。上から流れさせないっていう対策はすごい立ててくれてると思うんですけど、これだけの水を、今までだ漏れだった水を1か所に集めて、そのまま真下に流しますって。じゃあその水はどこに行くんですかっていう不安があるんですけど、それはどういうふうに考えていますか。

事業者

基本的に水の浸透っていうのは、じわじわじわ時間をかけてすごくゆっくり浸透していくんですけども、例えば、今、例えばおたくの方が、下の方にお家があって、溜まった水がこうやって地下水から出てくるかっていうお話だと思うんですね。

参加者

地下水なのか。簡単な話ですけど、斜めに行くっていうか、考えだと思うんですよね。水って高いところから低いところに行くんで。

事業者

ただ、その、それが、その水、水みたいなのが、すごいぐちゃぐちゃな水が泥になっちゃうってことはほぼほぼありえないです。で、必ず地下にずっと時間をかけながら染み込むんですけども。これちょっと私の経験で申し訳ないんですけど、高速道路でよくがそこら中にありますよね。あれって浸透調整池と同じような考え方をするんですけども、それで他のうちがぐちゃぐちゃになっちゃったとかいうのはまずありえないです。常に水が溜まってるのに、池ではなくて、雨が降るたびに、じわじわ、じわじわ、ゆっくり染み込むので。

参加者

その、しみ、じわじわかけて、染み込んだ水がどこに行くのかが、大丈夫ですって言われても。

事業者

そうですね。そのお気持ちはよくわかるんですけど、ちょっと土木工学的になるんですけど、高水層って言って、第一被圧層って、土の10メートルぐらい下までは、要はちょっと土起こすからニュートルか水が出てくるとかいうのがあると思います。ああいうところで貯められるんですね。そこはまた時間をかけてどんどん、大体同じような形になってると思うんですけども、それがここに、近くに池があるから、こっちから水がとぼってなったっていうのはまず考えられないと。

参加者

もし仮にですね、池作ったために水が出たような時には何か対策はするんですか。

事業者

はい、そこで今おっしゃったようなことを見たことは私も経験したことがないんですけども、例えばそこで、じゃあ、ここからなんか水が出てきたよって言ったら調査員を使って、なぜ、この水はどっから来たんだろうっていう調査はさせていただきます。おっしゃられることは私もなんとなくご不安のところもわかるので。例えば、僕らが土木で工事した時に、井戸が枯れちゃったっていうのがあるんですね。で、井戸が枯れちゃった。じゃあ、その原因って、水脈、土の中の水ってどういう流れをしているかってなかなかわからなくて。で、そういう調査をかけさせていただきます。なので、直接的な影響がもし出たっていうのであれば、その対策は我々はしなくちゃいけない、それは責務だと思っています。

す。

参加者

じゃ、それを保証してもらえるわけですね。

事業者

保証というか、その、何が原因であったか。それを調査して、それが、じゃあ我々のもので原因だったっていうのが判明するのであれば、もちろんそれに対策保証っていうのはしなくてはいけないと思っています。

事業者

あともう1つですね、このA4版の資料の方の18枚目の方にですね、先ほども説明の方はさせていただきましたが、調整池の内側の斜面の部分ですね、そこをどういった処理をするかっていうところで、我々ですね、基本2種類の対策っていうことで考えております。基本的にはですね、その周囲に関しては、種子吹き付けて言って、植物の種を巻いてですね、それが目をふいて、草になるっていうことで、その調整池の斜面自体が崩れないように保護をするっていうことで考えてはいるんですが。もう1か所ですね、今、直接雨が降った時に、敷地内に水が入って影響を及ぼされてる、っていう話がありましたので、そちら側の面に関しては、そこに書いてあるモルタル吹き付け、要はこれ水通さないんですね。

これ、モルタルって皆さん何かご存知ですか。コンクリートっていうのはセメントと砂と石と混ぜて作るんですけど、モルタルっていうのは基本コンクリートみたいなものなんですけど、石が入ってないんですね。セメントと砂と水で作る。で、それで、なんて言いますか、自由にこののり面に塗ると言いますか、っていうことで、要は外に水が流れ出ないような、そこで一応止水をするということで、そういったことで2種類の使い分けをしています。で、先ほど、万が一何かあった場合にはってことで、それはもちろん調査はさせていただきます、もし何かしら原因がっていうことであれば対策っていうのは取らないといけないと思うんですが、少なくとも今現時点で我々としてもその辺については考えているところはあるまして、そういった意味も含めて、お宅側の面に関しては、モルタルの吹き付けでもう完全にその面から外側に対しては水が浸透しないと言いますか、下に流れる部分と、あと3方向に関しては水がじわじわと流れる。ただ、そのお宅のある面、モルタル吹き付けをしている面に関しては、流れる水が0とは言わないんですけれども、下から回ってきたり3方向から回ってきたものが多少なりとも、水っていうのは地下の中っていうのは一緒ですんで、多少なりと回ってくるってことはありますが、少なくとも目に見えてる部分で影響のありそうなお宅側の面については、モルタルの吹き付けをすることで完全に止水をして、水が浸透しにくいっていう構造は取っています。

参加者

上のことはやってくれるってことがわかってて安心するんですけど、これだけの水を、この今までだだ漏れだった水をここに集めて下に落としますか、浸透させますっていうのがそこが今度は、その池を作ったことによって、水が今度下から外に出るってことが不安になってくる。

事業者

先ほどご質問があったように、何かがあればその因果関係は調べます。

参加者

でも、何かあってからじゃ遅いんじゃないですかね。家がたってるところで。

事業者

水が吹き出すとかはないです。崩れてダムが決壊みたいじゃなくて、ここ掘ってあるんで、それが決壊するのってないのと、あともう1点、我々、カメラで監視しています。池の方を定点的に観測ができるような形にして、例えば雨がどれぐらいで染み込んだのかとか、あれ、水がちょっと溜まってなかなか染み込まないとかっていうのは、我々がこれから20年間はずっとそれを監視し続けますので、その部分で何かおかしいことがありましたとかいう時は、適宜近所の皆様にご報告させていただきます。

参加者

去年の隣の地区、上の東山地区で、パネルの条件は違うんでしょうけど、水槽があって、たまたま空き家だったからいいんですけど、そこに全部水が流れ込んで、保障されたから、人が住んでいてなかったからよかったんですけど、保証してもらったからっていうことで大問題にはなってないと思うんですけど、何かあった場合には保証とかちゃんとしてもらえればってなんですけど。

事業者

原因を調査した上で、我々の設備がそれに対する被害を与えたっていうのはもちろん保証しなくてはいけないと思っております。

参加者

質問ですけどね、こうやってみんな、水のことじゃなくて、みんな心配してるわけですよ。ほんで、ボーリングをしないでね、水がひけるって言うけども、そんな話はないんですよ。ボーリングして、これこれこうやったら、ここに瓦礫層があって、こっから閉め

てっからと、隣のうちはまき上がってこれませんよとかいうのは説得力あるけれども、何もしなんだよってね。それで、それ大丈夫だ、溢れない、水は出しませんなんて、そんなおたくさんの想定の通りには今の気象条件ではいけないと思うんですよ。だからね、そんだけ自信持っているんだったら、ボーリングをして、こういうわけでボーリングしたらこれだけのこういう地層だから大丈夫ですよとか言うなら、みんな納得できると思うんですよ。けども、ユンボでいくらでもほじくって、下石引いて、コンクリートで固めたから水はあふれませんなんて言ったって、そんな簡単なもんじゃないと思うんですよ。

事業者

必要とあれば、例えばこの池が想定外にあまりにも排水槽があって水が染み込まない、ちょっとおかしいなっていうところは、例えば普段のあれで、水が溜まっちゃってるようなことが起きるのであれば、もちろんボーリングをして、どういう原因かっているのを追求しますし、それはやります。ただ、今のところ、もう明らかに災害級の雨が降っても受け入れられる池であれば、その様子をちょっと見ながらっていう形でボーリングっていう、そこまでやっても、結局ボーリングをした場合って、その透水するための工事っていうのはちょっと大規模な工事になりますね。そこの下の水を抜く。そうすると、例えば池の水がそこに入り込むと、生活用水で使ってる井戸の水が汚れますとか、いろんなもの、問題が出る、直接下に入れちゃうとですね。さっきの高水層って色々あるんですけど、井戸って多分 50 メーターぐらいほっていて、そういうちょっと問題が出てくるので、そこはまず、何か起きたらではないですけども、今我々は水はまず出ないということを考えてますので。

参加者

じゃあ、水はもう絶対出てこないってことでいいんですか。

事業者

例えば代表者の近所の方とか区長様とかとお話することは可能です。

参加者

災害が起きたら、今も言ったように水路が、水路が水路をやっていると、そういう色々条件あるわけですから。

事業者

もし水が出た場合、対策します。こっから水は出ません。
出ませんっていう覚え書きなりを例えば地区の方で結ぶことは可能です。

参加者

やめた方がいいけど、どうですか。

事業者

やめる方向と話がずっとかよくわからないんですが。

ただ、今の現状のまま何もしなかったら、水はずっと下の方にいきつづけるっていうところで、我々が出さないっていう考え方もちょうとご理解いただきたいです。

参加者

それで、先ほど 17 ページのところに、浸透完了まで 524 m³ やったら 10.7 時間って、時計的にこれが出てるっていうんですけど、先ほどおっしゃった 20 年間で、じゃ、この時間って経時変化はしたんですかね。例えば 1 年経ったら。

事業者

例えば詰まったりするっていうのは、メンテナンスします。

参加者

この 10.7 時間で、現状を作った当時は 10.7 時間なんですけども、これはどのぐらい持つんですか。もつっていうか、維持されるっていうか。例えば、10 年後には。

事業者

基本的に 1 年に 1 回は浚渫をします。初期の機能を取り戻すようなメンテナンス。

事業者

今にも関連するところなんですけど、先ほど、その浸透した水がどうなるかっていう話がありましたが、それにちょっと関連するところで、また皆さん、もしご自宅に戻られたらちょっと電卓をたたいていただきたいんですけど、ちょっと私の方で、今どのぐらいの水の流れになるかっていうのをちょっと計算をしてみました。もしお手元に何かペン等々があれば書き残していただきたいんですけど、今、我々、最大で 524 立方メートルですね、17 ページの方にありますけれども、これがその 100 年確率に基づく雨で、それに必要な本来の調整池の容量よりも大きく取ってます。で、この 524 立米の溜まった水が、これ 10.7 時間をかけて地下に浸透していくんですね。ということで、じゃあ 1 時間あたり何トンの水が地下に浸透していくかっていう話になると、単純に 524 割、10.7 っていうところで、多分 48.97 っていう数字になると思うんですね。で、丸めて大体 49 トン、49 立方メートルの水が 1 時間あたり地下に浸透していくっていう計算になります。この 48.97 っていうのを、じゃあ、その地下に浸透した時に、どのぐらいの水の流れの速さで、地下に浸透していくかっていうことなんですけど、今度ですね、今、我々が今計画しているこの調整地

の 1 番底の面積ですね、底になる面積っていうのが、この、こちらの、A3 の方ですね、1 番後ろ、参考ということで、排水計算書サマリってありますが、そこの中ですね、左の表ですね。1 番左に番号振ってあるんですけども、その 15 番底面積ってあります。その底面積っていうのが、右の方、数字おっていただくと、165.1 平方メートルっていうことになってると思います。これは、その調整池の 1 番底の面積なんですね。で、先ほど計算をした 524 割、10.7 で出てきた、1 時間あたり 49 トンの水が浸透しますよっていう、この量をこの 165.1 で割ると、0.296 っていうことで、これ何を表すかっていうと、1 時間あたり、0.296 メーター、水がその速さで浸透してきますよってことなんですね。1 時間あたり 0.296 ってことは、約 1 時間あたり、30 センチ、水が染み込みますよっていうことになります。ということで、じゃあ、1 時間当たり 30 センチって話になると、例えば、じゃあ、1 分あたりどうかっていうと、その 30 を 60 で割ってやると、1 分あたり 30 センチ。0.5 センチだから、5 ミリですね。1 分あたり 5 ミリ。そのぐらいの速さでゆっくりゆっくり浸透していくっていうことで、そういったところも含めて、今、我々としては、さほどその地下水の流れと言いますか、そこに対しても影響を与えないんじゃないかなっていう風に考えています。ただ、これはもし何かしらですね、問題があれば、先ほどの話の繰り返しになりますけれども、ご報告いただきたいですし、そこで生じた問題に対して、何が原因かっていうのは、我々としても調査をした上で、必要な対策っていうのはとらせていただくということでご理解いただければと思います。

参加者

216、1 時間あたり 19.9。ざっと計算すると、多めに見積もって 80 ミリなんですよ。で、実際にこれどこの天気あるかわからないんですけど、例えば 2019 年の台風 19 号長野県、その時には佐久穂町で 553 ミリの降水量があるわけです。そのぐらいのものがあるのに、例えば 80 ミリしかできないです。ここはどういう風にお考えですか。

事業者

降雨強度 100 ミリとか 500 ミリっていうのは降雨強度なんですね。雨量ではなくて、雨の降る強さなんですよ。重要なのは、その強さの雨が何分降り続けたかなんですね。何分降り続けた結果、何ミリ溜まったのかっていうのが量なんですけども。今のその 500 何ミリっていうのが強さなのか量なのかっていうと、総雨量ですかね。こちら、雨の強さの気象庁から出してる表なんですけど、目安なんですけど、例えば、10 ミリとかだと、ざーざー降るとか。で、今回見てる 80 ミリだと、滝のように降る、息苦しくなるような圧迫感があるとか、そういうレベルのものです。なので、まず、500 何ミリっていうのは雨の強さじゃなくて総雨量とお考えいただければと思います。

参加者

このそもそも調整池にどのくらい水が溜まるかっていう、基本は降水量で出してますよね。最大降水量の 80 ミリ出してるんですけど、80 ミリの雨が、調整池にたまった時っていう設計の容量ですよね。

事業者

そうです。80 ミリの雨しか貯められないってわけじゃなくて、80 ミリの雨がこの発電所の中に降り続けた結果の水が 326 m³。372 は池の容量で、雨の量で言うと 326。

参加者

だけど、実際に 2 日間で、2 日とか 3 日で、550 の雨が降るってことがあるんです。

事業者

その辺に関してはですね、なんて言いますか、雨っていうのは多分そういう台風の話だと思うんですけども、多分その 1 番雨が降る時間帯っていうのが、なんて言いますか、1 番その接近した時間から遡ってと言いますか、両サイド、多分 2、3 時間とかそのぐらいが多分 1 番強く雨が降って、その後っていうのは多分台風が過ぎた後ですから、雨量っていうのは多分小さくなると思うんですね。で、今のお話だと、ちょっと我々もまた確認はしますが、553 ミリっていうのがその 3 日間で降った雨だとして、今我々はですね、何をやってるのかっていうと、雨が 1 番強く降ったその時間帯を境にして、その前後、1 番その調整池の容量が必要なところをですね、ピンポイントで見計らって、その雨量に対して必要な池の大きさっていうのを決めています。ちょっとこれ難しい話になるかもわからないんですけども、もう一度ですね、ここの A3 のですね、先ほどちょっと表の方で、池の面積がどうですかっていうところでちょっと見ていただいた表があるんですけども、今度はですね、1 番最後ですね、こちらの A3 の 1 番最後の、そこのですね右側にグラフが 2 つあると思うんですけども、これのね、上の方ですね、実際にですね、今回我々計画するあの施設のエリアっていうのは、その全域に同じ雨が降ったとしても、結局、その 1 番その調整池から遠いところから流れてくる水っていうのが、ゆっくりゆっくりその地表を渡ってですね、で、調整池までたどり着くまでいくらかその時間があるんですね。で、さらに、流れてくる間にも地面に浸透する水もありますから、その浸透する水っていうのは差し引いて、ダイレクトに直接調整池の方に流れてくる水の量で、なおかつ、調整池自体からその地下の方に、先ほど毎分 5 ミリって言いましたけれども、ゆっくりゆっくり浸透していく量も含めてですね。そういったものを全て加味して、この右上のグラフがどういうグラフかっていうと、実際に雨が降り続いた時間と、その時間おきに、時間ごとに実際に調整池の方に流れ込んでくる雨量ですね、それをグラフにしたものです。で、ここの、その上に、0 から始まって、大体どれぐらいかな、200 分ぐらいですかね。要は、3 時間ちょっとかかったところで、1 番その調整池に流れ込んでくる雨水の量って

というのはマックスになって、そこってというのが、要は、台風が1番接近した、1番その集中的に雨が降った時の値なんです。で、台風ってというのは、過ぎ去った後、今度、雨の降雨量ってというのは、だんだん、だんだん小さくなってきますから。しかも、調整池自体がそのキャパシティってというか、容量持ってますんで、時間が過ぎるごとに実際に調整池に入ってくるというか、水の量ってというのはやっぱり少なくなるんですね。ってということで、我々が今何を元に計画をしてるいかっていうと、ここの1番上にとがってる部分ですね、ちょっと印ついてますけれども、ここが1番調整池に水が入ってきて、調整池の容量として確保しないといけないっていうところで、なので、ここの値ってというのが、先ほどのA4の16ページの方に書いてある326っていう値になります。ってということで、実際にどんな雨が降るかっていう、その想定している数字ってというのが、100年確率に基づく215分で19.9ミリの雨が平均的に降る、これが集中的に降る。で、台風等が過ぎ去った後ってというのはこれよりも小さくなるんで。ただ、実際に敷地内に降った雨ってというのは、その場所場所において調整池から近かったり遠かったりっていうのがあるんで、近いところの水ってというのはすぐに調整池に入ってきますけれども、遠くにある水ってというのは、ゆっくりゆっくり調整池に流れ込んでくるっていうのがありますから、そういったところも全て加味して、時間ごとにどれぐらいの池、調整池の容量が必要かなっていうのをグラフにした時に、その1番上にとんがってる部分ですね、その部分の容量を確保しておけば、基本的にはその後についても、なんて言いますか、調整池の容量としては確保できてるっていう、そういう計算の流れで進めています。で、さらに、実際には、このグラフ上で必要な容量ってというのが326立方メートルなんですけれども、我々としては、実際には372立方メートル確保しています。で、さらにその上に60センチの余裕があるんで、それも含めると524立方メートルということで、基本問題なく水ってというのは貯められるっていう考えであります。

参加者

あとですね、ちょっと考えなければいけないのが、上に20号線があって、その上の山ですね。山からの水って、沢水ってのは結構流れてくると思うんですよ。

事業者

その部分に関しては、基本、我々その国道に多分側溝走ってると思うんですけれども、その部分で、国道よりも山川の水ってというのは国道の側溝で処理をしてるということで理解しております。なので、この5ページのところにも書いてありますけれども、水の流れとして、先ほど森の方から流れてくる水ってということで矢印入ってますが、国道側の方にもちょっと2本ほど矢印入ってると思うんですね。で、この矢印ってというのは、その山側から入ってくるっていうことではなくて、あくまでもその山側の水ってというのは国道の側溝で一旦その処理をされてるということで、側溝よりも我々の敷地側の水が入ってく

るという前提でこの矢印を書いております。なので、そこに関しては森の部分の考え方と一緒になんですけれども、周囲をその鉄柵であるとか、あと土手ですね、土手で囲うことで、基本、外から入ってくる水っていうのはそこでシャットダウンをするということで、あくまでもその敷地内に降った雨を処理をするというところで計画をしています。

参加者

ここに住んでる人たちの話を聞くと、その敷地の水路

事業者

おっきな水路ですか。この黄色いの、これですね。これは、雨が降った時にその畑の周囲の水が流れ込んできて、この土側溝に水が流れてるっていうことであって、雨が降っていない時も水が流れてるっていうことではないと思います。

参加者

大きい数字を、例えばその 17 ページで、524 m³を 10.7 時間かけて浸透させますよっていう。逆に、大きい数字を言われれば言われるほど、真下に住む人間はどれだけの水が下に流れてくるんじゃないかと。例えば 1 時間に 48.97 m³の水が下に沈んできますよってなって、0.5 ミリ水が下がりますよ。その水が横に流れてくんじゃないかっていう不安に大きくなればなるほど。

事業者

まず、前に、まだ 30 年とかじゃないよとか 100 年に一度があるよっていう話した上で、それでもさらに持つよっていうところなので、例えば、今、これ実際 200 年ぐらいの確率やってるんですけども、ちょっと数字が大きくなって過大な表現にちょっとなってるところはあります。

参加者

このぐらいの処理できますって言われれば言われる。

それだけ入る余裕があるんなら、その水が下に流れてっちゃうんじゃないっていう具合も今度逆になっちゃう。

事業者

ただ、100 年に 1 度のその災害が起きた時は、全国ですけど、避難指示がそこらじゅうに出てるので、皆さんもうそっから避難してくださいって話にはなってると思います。なので、それほどの災害が起きた場合でも、水は溜まりますよと。

参加者

それだけの水が真下にあるっていう。真下を流れるけど、結局は浸透された水も下に流れてるんですよね。

事業者

現状の場合だったら、100年に1度だったら、もうまさにそれが真ん中の川のようなもので一気に流れてる状態です。我々がそこに作ったところは、少なくともそれは我々の事業地内で受け止めますっていう話です。

参加者

上のところで、自分たちのところで処理させますって言ってますが、じゃ、浸透しちゃった水のことまでは知りませんよって言われちゃう。

事業者

先ほどお話した通り因果関係があるのであれば、調査して対策をします。

参加者

大きい数字を出されちゃうと、その大きい数字が、今度はそれだけのものが自分ちの下を通ってるんだって思うと、それが不安になっちゃうんで。

事業者

小さい数字だと大きく説明して下さい、大きい数字だと小さくして下さいなので、そこは、ご了解いただきたいです。

事業者

本来はですね、前回説明させていただいた通り、30年確率で計算はさせていただくんですね。で、我々もその想定の下で、設定の下で他の施設等々も今運用させてはいただいているんですけども、ただ、実際、その前回の話からすると、前回お見せしたあの時は、水位が多分50センチだったと思うんですけども、基本、それでも問題はないっていうことではあるんです。ただ、実際、そのこの辺りはですね、皆様のご不安というのも、我々としてどういうふうに対策をさらに取ることができるのかできないのかっていうところで、実際、その30年確率で問題はないんですが、実際に、特に今、我々コンクリートブロックで保護する、保護するというか、現状の問題に対して対策を取るっていうところで今回お示しはしましたけれども、じゃあ実際それで足りるのかどうかっていうところもやっぱ社内の中で色々議論にはなりまして、じゃあその30年確率50センチの水深っていうところに対してどれほどその皆様のご不安に思われてるのかっていうところについても、やっぱなかなかそこはおしはかれきれないと言いますか。ということであれば、我々がそ

の出しうるその対策と言いますか手段の中で、これであればもう我々としてももう絶対にその間違いはない、問題はないっていうところで、あえてその 100 年確率いうところで、本当にその 100 年に一回であれば、その通常問題があるかっていうと、そこはもう全く問題はないっていうふうに我々は断言して言えるんですけども。で、他の施設でも 100 年で計画しているところはないんですが、そこに関しては、もう最大限皆さんのそのご不安に対応しなければいけないっていう思いの中で、今回こういったことで計画をさせていただいたというのが事実なんです。なので、これが実際に起きるか起きないかという話になると、100 年に一度の確率で起きる可能性はあるんですが、それに対しても問題のない計画を今回我々としては提案させていただきますというところでご理解いただけるとありがたいです。

参加者

でも、先ほどの 100 ミリの雨が 1 時間が降り続けてたら、そこまで降れば 44 分しか持たないってことじゃ。

44 分があるってことがいっぱいになるまで猶予があるってことは、その後溢れるってことです。

事業者

そういうことですが、あふれる前に多分皆さん避難指示が出てます。

そこで受け止めます。

参加者

それで、先ほど 1 分間に浸透 5 ミリって言ったんですけども、考えてみると、平均って聞いてちゃんと平均ですよ。てことは、最初いっぱい溜まったところが浸透する時間。

へこんでいくのは重力。重さと重力で考えれば、早く多分浸透してしまう。

事業者

それはあると思います。ゆっくり。

参加者

1 分間 5 ミリ。どんどん遅くなってくる。だから、平均で 5 ミリってことですよ。

この 10.7 時間っていう、その浸透する時間っていうのはカラになるまでが 10.7 時間と理解したほうがいいのか。

事業者

そうですね。はい。空になるまで 10.7 時間って話ですね。

参加者

ずっと、少しぐらいは残る、ゆっくりになって残るってことはないですか。

事業者

実際はですね、10センチとか20センチとか、残ることはあると思います。あくまでもその計算上10.7であって、それが本当、完全に0になるかって言われると、10センチ、20センチとか5センチとか。それは残る可能性はあると思います。はい。

参加者

それで、運転開始すると53ページのところ、安定的な運転維持で、遠隔監視システムで24時間365日監視するっていうんだけど、その監視するってのは、第三者的に我々が確認、監視してるかっていうのは、我々は確認できるのか。会社が確認するだけで、信じてくれるっていうことなのか。

事業者

もちろん、例えば、ここでパネルが飛んできました、じゃあどうしてくれるんだってなったら、その映像を見せることはできますけども、普段そこを見られて何かメリットがあればって話なんですけども。

参加者

だから、維持管理をきちんとしてるってことは我々にどういう形で示されるのか。我々はただ信じて、よく現場にあるじゃない。開始してなかったとかいうことが後々、あるんで、果たしてこれ、そこら辺のチェックがすべきなのか。するって言って信じてそれでいいのか。

事業者

ご希望であれば、どういう監視をしてるっていうワードはお見せすることは全然できます。映像もお見せすることもできますし、こういう形でカメラを見てますっていうのもご提供することっていうのはもちろんできますので。

参加者

常にしてるって言ってあなたたちを疑ったわけじゃなくて、世の中がそう言って信じてるものが裏切られることがたまたまよくあるので、果たしてどこまで我々は信じられるか。

事業者

ご興味あれば、もうこういうシステムでこういう構成でっていうのは全部説明できます。
大丈夫です、大丈夫。はい。

参加者

最終的にはさっきおっしゃったみたいに管理していただかないと、異常な気象だとか、それがあつた時にはきちっと対応していただかないと困るので、果たしてその管理がちゃんとしていただくかっていう、その想定外でしたですれちゃうと困るんで。

事業者

それを管理する我々の自社の中にその部署がありますし、全国にそれを配置してますので。ご指摘あつたように、本当にやっているのかっていうのであれば、お見せすることも可能です。

参加者

フェンスの位置とか、その盛土のなんとかっていうのが、写真じゃちょっとわかんないんで、うち、すぐ隣のもんで、現地で、ここにこうできてとか。

事業者

ぜひ一度お伺いして、工事始まる前にこの辺でっていうのはご説明しますので。
はい、ぜひとも。で、ちょっと違うんじゃないかというのがあれば、ご指摘いただければ対応しますので。

参加者

パネル 43 ページのパネル主成分のところで、シリコン、アルミ、ガラスは、多分これ材質だけだと思うんですけど、土壌、水質汚染とか発癌性や神経毒性が発生して、処理するときには有害物質を発生し、動植物や生態系に影響することは否めないようなパネルなんですけど、今度使用するパネルはそういうことは何もないんですか。

事業者

鉛が 0.1 パーセント、それ以外のものは入っておりません。

参加者

じゃあ、今までの、従来の、変なことってのはない。

事業者

そうですね、最新式のものを使っておりますので、そういった有害物質、その 1 番少ない

ものを使っております。今のところ、毎年水質検査はさせていただこうと思っております。

参加者

このコンクリートブロックってのは、高さどれくらいなんですか。2段ですね。

事業者

はい。下にステコンで。あんまり高くなるとどどめになってしまうので。2段で問題なさそうですか。

参加者

いや、この逆の方の勾配がちょっとわかんない。

事業者

ちょっと見ていただいて、これじゃ足んないよっていうところはまた言っていただければと思います。適時、現場の方で対応します。

参加者

ちょっと住宅の方から聞いた話なんですけど、なんか書類を持ってこられて、で、最初は拒否していたんだけど、しつこく夜も来られて、判子を押してもらいたいっていう話があって、その書類の内容もわからずにハンコを押したっていう方の話があったんです。

事業者

夜、夕方ご訪問させていただいてる、直近のところの多分ご住宅の方ですよ。3件いらっしゃると思いますけれども、そうですね、夕方、ご捺印押してくださいというお話をさせていただいて、書類とご説明は、すいません、させていただいたつもりでございしますが、もし、そういう風に思われてるようであれば、また改めてご説明させていただいて、こういう書類でしたというところはお話しさせていただきたいと思います。

参加者

その方が、どういうの書類にハンコ押したのかもわからずに、で、そのまた書類を返してくださいっていう風に言ったそうなんですけど、全然その書類も返ってこないとか、どういう内容のものだったなんていう回答もないという話。

事業者

すいません、私の認識が間違ってると思いますので、速やかに言ってご説明とお詫びしたいと思います。

参加者

そもそも、そういうやり方でハンコ押させるというのは。

事業者

説明はさせていただいて、ご理解いただいているという認識ではございました。

参加者

いや、その、理解していないんだと思う。

事業者

すいません。そこは私の責任。

参加者

それはもうあれじゃないですか。白紙に撤回すべきじゃないんです。

事業者

ご説明させていただいて、ご理解いただけてきたいと思います。

参加者

それは一旦白紙にして、もう1回テーマを説明をして。

事業者

はい、そうですね。ご説明あがってきます。はい、そうですね。おっしゃる通りだと思います。

参加者

お願いします。

参加者

ちょっといいですか。53 ページの方のところでちょっと今質問しますので。
このところで24 時間365 日の監視って書いてありますけども、これは長野でやってるわけですか。

事業者

24 時間の監視は本社、東京の方で行われそうですね。カメラとデータを常に送信してるの

で、そこで人がずっと見てるわけではないです。何かが起きた時は松本市からそこに対応する人間がいます。

参加者

それでね、今盗難が多いじゃないですか。それで、盗難は夜起きて盗んでるわけですよね。それで、発電するようになってから異常がわかるわけですよね。夜でもわかるんですか。

事業者

夜は発電してない時はわからないです。何を盗まれるかによってです。

参加者

そうすると電気が送るようになってから異常が発生したって言ってアラームが鳴るわけでしょう。それで近所の人たちは迷惑にするとか、そういうことはないですか。

事業者

ごさいません。今多いのは発電所の銅線ケーブルなんですけども、そのケーブルが盗まれた時に、例えば発電した時に電気がおくれなくて、ブレーカーみたいな、バチンと落ちてるんですね。なので、そこでご迷惑をかけるとか、そこで火花が散るってことはまずあり得ないのと、今、泥棒が多く私どもの会社もだいたい盗まれていまして、その対策をしています。その対策っていうのは、銅ではないアルミケーブルっていいですが、同じような胴体なんですけど、かなり太いのと、泥棒は銅が高く売れるから盗んでいくので、アルミだと盗みづらい、盗まないっていう風な対策してますので、今回も主要ケーブルにはアルミケーブルを使います。ですので、泥棒が来ないように、ここはアルミケーブルを使ってますって、その表示もして、無駄なことはしないでくださいっていう表示もしております。

参加者

電源が入ってればって、24 時間監視って、24 時間電源入ってんじゃないの。

事業者

24 時間カメラで監視し、データは発電したときにデータが送られるので。例えば、人が入った時に、門が開けられたっていうセンサーをつけて、そこで発砲するっていう装置を作るんですけども。電氣的に発電してるっていうセンサーの監視っていうのは、発電してる時しかしてません。カメラは 24 時間録画しています。

参加者

24 時間っていうのは、カメラでの監視のこと。

事業者

録画もはしてますし、門を開けられた時も発砲装置がつきますし。で、例えばケーブルが盗まれてた時は、そもそも電気が送られないので、アラートはすぐに来ますし、っていうところです。で、例えばそこで何か爆発が起きたとか、そのようなことっていうのは、基本的にありえないシステムが含んであるんですね。なんで、我々がただただ盗まれたら痛いだけということになります。

参加者

先日鹿がでかいの 5、6 頭あそこの畑のそこだっとながって移動してたけど、それで大丈夫ですか。

事業者

はい。鹿は入ってこないようなフェンスができます。北海道にも我々いっぱい発電所あるんで、あれよりでかいエゾシカもいますので、今のところ破られたことはないです。

参加者

これビデオで撮ってるんですね。そうですね、県にも行くわけ。

事業者

こちらはですね、国の方で要望があった時に見せなさいという、1 回我々の方で持ってて、国から要望があった時に国の方に提出するものでございます。

参加者

御社じゃないんですけど。出資者が予定になってるところの説明会をしたって出資が未定である状態では説明会を開いていいものかっていう疑問があって、その県とか国が。この説明会ってのは、そういうものがきちっと設定された中で説明会を開くべきじゃないかと思う。出資者が出資しない可能性は 0 じゃないので。問題が起こることも想定されるので、問題がない状態で説明会をスタートさせる段階でスタートさせるべきじゃないかと。本社が悪いわけじゃなくて、開かせてる方に。そのビデオで撮られているから、一言。

事業者

かしこまりました。大阪ガスと我々で出資しています。この発電所の出資。買い取りが[]を經由して[]の需要家さんのところになります。

参加者

その会社も今回の説明会の内容ってのは。

事業者

説明会の内容自体は特に共有する予定は今ないです。ただ、この計画はこういう形だということのご説明はさせていただきます。

参加者

でも、買い取りの会社がやっぱりある程度こう承知してないとまずいじゃないですか。

事業者

そうですね、今回の設備に関しては、もう太陽光発電所の所有者である私たちと大阪ガスさんの方でしっかりと管理をしていくという風な形で考えております。買い取り先が変わったりするんですね。我々はずっと持ち主ですけども、そういうところもあって、多分向こうもあんまり興味がないしっていうところでは、彼らは電力なんだからいくら安く買えるかっていうところになるので、ちょっとその先、我々もちょっとよくわからないんですけど。

事業者

はい、よろしいでしょうか。そうしましたら、ご質問ございましたら、私宛にご連絡よろしく願いいたします。

すいません。本日、遅い時間まで説明会参加いただきましてありがとうございます。